

# 鎌倉・横須賀・三浦・逗子・葉山の神社

—三浦半島127社案内—

# 発刊のことば

神奈川県神社庁鎌倉横須賀三浦連合支部

支部長 國生 護衛

平成十六年に神社庁の鎌倉支部と横須賀三浦連合支部が統合され、本年で十年を迎えた。『双方の良い点を残しつつ、一層の充実を期して新たな支部を作られたのです。

十年という佳節を記念して結成十周年記念事業を望む声が昂まり、三件の事業が計画されたことは、新支部結成が十年という年月を経て、見事な果実を稔らせた証左といわざるを得ません。第六十二回式年遷宮を斎行した伊勢神宮への参拝旅行、支部十年の歩みを刻む記念誌、そして本事業である支部管内全ての神社を網羅するこの神社案内冊子『鎌倉・横須賀・三浦・逗子・葉山の神社』です。

当支部は三浦半島の多くをその中におさめています。社寺仏閣に中世の光を觀る鎌倉、美しい自然で訪れる人々をひきつける逗子葉山、日本近代化の歴史に大きな存在感のある横須賀、江戸よりにぎわう港町と恵まれた畑作地域を擁する三浦など、地域ごとに歴史・伝統・文化の豊かな表情をみることができます。

本冊子は、この支部管内一二七社の全ての神社について、由緒、神徳、信仰、祭事など必要な情報をもたらす記すよう心がけたものです。作成にあたっては各宮司に原稿を依頼し、原文を最大限に考慮し編集を進めました。それぞれの神社の説明は、日々奉仕する神職ならではの味わいがあり、ご一読戴ければ執筆した神職の姿が彷彿としてくる方もおられるでしょう。

神社の歴史は地域の歴史と申し上げても過言ではありません。私たちの祖先が絶えることなく崇敬してきた一二七社に鎮まり坐す御神威。これらの「一社一社」の神社につき、その歴史と現在の姿を正しく残し伝えることは誠に意義深いことです。

この冊子が氏子崇敬者の皆様にとって、地域の神社に更に関心を寄せて戴く一助となり、神職にとっては、祖業を将来に引き継ぐしるべとなれば幸いです。

原稿を執筆して戴いた各社宮司、また企画から完成に至るまで尽力した神社案内冊子委員会各位に対し深く感謝し厚く御礼を申し上げます。



# 鎌倉・横須賀・三浦・逗子・葉山の神社

——三浦半島127社案内

## 目 次

### ＊ 鎌 倉 ＊

地図（中心部）	2
地図（北部）	4
地図（西部）	6
鶴岡八幡宮	4
白旗神社	雪ノ下 8
荏柄天神社	西御門 10
八雲神社	二階堂 12
十二所神社	大町 14
熊野神社	十二所 16
蛭子神社	稻荷神社（五社稻荷神社） 18
五所神社	浄明寺 18
甘繩神明宮	小町 19
小動神社	材木座 20
御靈神社（鎌倉権五郎神社）	腰越 24
	坂ノ下 26

八雲神社	山ノ内 28
北野神社	山崎 30
熊野新宮	極楽寺 32
三嶋神社	笛田 33
天満宮	上町屋 34
駒形神社	寺分 35
八雲神社	常盤 36
子守神社	笛田 37
佐助稻荷神社	佐助 38
稻荷神社（五社稻荷神社）	岩瀬 40
鎌倉山神社	鎌倉山 42
熊野神社（大船熊野神社）	大船 43
厳島神社	小袋谷 44
神明神社（台神明神社）	大船 43
稻荷神社	台 45
神明神社（台神明神社）	台 45
八幡神社（小八幡様）	台 46
白山神社（毘沙門様）	今泉 47

稻荷神社（番神様）	手広	手広	久木	50
熊野神社			五靈神社	
御靈神社（梶原御靈神社）	植	梶原	桜山	51
諏訪神社（お諏訪様）	木	木	沼間	52
神明神社（新明様）	岡	本	山ノ根	53
塩竈神社			子ノ神社	
八坂大神（相馬神社）	台	台	桜山	54
巽神社（巽荒神）	扇ガ谷	扇ガ谷	山ノ根	55
錢洗弁財天宇賀福神社	佐助	佐助	池子	56
水天宮	腰越	腰越	久木	57
龍口明神社	台	台	久木	58
	61	60	久木	59
	62		久木	60
豆知識 手水の作法・お参りの作法			久木	61
逗子	地図		久木	62
地図			久木	63
天照大神社			久木	64
亀岡八幡宮			久木	65
	66	64	久木	66
	68	64	久木	68

## 逗子

豆知識 手水の作法・お参りの作法	地図		
森戸大明神（森戸神社）	堀内	堀内	久木
森山社			久木
神明社			久木
須賀社	一色	一色	久木
杉山神社（上山口杉山神社）	下山口	下山口	久木
御靈神社	堀内	堀内	久木
神明社（木古庭神明社）	上山口	上山口	久木
	84	84	78
	85	85	78
	86	86	78
	88	88	78

## 葉山

豆知識 神様のお使いの動物			
76			

**◆ 横須賀 ◆**

衣笠神社	小矢部	110
諏訪神社	阿部倉町	111
平作神社	平作	112
近殿神社	大矢部	113
若松町	114	
白髭神社	野比	116
住吉神社	久里浜	117
春日神社 (横須賀春日神社)	三春町	118
諏訪神社	大津町	120
八幡神社 (八幡さま)	久里浜	122
御靈神社	佐原	124
御瀧神社	池上	126
坂本町	久村	127
西逸見町	久里浜	128
汐入町	岩戸	130
天神社 (久里浜天神社)	長沢	131
熊野神社	西浦賀	132
天照大神 (長沢天照大神)	長沢	131
叶神社 (西叶神社)	吉井	134
走水神社	東浦賀	136
安房口神社	不入斗町	109
叶神社 (東叶神社)	佐野町	108
八幡神社	深田台	107
中里神社	上町	106
安浦神社	安浦町	105
子之神社	鹿島神社	104
大六天神社	船越町	100
神明社	田浦町	101
諏訪大神社	緑が丘	99
八王子社	浦郷町	97
山中社	浦郷町	96
船越神社	浦郷町	95
大国主社	追浜本町	94
雷神社	追浜本町	92
地図 (南部)	追浜本町	92
神明社 (鈎切神明社)	浦郷町	90

八幡神社（鴨居八幡神社）……………鴨居……………久比里……………142 140

若宮神社

熊野神社（權現さま）……………

住吉神社

八幡神社

八雲神社

八幡社（林八幡社）……………

三浦正八幡宮

十二所神社（三浦十二天）……………

淡島神社

神明社（秋谷神明社）……………

熊野神社（久留和熊野神社）……………

熊野社

祖母神社

三島神社

吾妻社

神明社（長浦神明社）……………

神明社（田の浦神明社）……………

八幡神社（須輕谷八幡神社）……………

浅間神社（三浦富士の浅間様）……………

長井……………143  
長井……………144  
林……………145  
太田和……………147  
芦名……………148  
秋谷……………150  
佐島……………152  
長坂……………154  
武……………156  
長浦町……………158  
長浦町……………160  
須輕谷……………163  
津久井……………164

## ✿ 三 浦 ✿

地図

白山神社

走湯神社

神明神社

神明社（宮川の神明様）

諏訪神社（向ヶ崎諏訪神社）

海南神社（城ヶ島海南神社）

神明社（二町谷神明社）

神明社（浜の神明様）

上諏訪社

若宮神社（若宮様）

白旗神社（神明白旗神社）

日枝神社（高円坊日枝神社）

諏訪神社

飯森神社

白髭神社

海南神社

原稻荷神社

菊名

松輪

毘沙門

宮川町

城ヶ島

白石町

諸磯

三戸

下宮田

和田

高円坊

上官田

飯森

小網代

三崎

原町

188 186 185 184 182 181 180 181 182 183 184 185 186 188

鎌

倉

・建長寺

二階堂

中心部





北 部





西部





# つるがおかはちまんぐう 鶴岡八幡宮

〒248-8588 鎌倉市雪ノ下2-1-31 鎮座

康平六年（一〇六三）

源頼義が奥州を平定して  
鎌倉に帰り、源氏の氏神  
として出陣に際してご加  
護を祈願した京都の石清  
水八幡宮を由比ヶ浜辺に

お祀りしたのが始まり。

その後、源氏再興の旗上げをした  
源頼朝公は、治承四年（一一八〇）  
鎌倉に入るや直ちに神意を伺つて由

比ヶ浜辺の八幡宮を現在の地に遷  
し、建久二年（一一九一）には鎌倉  
幕府の宗社にふさわしく上

下両宮の現在の姿に整え、  
鎌倉の町づくりの中心とし  
た。

また、頼朝公は流鏑馬や  
相撲、舞楽など、今日にも  
引き継がれる社頭での神事  
や行事を興し、関東の総鎮  
守として当宮に厚い崇敬の  
誠を寄せた。

以降、当宮は武家の精神  
のよりどころとなり、國家  
鎮護の神としての信仰は全  
国に広まつた。当宮への信

仰を背景に鎌倉を中心として興つた  
質実剛健の気風は、その後「武士道」  
に代表される日本人の精神性の基調  
となつた。

現在では国際的史都鎌倉の中心的  
施設として国内外より年間を通し  
て数多の参拝者が訪れる。

現在の御本殿は、文政十一年（一

八二八）、江戸幕府十一代將軍徳川  
家斉の造営による代表的な江戸建築  
で、若宮とともに国の重要文化財に  
指定されている。深い杜の緑と鮮や  
かな御社殿の朱色が調和する境内に  
は源頼朝公、実朝公を祀る白旗神社  
をはじめとする境内社のほか、静御  
前ゆかりの舞殿

や段葛が八百年  
の長い歴史を伝  
えている。



御神木大銀杏





丸山稻荷社



若宮



白旗神社



旗上辨財天社



楼門



神幸祭（御旅所祭）



流鏑馬神事



源氏池の蓮

◆  
交通

◆  
御神徳  
連絡先

JR 鎌倉駅より徒歩十五分  
Tel ○四六七一二二一〇三一五  
鶴岡八幡宮社務所

◆  
諸願成就  
鈴虫放生祭

◆  
祭 神  
境内社  
應神天皇・比売神・神功皇后  
若宮(摨社)・武内社・丸山稻荷社  
今宮・白旗神社・祖靈社  
由比若宮・旗上辨財天社  
九月十四日～十六日  
十四日 浜降式・宵宮祭  
十五日 例大祭・神幸祭  
十六日 流鏑馬神事  
鈴虫放生祭

# しらはたじんしゃ 白旗神社

〒248-0004 鎌倉市西御門2-1-24 鎌座



鶴岡八幡宮の東側に  
源頼朝公が幕府を構えた  
大倉と呼ばれる地域があ  
る。そして、その北隅の  
大倉山の中腹には源頼朝  
公の墓があり、段下の法  
華堂旧跡には、頼朝公を御祭神とす  
る白旗神社が鎮座している。法華堂  
は正治元年（一一九九）一月十三日  
に没した頼朝公の廟所だが、当初守  
本尊の誓（もとどり）観音を祀る持  
仏堂であつた。この觀音は二寸ほど  
の銀像で、頼朝公は石橋山  
の戦に兜に取りつけ出陣し  
たが、岩穴に安置して逃げ  
ることとなつた。しかしそ  
の後伊豆山の僧がその像  
を見つけ届けてくれたの  
で、頼朝公はその靈験に感  
激し、座臥から離さなかつ  
たと伝えられている。『吾  
妻鏡』の建暦元年（一二一  
一）十月十三日条には鴨長  
明の参詣が記され、堂柱に  
「草モ木モ靡シ秋ノ霜消テ  
空キ苔ヲ払フ山風」の一首

鶴岡八幡宮の東側に  
源頼朝公が幕府を構えた  
大倉と呼ばれる地域があ  
る。そして、その北隅の  
大倉山の中腹には源頼朝  
公の墓があり、段下の法  
華堂旧跡には、頼朝公を御祭神とす  
る白旗神社が鎮座している。法華堂  
は正治元年（一一九九）一月十三日  
に没した頼朝公の廟所だが、当初守  
本尊の誓（もとどり）観音を祀る持  
仏堂であつた。この觀音は二寸ほど  
の銀像で、頼朝公は石橋山  
の戦に兜に取りつけ出陣し  
たが、岩穴に安置して逃げ  
ることとなつた。しかしそ  
の後伊豆山の僧がその像  
を見つけ届けてくれたの  
で、頼朝公はその靈験に感  
激し、座臥から離さなかつ  
たと伝えられている。『吾  
妻鏡』の建暦元年（一二一  
一）十月十三日条には鴨長  
明の参詣が記され、堂柱に  
「草モ木モ靡シ秋ノ霜消テ  
空キ苔ヲ払フ山風」の一首

七）六月五日条には、宝治合戦で三  
浦泰村ら一族五〇〇余人が法華堂に  
籠り、頼朝影像の前で往時を語り自  
害したとみえる。

鶴岡八幡宮の供僧「相承院」が奉  
仕し祭祀を続けていたこの法華堂



は、明治初年に墓と分離され、新たにその跡に白旗神社が創建された。現在、境内地は法華堂旧跡として国指定の史蹟に指定されており、源氏に因む白い祈願旗が崇敬者より多数境内に奉納されている。

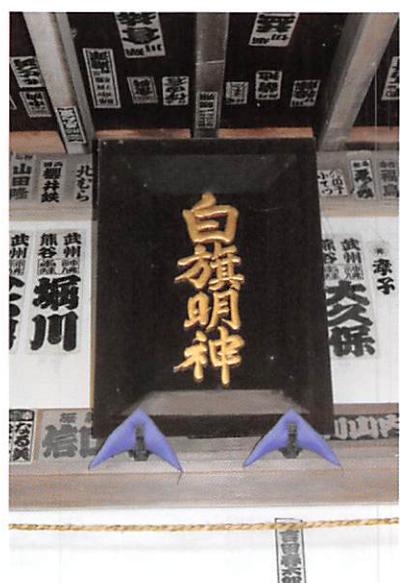
（宮司 吉田茂穂）



源頼朝公墓



法華堂跡碑



扁額



	文		通		祭		神
連絡先	例	御	御	德	祭	神	祭
鶴岡八幡宮社務所	祭	神	德	勝	勝	成	功
JR 鎌倉駅東口より徒歩十五	一月十三日	勝	運	成	運	就	就
TEL ○四六七一二二一〇三一五		勝	運	成	運	就	就

# えがらてんじんしゃ 荏柄天神社

〒248-0002 鎌倉市二階堂74 鎮座



古くは荏柄山天満宮とも称された。荏柄の社号は、天平七年（七三五年）の『相模国封戸租交易帳』などに見える「荏草郷」の「えがや」が後に転じて「えがら」となり、「荏柄」と表記されたものと考えられている。

また、長治元年（一一〇四年）晴天の空が突如暗くなり、雷雨とともに黒い束帶姿の天神画像が天降り、神験をおそれた里人等が社殿を建ててその画像を納め祀った縁起に始まる。

関東を中心に各地に分社をもち、福岡の太宰府天満宮、京都の北野天満宮と共に三古天神社と称される古来の名社である。

治承四年（一一八〇年）鎌倉大蔵の地に幕府を開いた源頼朝公は鬼門に鎮座する当社を仰ぎ、更めて社殿を造立された。



御神木・大銀杏

以後、歴代の将軍家を始め、鎌倉幕府の尊社として篤く崇敬され、「吾妻鏡」には二代將軍頼家が大江広元を奉幣使として菅公三〇〇年忌を盛大に執行された事など、社名がしばしば記されている。

斯様に中世より特に崇敬された当社は、足利、北条、豊臣、徳川の各氏によつても守られ、さまざま寄進を受けて近世にいたつた。

現在では学問の神、正直者、努力を重ねるもの助ける神として年間に多くの方々が参拝され、社殿はいつも「祈願」「お礼」の絵馬で覆われている。

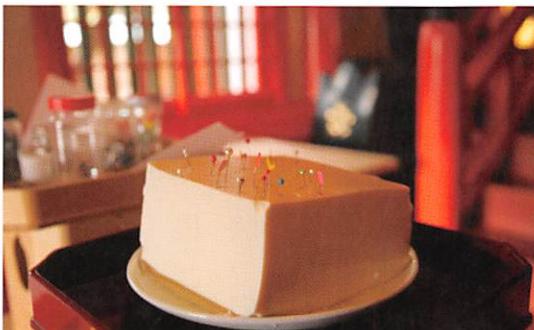
（宮司 吉田茂穂）



梅と社殿



筆供養



針供養



繪筆塚



境内雪景色



神輿

連絡先  
文通

荏柄天神社社務所  
TEL〇四六七一-二五一一七七一  
JR鎌倉駅よりバス「大塔宮」  
行「天神前」下車三分  
鶴岡八幡宮より徒歩十分

記事  
御神徳  
境内社  
祭  
菅原道真公  
熊野權現社  
七月二十五日

芸道上達  
梅やシャガなど四季を通して  
色々な花が楽しめる。また繪  
筆塚があり、多くの画家や文  
化人からも崇敬を集め、学業  
成就だけではなく、諸芸全般  
への成就を祈願する参拝者で  
賑わっている。



東帶天神像

# やくもじんじゃ 八雲神社

〒248-0007 鎌倉市大町1-11-22 鎮座



平安時代永保年中（一

○八三頃）源新羅三郎義

光公の勧請と伝える。後三年の役に奥州鎮護の任に当った兄八幡太郎義家

公の苦戦を伝えられた義

光公は官職を辞して助勢に赴く。その途次、足柄山を越えて鎌倉に入る

と、此の地に悪疫が流行し里民が難

儀しているのを憂慮され、厄除の靈

験あらたかな京の祇園社を勧請し、

産土神として尊崇せしめたところ悪

疫たちまち退散し、里民は難を救われ安堵したとい

う。これが当社の起源であ

る。

応永二十九年（一四二二）

十月十三日佐竹入道家督の

事に付き管領足利持氏の不

審を蒙り上杉氏の討手によ

り比企谷の法華堂にて自害

した佐竹一族を祀る靈舎が

佐竹屋敷蹟にあつたが後年

大破の折、神慮を伺い相殿

の神として祀つた。以後佐

竹天王社とも称された。ま

た神社の神輿四座の内一つを佐竹天王と伝えている。

室町時代宝徳年中（一四四九～一

四五二）足利成氏公開東管領の頃は

毎年祭礼に神輿を公方屋敷に渡し神樂を奏し奉幣の式があり、公方様御一家は棧敷を構えて御見物するを例

としたことが「鎌倉年中行事」に見える。

戦国時代小田原北条氏五代・氏直

公は、天正十四年（一五八六）六月

大道寺駿河守をして、当社の祭礼に

際し不敬不礼の者は権門の者といえども嚴科に処すという狼藉を禁じた

虎の朱印禁制状を下賜された。

慶長九年（一六〇四）三月、徳川

家康公は当社に永楽五貫文の朱印地

を下賜され、以後代々の徳川將軍家

より朱印状が下付された。

社号は鎌倉祇園社又は祇園天王社

とも佐竹天王社とも称されたが、明治維新により八雲神社と改称された。明治六年十二月村社に列格。大町の氏神と定められ、明治四十年四月神饌幣帛供進神社に指定された。

社殿は元禄七年（一六九四）に建立した社殿を安政二年（一八五五）

四月に改めて新築したが、大正十二

年九月の関東大震災により倒壊し、

昭和四年七月新規造営された。

境内入口の石鳥居をくぐるとすぐ

左側に市指定民俗資料の庚申塔があ

る。寛文十年（一六七〇）の銘があ

り阿弥陀像に山王二十一社と記さ

れ、唐破風の笠付きの塔形式のもの

では鎌倉で最古のもので山王二十一

社と記されているのはこの塔のみと

いう。

境内にはクス・ケヤキ・イヌマキ・

アカガシ・ビヤクシン等市指定保存

樹木が立ち、境内中央の樟の根元には二個の力石があり新羅三郎手玉石と語り継がれている。

神社の裏側は切り立つた岩壁で、

社殿右手奥に細い山道があり祇園山ハイキングコース入口になつてい

上からは海を含め鎌倉の市街の大半

が眺められる。  
〔宮司 小坂周防〕

#### ◆御祭神

須佐之男命・稻田姫命

八王子命

配祀 佐竹氏御靈

JR鎌倉駅東口から徒歩十分

諏訪社 建御名方神

稻荷社 宇迦之御魂神

於岩稻荷社 於岩様

御嶽三峰社 櫛眞知命 伊邪

那岐命

伊邪那美命

#### ◆文化財

●庚申塔一基 寛文十年銘（一六七〇）

昭和四十年三月鎌倉市文化財に指定

●古鏡一面（懸佛）貞和五年（一二三四九）

銘觀音菩薩御正体として平成十七年

十一月、鎌倉市文化財に指定

#### ◆宝物

●神輿四基（一社寛保二年（一七四二）、三社萬延元年（一八六〇）造営）

●古文書（佐竹義人書状一通・小田原北条氏虎印禁制状一通）

●古面一面（鯉口神楽面）

●宝剣一口

●例祭 七月七日～十四日の間の土・日・月

土曜日 例祭 神幸祭

日曜日 神賑（演芸）

月曜日 還幸祭

●特殊神事 御神徳 災難除  
諸願成就

一月六日新年初神樂（湯花神樂）

# じゅうにそうじんじゃ 十二所神社

〒248-0001 鎌倉市十二所285 鎮座

社伝によれば「弘安元年（一二七八）の創建と伝える。もと光触寺境内にあり「熊野社」あるいは「十二所權現」と称した。

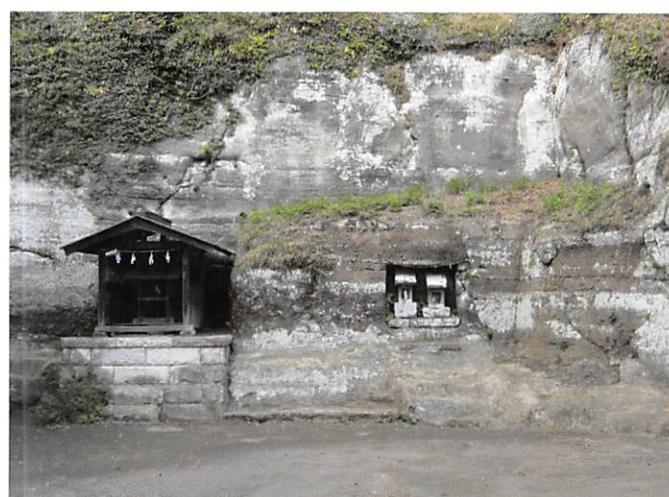


相模風土記稿に「按するに光触寺境内に、熊野十二所の社あり、是を村の鎮守とす。されば是より村名も起りしなるべし」とある。「鎌倉市史」も村名の起りについてこの説に同調し「十二所權現」の「十二所」をとつて地名としたとしている。

また熊野社の勧請は光触寺創建まで遡ることができるとしている。

天保九年（一八三八）現社地に遷座された。明王院所蔵の棟札「十二所權現社再建記」によれば天保八年明王院の別当、恵法が社の廃蕪を觀てその不遇を嘆じ里民に議つて社頭再建を志したが、從前建構の趾は陥隘にして社地美しからずとして地相人東都（江戸）渡

鎌倉



境内末社（山の神、疱瘡神、宇佐八幡）

辺樂水源一により村の艮にあたる山辺を嘉瑞の社地なりとト定され、其処に遷座建立することとなつた。

民力疲弊の際であり工事は容易の業ではなかつたと記されている。しか

れ社号を「十二所神社」と改称した。  
明治六年十二月村社に列格。十二所の氏神と定められた。

〈宮司 小坂周防〉

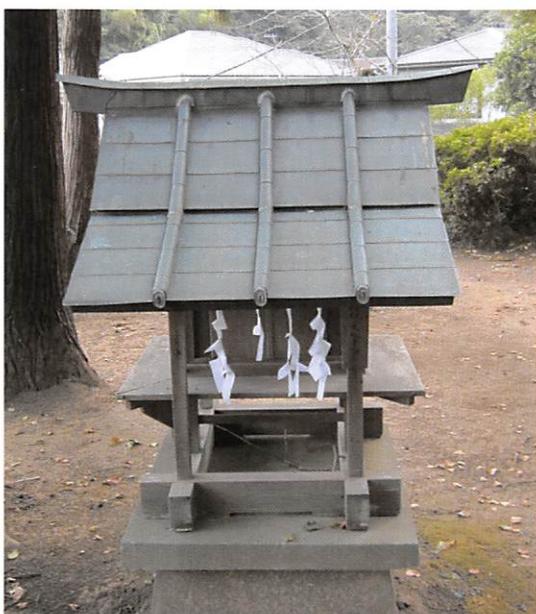
此の新社地は村の有力者、大木氏相伝の山林であつたが当主大木市左エ門は崇敬心厚い人で之を快く寄進された。既にして開墾の工を起したが、天保四年の夏冷同七年の霖秋大風、

同八年春の饑饉等連年の天災により九年（一八三八）霜月十五日に上棟次いで遷宮の儀を施したとある。右により建立された社殿が現社殿である。

明治維新により明王院の所管を離



十二所神社入口



末社 地主神

御神徳	交 通	御祭神
	バス停十二所神社から徒歩〇分 バス停から左斜めに入れば境内 入口	天神七柱 地神五柱
例 祭	宝 物	境内末社
	刀一口 銘相州住伊勢綱広 寸法二尺四寸八分	山の神・庖瘡神・宇佐八幡 地主神
除災招福	九月九日前の土・日 土曜日 前夜祭	九月九日前の土・日 土曜日 前夜祭
家内安全	日曜日 例祭	日曜日 例祭
諸願成就	五穀豊穣	五穀豊穣

# くまのじんじゃ 熊野神社

〒248-0003 鎌倉市浄明寺64 鎮座

相模風土記によると

妙寺の西山上である。

「熊野社 泉水ヶ谷字東

之澤 宝生庵跡の東にあ

り。此谷を御坊と云う。

村の鎮守なり。」とある。

現在の鎌倉五山の一つ淨

社殿の棟札に「文久三癸未（一八

六三）星春二月二十一日吉

曜宿社殿再建」とある。

名主期右衛門、年寄弥兵

衛以下世話人を中心総氏

子中の協力により完成した

もので、この時の別当は明

王院主の僧明本であった。

今の十二所の明王院五大堂

の事で、僧明本は明本惠法

と称した。

明治四年九月神奈川県庁

に提出された「鶴岡八幡宮

一社明細書」写しの「末社」

の項に「熊野社浄明寺にあ

り。」また「建物世代旧幕府御普所  
に御座候」とある。

明治維新により明治六年（一八七  
三）十二月村社に列格。浄明寺区の

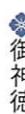
氏神と定められた。

入口の鳥居をくぐると長い階段の  
参道があり、上りきると原生林に囲  
まれた境内に社殿が建つ。森厳性豊  
かな神域で、スギ・タブの大木は市  
の保存樹林に指定されている。

〈宮司 小坂周防〉



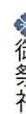
百段の石段参道



御神徳



交通



御祭神

伊弉諾命・伊弉冊命  
天宇須女命

淨明寺バス停より徒歩五分

七月十七日に近い日曜日

五穀豊穣 損災招福 諸願成就



# ひるこじんじゃ 蛭子神社

〒248-0006 鎌倉市小町2-23-3 鎮座



「夷堂橋は小町と大町との境にあり。座禅川の下流なり。昔は此辺に夷三郎社ありしとなり。」とある。この夷三郎社は此の附近一帯の産土神・地

新編相模風土記稿に主神として尊崇されていたが、永享年中（一四二九～一四五〇）本覚寺が日出上人の開山で創建されると、地主神として同寺境内に移され山内の鎮守として奉斎された。

明治維新により、夷三郎社は本覚寺境内を離れ、現在の社地に遷され

小町村の鎮守として社名を蛭子神社と改称した。

明治六年十二月村社に列格。正式に小町村の氏神と定められると共に一村一社

の主旨に基づき村内の他の社を合祀することとなつた。村内には上部落の鎮守

として宝戒寺境内に山王大権現があり、下部落には現社地に七面大明神が祀られていた。以上の社を合祀するに当り新たに社殿を建立する事となり、下部落は境内及びその附属地を提供し、上部落は社殿の費用を

負担する事となつた。そこで上部落は氏子全体から醸金し、鶴岡八幡宮の末社今宮大権現が神佛分離により除去されることとなつたため、この社殿を譲り受け蛭子神社の本殿として移築し、明治七年八月新社殿の建立と合祀を完了した。

昭和九年社殿を改築したが、本殿内部は、鶴岡八幡宮より譲り受けた今宮社殿をそのまま内蔵し拝殿を新築した。本殿の塗りの三戸前扉がそれである。

昭和十五年十月神饌幣帛料供進神社に指定された。  
（宮司 小坂周防）

御神徳	大己貴命	御祭神	大己貴命
交 通	JR 鎌倉駅東口より徒歩五分	寶 物	JR 鎌倉駅東口より徒歩五分
例 祭	鶴岡八幡宮二の鳥居前を右折	神輿一基	鶴岡八幡宮二の鳥居前を右折
日曜日	八月中旬土・日	宵宮祭	八月中旬土・日
開運招福	例祭	神幸祭	宵宮祭
商売繁昌			
諸願成就			

# 五所神社

〒248-0013 鎌倉市材木座2-9-1 鎌倉



当地は江戸時代正保年間（一六四四～一六四七）の改めの際、乱橋村と材木座村と二村に分け別称した。明治初年東鎌倉村の内に編入され、大字乱

橋材木座と改められ、さらに後年材木座と改められた。

五所神社は乱橋材木座村内に鎮座していた五つの社を明治維新により、明治四十一年七月に現在の地に合併奉斎され同年十一月社名を五所

神社と改称した。

合祀以前の五社を記すと、乱橋村に三島社があり、大山祇命を祀り相殿に八雲社素盞鳴命を祀り明治六年に村社に列格された。三島社の所在地は現在の五所神社の場所にあり、神輿も安置されていた。この神輿は相殿の八雲社の神輿で今の五所神社の一番神輿である。

諏訪町には諏訪社があり、建御名方神を祀る。相

模風土記によると、諏訪社補陀落寺祠であつたが、五十有余戸の信徒により新に神殿を建て従来の石祠を殿内に遷し明治十六年七月七日遷座祭を奉仕したことが鎌倉近世史料に見える。明治四十一年村内五社が三島社即ち現在の五所神社の地に合併した際、明治十六年建立の諏訪社社殿を移築して五所神社の本殿とした。大正十二年の関東大震災の時、山崩によりこの社殿は全潰した。

相模風土記の補陀落寺の項に牛頭天王・見目明神合社あり、大道寺源六周勝が社領三貫三百文及び寺内修補の料を寄附せしこと所蔵文書に見えたり、とある。明治二十七・八年の神社明細帳に視女・八坂神社、材木座中島鎮座、祭神天照大神小祭二月十七日素盞鳴命大祭七月七日～十

四日とある。鎌倉近世資料乱橋材木

座の古老聞書に、見目牛頭社の神輿

は二基あり今の五所神社神輿の二番

三番であると語られている。

明治九年の皇国地誌残稿に琴比羅  
社村の辰の方にあり祭神金山彦命勸  
請年詳ならずとある。明治二十七・  
八年の神社明細帳に金毘羅社乱橋材  
木座三百四十三番地鎮座、祭神崇徳  
院靈。信徒二百人。とある。

さて明治維新により乱橋材木座で  
は三島社が明治六年十二月に村社に  
列格され町の中心的神社であつた  
為、此処に他の社を合祀することと  
し、明治四十一年七月合祀祭を斎行  
し同年十一月社名を五所神社と改称  
した。合祀地の三島社は山の中腹の  
平坦地であつたが、狭い為隣接の共  
有地を開墾拡張し、明治十六年建立  
の諏訪社の社殿を移築して五所神社

の本殿とし拝殿神輿庫等を新築し  
た。

大正三年八月神饌幣帛料供進神社  
に指定された。

大正十二年九月の関東大震災によ  
り境内東側の山崖が崩落し社殿は埋  
没した。昭和六年七月新社殿の竣工  
奉告祭が斎行され現在に及んでい  
る。

〈宮司 小坂周防〉



五所神社境内入口

◆御祭神

大山祇命（旧三島社）  
天照大神（旧見目社）

素盞鳴命（旧三島社相殿 八雲社）  
（旧視女社合祀 牛頭天王）

建御名方命（旧諏訪社）

崇徳院靈（旧琴比羅社）  
バス停五所神社から徒步二分

板石塔婆（板碑）一基  
弘長二年（一二六二）十一月  
二十日の銘あり。昭和十六年

七月国の重要美術品に指定。  
庚申塔一基

寛文十二年（一六七二）在銘。  
昭和四十年三月鎌倉市文化  
財に指定。

神輿三基（内一基鎌倉市文化財  
に指定 平成二十六年二月）

石神社

例末祭物

◆例

◆末

◆祭

◆物

◆寶

◆通

◆文化財

前日土曜日 前夜祭  
日曜日 例祭 神幸祭  
第二火曜日 三ツ目神楽

◆特殊神事

一月十一日 潮神樂（材木座海岸於）  
四月十五日 湯花神樂（祈年祭於）  
家内安全、開運厄除、海上安全、  
大漁満足、諸願成就

# あまなわしんめいぐう 甘縄神明宮

〒248-0016 鎌倉市長谷1-12-1 鎮座



「相州鎌倉郡神輿山甘

明宮、麓に寺を建立したという。山

称している。

縄寺神明宮縁起略」（正

徳二年（一七一二）銘）

文治二年（一一八六）正月二日源

によれば、和銅三年（七

平安時代永承年中（一〇四六）一

月二十四日安達盛長をして社殿を修

一〇）八月行基が草創し、  
染屋太郎時忠が山上に神

○五二）源頼義公は当社に祈願して

理し四面に荒垣を設け鳥居を建て自

長男義家公を当地に生んだ。また天

喜年中（一〇五三）一〇五

月之日安達盛長をして社殿を修

七）頼義公は安倍氏征伐の  
折當社に祈願し、康平六年  
(一〇六三)報賽の神拝を  
し当社を修復した。

永保元年（一〇八一）源

政子方報賽の参拝あり。社伝によれ  
ば陸奥国平定の報賽で、祈願の折に  
は新造の白旗を奉り、報賽時には神  
樂を奏し雄劔神馬を献じたという。

建久五年（一一九四）正月奉幣。

六月二十六日頼朝公参拝あり、同年  
八月二十二日同じく参拝あり。同年  
十月十七日には政子の方参拝あり。

吾妻鏡に「是れ伊勢の別宮なり。」  
とある。建保三年（一二一五）四月  
二日三代將軍源実朝公の参拝あり。  
「神明宮縁起略」によれば、臨濟

宗京都妙心寺の獨園和尚が鎌倉に來  
尊崇せられたので八幡太郎  
義家公を当社中興の願主と

た折、当宮寺の大破の状を見て当山を再興し寺舎を補営し弟子の瑞峯祖堂に命じて護らせた旨記されている。

獨園和尚が当社を再建し弟子瑞峯に守護を命じた後、宝永六年（一七〇九）甘繩神明宮の社号石標が建てられた。正徳二年（一七一二）には義家公東帶坐像の修理が行われた。これは、独園和尚の遺命により瑞峯及び弟子の自元等が信徒と力を合せて修復したもので瑞峯はこれを記念して「相州鎌倉郡神輿山甘繩寺神明宮縁起略」を誌した。

天保九年（一八三八）氏子信徒の協力により社殿が新たに建立された。

明治維新により別当から離れ、明治六年十二月村社に列格、長谷の氏神と定められた。明治二十年五月五

社明神社を合併し、明治四十年四月神饌幣帛料供進神社に指定された。

大正十二年九月の関東大震災により天保九年建立の社殿は大破し、昭和十二年九月社殿を新築した。神明造で背後の山中腹に本殿を据え石段を下り幣殿拝殿を築いた。平成十年八月御屋根銅板葺替え工事を竣え今日に及んでいる。

社号は、明治六年の辞令には「神明社」とあり以後これを称したが、昭和七年九月「甘繩神明神社」と改称した。常には慣習で「甘繩神明宮」と呼称されている。

境内には、北条時宗公産湯の井・二條公爵愛用の井と伝わる井戸や背後の山を御輿嶽というところから万葉歌碑（平成七年建立、進藤實氏奉納）等がある。

（宮司 小坂周防）

御神徳	御祭神	天照大御神
寶物	交通	江ノ電由比ヶ浜駅より徒歩七分
例祭	末社	五社明神社（天照大御神・倉稻魂命・伊邪那美命・武甕槌命・菅原道真公を祀る）
秋葉社		江ノ電長谷駅より徒歩七分
九月七日		九月十四日例祭
假屋祭		九月十四日に近い日曜日神幸祭
九月十四日		九月十四日に近い日曜日神幸祭
内安全		子宝安産
国土安穩		諸願成就



伝 北条時宗産湯の井  
二條公爵愛用の井

# 小動神社

〒248-0033 鎌倉市腰越2-9-12 鎮座



当社縁起によれば文治年中（一一八五）一一八九）近江源氏佐々木三郎盛綱の勧請に始まり後、新田義貞が再興したと伝える。

吾妻鏡によれば盛綱は寿永三年（一一八四）十二月源範頼の軍に従い平家追討の際、備前の国児島において靈験を得て僅か六騎にて平行盛を追伐し無事鎌倉に凱旋した。盛綱は神恩報賽のため守護神である父祖伝来の領国、近江の八王宮を勧請すべくその地を探しもとめていたが、ある日江の島弁財天に参詣の途次、小動山に登り大いにその風光を賞せられ勧請の地と定めたとある。相模風土記稿によれば、八王子宮縁起を引いて「文治年中、

当社縁起とは「八王子宮縁起」の事で弘治二年（一五五六）九月の奥書のある別当淨泉寺法印元秀が書写したものである。

遊戯の靈木なり。」とあり、この靈地を神域として八王子宮を勧請したという。

元弘三年（一三三三）五月新田義貞は鎌倉攻めの際、当社に戦勝祈願し、後に報賽として剣一振に黄金を添えて寄進し社殿が新たに再興された。八王子縁起によれば、新田義貞を中興の祖と称している。

江戸時代小田原城主大久保忠真公は「三神社」の扁額を揮毫し奉納された。三神社とは三柱の祭神を尊称したもので拝殿に掲げられている。

明治維新により別当淨泉寺の管理を離れ、明治六年十一月村社に列格、腰越の氏神と定められた。明治二年当所宇神戸の鎮守であつた諏訪

社を合祀した。昭和十三年七月神饌幣帛料供進神社に指定された。

社号は八王子宮、八王子大権現などと称したが、明治維新により地名の小動をとつて、小動神社と改称した。

相模風土記稿に「弘仁年中（八一〇～八二三）弘法大師小動山に登りし時老松に神女影向あり、この松を小動の松と云うとある。

社殿は文治十四年（一八一七）四月に再建されたことが棟札に記されている。大正十二年九月の関東大震災により本殿大破、拝殿倒潰した。昭和四年十二月本殿修復、拝殿は新築された。平成十八年四月より本殿幣殿の大規模な修復工事を行い平成十九年四月二十五日社殿修復竣工奉告祭を斎行した。  
（宮司 小坂周防）



社殿正面



小動神社境内入口

御祭神	須佐之男命・建御名方神
日本武尊	江の電腰越駅より徒歩五分
配祀 岁徳神	稻荷社 宇迦之御魂神
末社 通	金毘羅社 大物主神
交社	海神社 綿津見神（船玉神）
例祭	第六天社 淦母陀流神（第六天神）
宝物	神輿二基 刀一口（銘則光）
天王祭	青磁唐獅子一基 縁起書一巻
七月第一日曜日～第二日曜日	一月十六日 鎌倉神楽（湯花神樂）
第一日曜日 神幸祭	
第二日曜日 還幸祭	
行合祭	

七月第二日曜日の天王祭には当社の神輿と江の島八坂神社の神輿との行合祭りで賑う。古くは当社五ヶ町の祭囃子の山車が歴史人形を飾り立て勢揃いし壯觀であったが、現在では人形を各町の神酒所に飾って往時の面影を偲ばせている。人形は浜上が義経と弁慶、戸が八幡太郎義家、土橋が源頼朝、中原が須佐之男命、大町が神功皇后である。

御神徳 心願成就 必勝 厄災除  
諸願成就

ごりょうじんじゃ  
御靈神社 (かまくらごんごろうじんじゃ)  
鎌倉權五郎神社)

〒248-0021 神奈川県鎌倉市坂ノ下3-17 鎮座



創建は平安時代後期。

之守。

鎌倉を中心に現在の湘南地域を開拓した領主鎌倉權五郎景政公を祀る。祭裔で平氏の一門、鎌倉權

村岡、鎌倉の五平氏が割拠しており、その五家の祖靈を祀る御靈神社が建立された。五家の中でも武勇の誉高い景政公の御靈一柱にいつしか変わり、權五郎神社とも称せられるようになった。

『奥州後三年記』に若き

景政公の武勇が記されている。

景政十六歳にして源義家に従い、奥州後三年の役に金沢の柵（秋田県）を攻めた折、右眼に矢を射こまれたにもかかわらず、相手を倒し、陣に帰り着く。味方の三浦平太為次が景政の面部に足を掛けて矢を抜こう

とすると「弓矢で死するは武士の本望だが、武士の顔を足で踏むとは何事か」と

刀をかまえ、無礼を叱咤したとある。これ以降、景政の名は鎌倉武士の誇りとなり、御靈神社の祭神と崇められるようになつた。

『吾妻鏡』文治元年八月の項に「御靈社鳴動す。」とあり、幕府から使者が参向、御願書を奉納し、巫女等に賜物を下し、神樂を奏したこと

が記されている。

景政十六歳にして源義家に従い、奥州後三年の役に金沢の柵（秋田県）を攻めた折、右眼に矢を射こまれたにもかかわらず、相手を倒し、陣に帰り着く。味方の三浦平太為次が景政の面部に足を掛けて矢を抜こう

とすると「弓矢で死するは

武士の本望だが、武士の顔を足で踏むとは何事か」と

例祭の折行われるこの神樂は鎌倉

一円の各神社で行われる神主奉仕の神事神樂。産土神と火の神・水の神

を招神して清め清まわり神恩を感謝

しつつ三神の恵み結晶である湯立を戴き、心身を清め、除災招福を祈りながら神人和楽の中に諸靈をも併和める神樂である。

### 〈面掛行列〉

九月十八日、例祭の神輿渡御は十人の面掛衆が供奉することから面掛行列と呼ばれる。

「おわたり」は行列奉行采配のもと、金棒、御榊、御鉾、白旗、槍、

宝刀、弓矢、沓等の御神宝、さらに

神職、伶人、総代等総勢百名を超える行列。これに鎌倉囃子、面掛衆が加わり、華やかさを添える。面掛け行列は鶴岡八幡宮で鎌倉時代より行われていた放生会の行列に倣つて明和年間に始められたが、明治以降八幡宮では面掛衆が供奉しなくなつたため、現在この種の「仮面風流」は御靈神社のみが伝えるところとなつ

た。

面は十面あり、一番面から十番面までの呼び名は、「爺」「鬼」「異形」「鼻長」「烏天狗」「翁」「火吹男」「福禄」「阿龜」「女」。これらの面は奈良時代の伎楽面を原型としており、おかめ、ひよつとこの田楽面の混入もある。「おかめ」の臨月のおなかは日本各地の祭礼に見られるよう豊年・豊漁の祈願を「産み」の形に表したもの。

### 〈御供流し神事〉

末社石上神社の御神体は大岩。御靈の前浜沖の岩礁には満潮時多くの舟が座礁し、人命も奪われた。この石を引き上げ、上部を祀つて石上神社として海神の鎮めとした。

七月海の日の例祭には、もと岩礁のあつた一キロ沖まで神輿を舟に乗せ、海上渡御を行う。舟には水泳達者の若者たちが御供（御幣を立てた

赤飯）をささげ持ち、立ち泳ぎで徒い、此れを流して海神の靈を和め、遭難の諸靈を弔う。〈宮司 小林孝男〉

✿ 祭 神 鎌倉権五郎景政公 延久年間

（一〇六九年～一〇七二年）の  
九月十八日 生まれ

✿ 例 祭 御神徳

眼病平癒・病氣平癒・除災招福  
学業成就・良縁成就・安産

✿ 境内社 石上神社・地神社・金比羅社

御嶽社・秋葉神社・祖靈社  
第六天社

✿ 連絡先 御靈神社社務所

Tel ○四六七一二二一三三二五一

✿ 交 通 江ノ電「長谷駅」より徒步三分

面掛け行列（九月十八日例祭  
神輿渡御の別名）

✿ 神事・文化財

神奈川県指定無形文化財  
鎌倉市指定民俗資料

面掛け行列

神奈川県指定無形文化財  
鎌倉市指定民俗資料

鎌倉神樂（九月十八日例祭）

鎌倉市指定文化財  
御供流し（七月海の日）

神輿一基

宝物 年作 宝暦三年（一七五三）

# やくもじんじゃ 八雲神社

〒247-0062 神奈川県鎌倉市山ノ内585 鎮座

社伝によれば、当社の創立は鎌倉時代。

『相模風土記』に「元仁元年（一二三四年）十二月疫病流行スルニヨリ。鎌倉四境ノ鬼氣祭行

ハル。・・・」とある。この山ノ内は四境の中の北境に当たり、この鬼氣祭執行後、村民相議り、この斎場跡に祇園八坂の神靈を勧請して、村内の安穩を祈願したのが始まりと言われている。その後、文明年間（一四六九年～一四八七年）、管領上杉憲房がこの地に居住し、山ノ内を称するに及び、当神社を氏神として崇敬すること厚く、爾来当地

一円の鎮守と仰ぎ、今日に至っている。

『相模風土記』には牛頭天王社とある。元指定村社。当社の神幸祭は古名刹の多い山ノ内の地にあって、八〇〇年に及ぶ神仏混淆の歴史を今に伝えて貴重である。例祭当日神輿は円覚寺



から始まり、明月院、建長寺、円応寺、淨智寺、東慶寺と各寺を表敬巡幸し、管長、住職、役僧の読経、参拝を受ける。後段は隣町山崎より渡御してきた山崎八雲神社の神輿と行き合い、二基揃つて競い合いもみ合ひながら、天王屋敷（斎場）に到着。神事を行つた後、各社それぞれ還御の途につく。当社の神幸祭が一名「行き合い祭」と呼ばれる由縁である。

昔、大船、岩瀬、笠間、今泉等、近隣十ヶ村が山ノ内管領の地内である斎場で（天王屋敷）共同で疫神斎をおこなつたことが起源と思われる。

（宮司 小林孝男）



弘化3年（1846）再建の社殿



八雲神社向拝



向拝上の彫刻は、後藤義光の作

文化財

・木造獅子頭 二口  
・神旗一旒（市指定民俗文化財）  
・舟型庚申塔（寛文五年—十六五年）市指定民俗文化財  
・棟札（寛政五年、寛政十年、天保十一年、慶応元年）  
・祇園牛頭天王扁額他

文化財

・木造掛面七面、上記面掛け衣装（鎌倉市指定民俗文化財）

神事通

JR北鎌倉駅より徒歩五分  
七月二十二日、隣町山崎北野  
神社との「行合祭」があり、二基の神輿が行列し、山ノ内町内を練る。

連絡先

JR北鎌倉駅より徒歩五分  
御靈神社社務所

祭神

素盞鳴命  
稻荷社

・祇園会奉獻句額 文化四年  
・晴明石「相模風土記」には「大  
キサ三尺バカリ、各々傍ラニ  
井戸アリト云伝へ、大船多  
門院ノ持。」とある。  
山ノ内の往還中にあつた  
二ヶ所の晴明石の一つは近  
年八雲神社境内に遷された。

# 北野神社

〒247-0066 神奈川県鎌倉市山崎宮廻り736 鎮座



大船駅近くの車窓から

請したという。

も臨める独立峰天神山の山頂に鎮座する。社伝では暦応年間（一三三八年～一三四二年）に夢窓疎石が京都の北野神社を勧

『相模風土記』によれば、松尾社の社人を迎えて祭祀を奉仕せしめたとある。この社人の末は鶴岡八幡宮の巫女（八乙女）であるという。「空華集」に貞治元年（一三六二年）十一月圓覚寺塔頭黃梅院主が当社を再建した旨の記載がある。

文化八年（一八一一年）九月更に再建（山崎天満宮再造碑）。また慶応二年（一八六六年）の修造の棟札もある。

創設の祖、夢窓國師の誠

忠を代々受け継ぐ氏子により祭祀、神樂等が現在も厳修されている。

境外末社の八雲神社はも

と牛頭天王社と呼ばれ、七

月に行われる天王祭は山ノ内八雲神社と行き合いの態をとる祭事として近郷稀にみる盛事。『相模風土記』に山崎八雲神輿について「昔は岩瀬村五社明神に合祀されていたが、延宝年間（一六七三年～一六八一年）神輿が山ノ内の御仮屋に御旅していいた時、洪水の災があり、これを避けようとして山崎の北野神社境内に捧持・安置したところ、神託により当社に合祀するに至った」との記載がある。

例祭当日山崎を出発した八雲神輿は山ノ内の御仮屋（天王屋敷と唱す）に渡御し、山ノ内八雲神輿と盛大な行き合い神事を行う。

『相模風土記』には「山崎の神輿は当村及山ノ内・小袋谷・大船・岩瀬・笠間・今泉・小菅谷・飯島等十ヶ村ノ鎮神トス」とある。

（宮司 小林孝男）



北野神社燈籠



神仏習合を伝える両部鳥居



石造宝篋印塔

神事	文化財	御神徳	交通	連絡先	祭神
例祭	石造宝篋印塔（鎌倉市指定文化財）	学業成就、除災招福、農業（産業）守護	大船駅よりバス「山崎」下車 徒歩五分	御靈神社社務所	菅原道真命
神輿一基	建立。高さ一・五メートル。四方に薬師如来、釈迦如来、阿弥陀如来、弥勒菩薩が彫られた珍しい作。	九月二十五日（八雲神社は七月第三日曜日）	神明社、境外末社 八雲神社		
	弥勒菩薩が彫られた珍しい作。	月第三日曜日）	九月二十五日（八雲神社は七		

# くまのしんぐう 熊野新宮

〒248-0023 神奈川県鎌倉市極楽寺2-3-1 鎮座

極楽寺の開山『忍性菩薩行状略頌』に文永六年（一二四九年）四月新宮草創のことが記されている。

また、永仁六年（一二

九八年）新宮炎上、正安二年（一三〇〇年）二月二十三日には年月を経ずして大和出身の忍性が信仰している。建武二年（一三三五年）二月には足利直義が百貫文の地を寄進している。

関東大震災により倒壊した村内の無格社・八雲神社

と同諏訪神社を昭和三年九月に熊野新宮に合祀して氏神社とした。現在の社殿は昭和二年の造営。

現在に伝わる神輿には文明七年（一四八五年）九左衛門修理の棟札が残されている。〈宮司 小林孝男〉

を中心いて、のべ二〇〇人以上の神輿のかつぎ手が参加し、ドッコイ・ドッコイの掛け声と囃子会の笛太鼓で賑わう。戦後の虚脱状態の中衰退していった神輿渡御の復興と囃子の再興は極楽寺地区発展の原動力ともなった。



この相殿に祀られた八雲神社の例祭日は七月第一曜日。七月に入ると極楽寺地区は神輿一色の一週間を迎える。七日間の内三日ある神輿渡御には極楽寺陸会

祭 神

やまとたけるの尊命・速玉命  
日本武尊命・速玉命

素盞鳴命・建御名方命

境内社 御嶽社・熊野権現社

連絡先 御靈神社社務所

Tel 0467-22-1351  
一分

交 通 江ノ電「極楽寺駅」下車徒步

除災招福、疫病退散、産業（農業）守護

神輿渡御（八雲神社例祭）

鎌倉神樂八座奉奏（例祭時）

# 三嶋神社

〒248-0027 神奈川県鎌倉市笛田3-31-1 鎮座

社伝によれば、治承年間（一一七七年～一一八年）大庭景親がこの地を領して再建した。元は村の北端字宮崎にあったが、「水上に祀れ」との

神託により字萩の郷に遷し、その後又現在の所に遷したと言われている。

近世初頭より幕府の直轄領であり、戦前まで豊かな田が広がっていた笛田の里の鎮守。当社の傍に渾々と湧く泉があり、この水流にて全村の水田を潤す処から村民の信仰は非常に篤く、社頭もよく整備された。『相模風土記』には仙光寺持とある。



三嶋神社狛犬

〈宮司 小林孝男〉

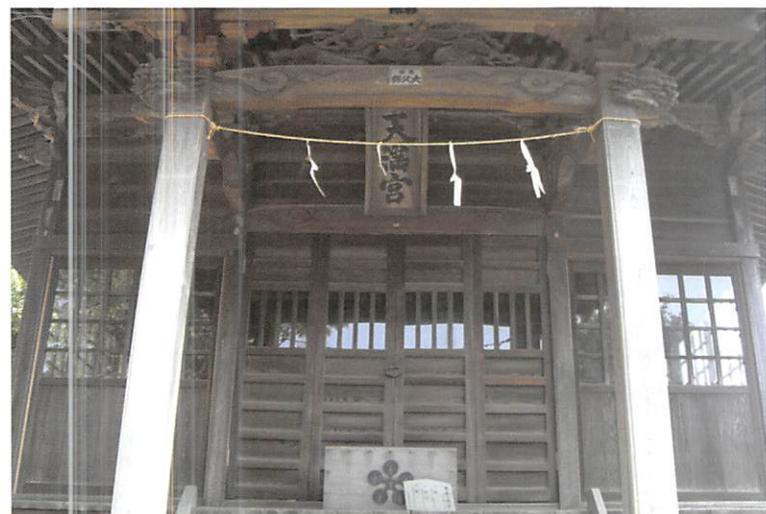


長い石段の参道

◆ 神事  
◆ 交通  
◆ 連絡先  
◆ 祭神  
◆ 例祭  
◆ 祭事  
◆ 御靈神社社務所  
◆ TEL ○四六七一二二一三二五一  
◆ 鎌倉駅より藤沢方面行バス「梶原口」下車徒歩十分  
◆ 笛田町内の仏行事（日蓮宗）の僧侶が正月三ヶ日お経をあげ、一月十五日には氏子たちが神前でお題目を唱える習わしがある。

# てんまんぐう 天満宮

〒247-0065 神奈川県鎌倉市上町屋山ノ根616 鎮座



鳥居と参道

社伝によれば天慶年間（九三八年～九四七年）鎮守府將軍平良文公（藤沢村岡郷に住し、村岡五郎良文と称す）、ある夜、靈夢を得、菅原道真公の

靈を天神としてこの地に祀った。以後、鎌倉の北西郊柏尾川の水路と陸路が交差する交通の要地上町屋の鎮護の神として祀られ、領主並住民、近隣より広く崇敬を受け今日に至つた。

社殿は天明元年（一七八一年）の再建、石造鳥居は天保十一年（一八四〇年）建立。

『相模風土記』に「泉光院持」とある。

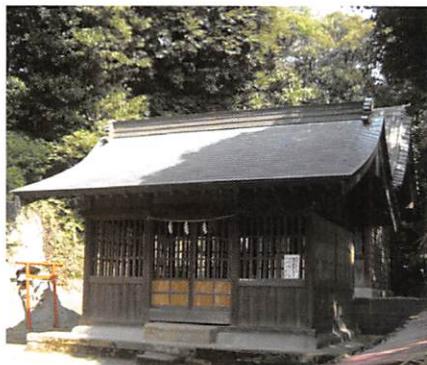
（宮司 小林孝男）

石造庚申塔（寛文十年・一六七〇年）鎌倉市指定文化財  
石造鳥居（天保十一年・一八四〇年）  
神像を刻んだ石碑（天徳二年・一七一二年）  
他、享保、正徳、天明の棟札

神事	例祭	境内社	神祭
連絡先	祭	菅原道真公	
御靈神社社務所	梅王社・松王社・稻荷社	一月二十五日（初天神）	
湘南モノレール「湘南町屋駅」	神	菅原道真公	
より徒歩十分	事	菅原道真公	
例祭日鎌倉神楽八座奉奏（大釜に沸騰させた湯を参詣者に振りかけつつ舞う湯立て神楽。例祭当日は近在の小学生達が神楽場を取り囲み、地域に伝わるこの神事（鎌倉市指定民俗文化財）と共に楽しむ。学問、書道、諸芸道の成就、除災招福）	通	梅王社・松王社・稻荷社	一月二十五日（初天神）

# こまがたじんじゃ 駒形神社

〒247-0064 神奈川県鎌倉市寺分1-10-12 鎌座



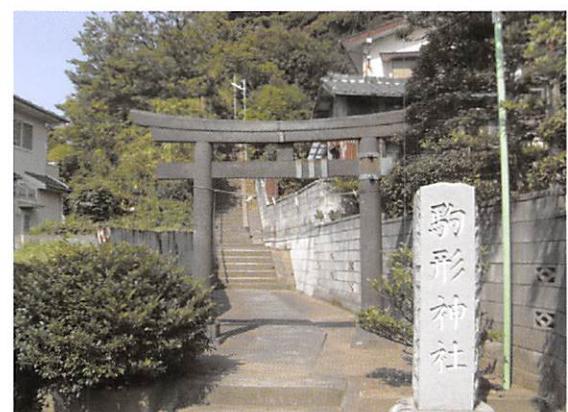
拝殿

東北地方に多く祀られて  
いる馬の守護神である駒形  
の大神をいつの時代か勧  
請、合祀したと考えられる。

（宮司 小林孝男）

口碑では<sup>にぎのみこと</sup>邇邇芸命を祀  
ると伝えられる。  
古来農業の守護神とし  
て崇敬が厚く、治承年間  
(一一七七年～一一八一年)  
には大庭景親の食邑

だつた。天候不順の折は大庭氏代参  
を派遣して水害早魃の災なからんこ  
とを祈願したと伝えられている。  
『新編相模風土記稿』に「駒形社、  
村の鎮守ナリ、本地仏千手觀音ヲ安  
ス、例祭九月十四日。東光寺持」と  
社名を記している。



社号標と参道

◆御神徳  
宝物  
通 例 祭 神  
連絡先  
駒形大神  
十月第一日曜日  
御靈神社社務所  
TEL〇四六七一二二一三二五五  
湘南モノレール「湘南深沢駅」  
より徒歩五分  
弁財天石碑、富士浅間神社角  
塔、木造の馬、支那風木造人  
形七体、天保十四年の棟札  
農業守護、産業振興

# 八雲神社

〒248-0022 神奈川県鎌倉市常盤534 鎮座



常盤の鎮守。此の地は平安時代後期梶原景時の領地であり、また鎌倉時代は常盤殿と呼ばれた七代執權北条正村の別邸があつた。

当社は治承年間（一一七七年～一八一年）に除災祈願のため建立された。慶長年間（一五九六年～一六一七年）、代々の総代である矢沢与左衛門光広が熊野社を勧請、これを八雲神社に合祀し、さらに明治時代村内鎮守御嶽神社、諏訪神社の両社も合祀された。

牛頭天王とも呼ばれた素盞嗚命を祀る当社の例祭（天王祭）には、現在も当時の天王信仰の盛大さをうかがわせる神輿渡御が行われる。『相模風土記』には「天王社円久寺持」とある。

（宮司 小林孝男）

祭 神 境内社  
素盞嗚命・速玉之男命  
伊弉冉命

稻荷社  
七月第二日曜日より七日間  
土曜日神輿渡御

連絡先

祭 神 境内社

稻荷社

Tel ○四六七一二二一三三五  
鎌倉駅より藤沢方面行バス「火の見下」下車徒歩二分

交 通

連絡先

宝 物 御神徳

神輿一基  
農業守護・産業振興・除災招福  
良縁成就



鳥居と石段の参道

# 子守神社

〒248-0027 神奈川県鎌倉市笛田5-34-6 鎮座



当神社の所在する打越の町は戦前まで笛田本村の一角で前笛田と呼ばれ、十数軒の小字の集落であつた。古くより藏王権現社を山の神、産神と

して祀つていたが、戦後住宅地として開発が進み、急激な発展を見、笛田本村より分離独立して、一町を形成した。此れに伴い住民の心の依り所としての神社創立の要望が高まり、昭和二十一年六月二十四日、従来の藏王権現社を社名も藏王権現の本地吉野の水分（又はみこもり）の神の流れをくむ「(宗) 子守神社」と改称し、打越の町の鎮守と公認された。

その後、社殿の改修、鳥居、石段等が次々整備され、現在では殖産興業・子育ての神として地元、近隣の信仰を集めている。

（宮司 小林孝男）

◆御神徳

子育て守護、産業振興

歩三分

文 通

TEL ○四六七一一二一三三五  
鎌倉駅東口より藤沢方面行バス「火の見下」バス停下車徒

◆連絡先

御靈神社社務所

子守大神・玉依姫命  
一月十四日 春祭  
八月第三土曜日 例祭

◆祭 神

子守大神・玉依姫命  
一月十四日 春祭  
八月第三土曜日 例祭



境内の小祠群

# 佐助稻荷神社

〒248-0017 神奈川県鎌倉市佐助2-22-12 鎮座

古代より佐助川の水源、四隠れ里と呼ばれる山中に農業守護の神として祀られてきた。

社伝によると伊豆に遠流されていた源頼朝公の夢中に当社の神靈が翁の姿をかりてあらわれ、義兵を挙げ民を安ずべしと

の神託を受けた。これを受け挙兵した頼朝公が功を納めたため、「佐殿」と呼ばれていた公を助けたことから佐助稻荷と唱されるようになった。

建久年間（一一九〇年～一一九九年）頼朝公が畠山重忠に命じて社を再建させ、この時、台と山崎の地を社領として寄進したと伝える。

『新編鎌倉誌』には正平十四年（一三五九年）

十二月一

日、兎徒退

治の祈願を

佐介谷稻荷  
社別当三位  
僧都に命じ  
た足利尊氏

の古文書が

鶴岡等覚院  
に存したと

ある。

ある。



頼朝公薨去の後、次第に衰微した当社を寛元年間（一二四三年～一二四七年）浄土宗大本山、天照山法華院光明寺（材木座）の開山、然阿良忠上人（記主禪師とも）が再興する。

鎌倉一郡に疫病が流行った時、上人が佐助稻荷の神靈より授かつた薬種を育てその長葉を用いて人々の病を癒した。感謝した諸人の助力で社殿を再興し、佐助中興の祖として記主上人を佐介上人と称えたと伝わる。

当社は古くは鶴岡八幡宮の非常の際の御旅所として同宮の飛地境内末社であつたが、明治四十二年六月二十六日末社から独立して無格社として祭祀された。

（宮司 小林孝男）



佐助稻荷境内



深い緑と朱の鳥居が印象的な参道

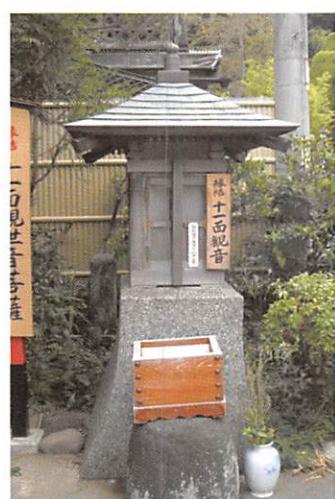


佐助稻荷祈願旗



古い稻荷祠群

❖ 宝物	❖ 連絡先	❖ 例祭	❖ 神境
❖ 御神徳 交通			宇迦御魂命・大己貴命 さるたひこのみこと　おおなむちのみこと
縁結び		二月初午	佐田彦命・大宮女命・事代主命 さとうひこのみこと　おおみやめのめい　ことしろぬしのみこと
商業繁栄、病気平癒、学業成就、 豊受姫命像（明治七年後藤慶 作）、寛政十一年手洗鉢	佐助稻荷神社社務所（TEL〇四 六七一-二二一-四七一一）、御靈 神社社務所（TEL〇四六七一-二 二-三二五一）	八日開帳（五月十 日）	縁結び十一面觀音堂（五月十 日）
鎌倉駅より徒歩十五分			



縁結・十一面觀音

# いなりじんじゃ 稻荷神社 (五社稻荷神社)

〒247-0051 鎌倉市岩瀬1399 鎮座



建久年間（一一九〇）  
一一九八）源頼朝の隨身  
一騎奉行である岩瀬与一  
太郎義正が当地に居住せ  
しひき、鎌倉郡山内庄岩  
瀬郷の五穀豊穣と安寧を

願つて創建、勧請したと相模風土記  
にある。

岩瀬与一太郎義正は、常陸国奥七  
群を支配していた佐竹孝義の嫡男、  
義正の近習で常陸国那珂郡大宮郷岩  
瀬（現、常陸大宮市上岩瀬）の岩瀬  
城主であつたが「吾妻鏡」

によると治承四年（一一八〇）十一月、源頼朝による

佐竹氏攻めの際、常陸国府  
中手前、大矢橋（現、花園  
川にかかる大谷橋）で捕ら  
えられ、常陸国府中（石岡  
市）の頼朝本陣にて見参し

た際、頼朝に諫言し、その  
武勇を認められ家人となり  
当地に居を構えたと伝わつ  
てゐる。

その後天明二年、旗本、  
木原家名主、栗田源左衛門



〈宮司 石井直樹〉

政春等により百一両を投じて再建さ  
れたことが棟札、古文書に記されて  
いる。天明の飢饉の折、御神威の發  
揚で飢饉を乗り越え民心を引き締め、  
神社では粥を振る舞い、村内の被害  
はわずかに終わり、これも五社明神  
のおかげと益々崇敬されたと伝わる。

明治六年村社に列し、昭和四十六  
年屋根銅版葺替工事、昭和五十六年  
（六十二年神社本庁振興対策指定の  
折、社殿一部改修、手水舎新設等行  
い、平成十二年神輿の再建、平成二十  
年社務所の改築を行つた。



## 祭 神

**倉稻魂神・保食神**（米を根源として食を司る神々）

**大己貴神**（大国主神の別名、国造大神である）

**太田田根子命**（崇神天皇の御代、疫病流行時これを鎮めた。病を祓う神）

**大宮能売命**（神と人の間の平和を取り持つ神）

平島弁財天社（寛政九年の創建、平成三年御大典を奉祝し改築した）

## 例 祭

八月最終土・日  
鎌倉神樂・御輿渡御

## 境内社

延宝七年（一六七九）庚申塔・弘化二年（一八四五）漱盤

安政五年（一八五六）諸流射術集会舎中銘額・江戸期絵馬二額

## 宝物他

豊作・商売繁盛・就職・病気平癒等  
大晦日～元旦  
年越しそば・甘酒・神酒・みかん・漬物等振舞われる。

## 御神徳

記 事

## 連絡先

五社稻荷神社社務所

TEL〇四六一七四七一四七九八

大船駅西口よりバス（鎌倉女子大岩瀬キヤンバス前下車二分）・本郷台駅徒歩十五分  
駐車場有

# かまくらやまじんじゃ 鎌倉山神社

〒248-0031 神奈川県鎌倉市鎌倉山2-27-11 鎮座

当神社は新編相模風土記笛田村の頃に記載の如く、もとは笛田村の鎮守三嶋神社の境外末社で、通称山の神と言われていた。

神社のある付近一帯は往古、津村の共有地であったが、笛田村が此れを借りて開発、耕地と成して三嶋神社の分霊を祀った。また、津村の漁民も当社境内に従えていた松の神木を海路の目標として操業していたので山の神は同時に海上守護の神でもあった。

昭和になり、鎌倉山が日本初の丘陵式住宅地として造成分譲されると、鎌倉山の住民が当社を引き継ぎ、昭和十年社殿を改築、鎌倉山神社と改称して、住宅地の鎮守として奉斎するに至つた。

戦後、宗教法人鎌倉山神社となり、昭和五十七年、改修工事が完成した。



宝物	御神通	祭神
御神德	連絡先	例祭
御靈神社社務所	大山津見命	おおやまとみのみこと
近衛文麿書神号額	八月八日	TEL〇四六七一二一三二五一
農業漁業守護、産業振興、 家内安全	鎌倉駅東口より鎌倉山行バス 「旭ヶ丘」下車徒歩十分	鎌倉駅東口より鎌倉山行バス 「旭ヶ丘」下車徒歩十分

# くまのじんじゃ 熊野神社 (大船熊野神社)

〒247-0056 鎌倉市大船2033 鎌倉



別当、多門院の蔵書に  
よれば「寿永二年（一一  
八三）七月院宣を以て安  
房国群房庄を寄進され、  
亦建長二年（一二二五〇）  
十二月、貞和二年（一三

四六）五月と再三に亘り、院宣を賜  
り社領を安堵せしめられるなど、皇  
室の尊崇大なる古社であつた。又、  
甘糟土佐守清忠、同備後守清長、同  
佐渡守長俊など後北条氏の家臣・甘  
糟家の信仰もあり、長山弥三郎、能  
勢朝負佐、村上主殿、木原  
平三郎、松平肥後守容衆、  
松平備前守鎮衡など領主、  
大名、旗本等厚く崇敬の誠  
を尽くした」とある。

「相模風土記」には、古  
来画像が安置されていた  
が、天正七年（一五七九）  
四月、甘糟佐渡守長俊が東  
京の木造を勧請して祀った  
とある。台座には寛政二年  
(一七九〇) 再興の銘があ  
る。神職は鶴岡神楽男、鈴  
木主馬が兼ねていた。

（宮司 石井直樹）

御神徳  
記事  
境内社  
例祭  
神

日本尊命  
金刀比羅社  
家内安全  
鎌倉神樂

やまとだらうのみこと  
九月二十四日に近い日曜日  
神社最寄駅大船の仲通り商店街  
は物価が安くいつも賑つてい  
る。お勧めの居酒屋は「鳥恵」  
鶏肉専門店を隣で出しているの  
で焼き鳥は勿論の事、刺身類  
もいける。値段が安いのも嬉しい。  
(大船一一十九一十三) TEL  
〇四六一七四四一九九一四 定  
休日 (日曜・祝日)

◆ 連絡先  
◆ 交通

熊野神社宮司 石井直樹  
TEL ○四六一七四七一四七九八  
大船駅東口より徒歩十五分



# いつくしまじんじゃ 厳島神社

〒247-0005 鎌倉市小袋谷2-13-21 鎮座

「相模風土記」には村

八幡社を合祀している。

持ちとあり、古くより弁天様と称して村の鎮守であつた。神職は鶴岡神楽男、鈴木家が奉仕していた。現在は村内の吾妻社、

旧社地は横須賀線の踏切そばであつたが、明治二十二年の横須賀線開通に伴い今の小袋谷公会堂のところに遷し、近くにあつた吾妻社と並べて奉齋した。又、成福寺境内の裏山、亀甲山に八幡社があり、

これら三社は一年一社ずつ毎年順に祭祀を続けていた。大正十二年の関東大震災で三社とも倒壊したが、

昭和二年、亀甲山に弁天社を再興し、後に吾妻社、八幡社を同社に合祀した。

境内には鳥居（明和五年・一七六八）と庚申塔（寛文十年・一六七〇・市文）がある。

（宮司 石井直樹）



祭 神

市杵島姫命・橘姫命  
（いちきしまひめのみこと）  
（なばなひめのみこと）  
応神天皇

例 祭

夏休みに入った最初の日曜日  
鎌倉神樂・子ども御輿渡御

御神徳  
記 事

家内安全・学芸上達  
神社の近く小袋谷踏切より大

船寄りに少し行つたところに  
魚料理店「山美」がある。元  
魚屋さんで味、鮮度には間違  
いがない。昼から休み時間な  
しなのも嬉しい。月曜定休  
TEL〇四六一七四四一一五〇三

連絡先

交 通

厳島神社宮司 石井直樹  
TEL〇四六一七四七一四七九八  
大船駅東口より徒歩十五分

# しんめいじんじゃ 神明神社 (台神明神社)

〒247-0061 鎌倉市台4-20-16 鎌倉



社記によれば「元龜年間（一五七〇）～（一五七二）鎌倉小坂郷山之内壯に疫病流行す。村民評議して天祖の御神護を仰ぐべしと代表者四名を選び、伊

社記によれば「元龜年間（一五七〇）～（一五七二）鎌倉小坂郷山之内壯に疫病流行す。村民評議して天祖の御神護を仰ぐべしと代表者四名を選び、伊

齋せり、為に疫病治まり村民安堵し爾来氏神として崇敬の誠を尽くせり」とある。更に「徳川中期の頃、当地に毎年悪疫が流行し、庶民の苦難甚だしきものがあつた。

当時百姓、源佐衛門と称する老人いたく憂いて身命を賭して家を出、途中神社仏閣を回歴祈願しつつ伊勢神宮に至り、参籠して悪病退散、村内安全を祈願し御万度と称する神札を奉戴し、半年にして無事帰村し、小祠を設けて天照大神を奉齋し、山上の戸ヶ崎をトし、伊勢神宮遙拝所と定め崇敬の誠を尽くした。以後悪病

勢内宮に詣で、神札一体を拝受して帰り、村内中央の高地、戸ヶ崎に奉齋せり、為に疫病治まり村民安堵し爾来氏神として崇敬の誠を尽くせり」とある。更に「徳川中期の頃、当地に毎年悪疫が流行し、庶民の苦難甚だしきものがあつた。当時百姓、源佐衛門と称する老人いたく憂いて身命を賭して家を出、途中神社仏閣を回歴祈願しつつ伊勢神宮に至り、参籠して悪病退散、村内安全を祈願し御万度と称する神札を奉戴し、半年にして無事帰村し、小祠を設けて天照大神を奉齋し、山上の戸ヶ崎をトし、伊勢神宮遙拝所と定め崇敬の誠を尽くした。以後悪病

なつたので村民の崇敬頗る篤し」ともある。

慶安元年（一六四八）大地震の際、神灯の火により炎上、承応三年（一六五四）再建、嘉永七年（一八五四）改築したと伝える。大正九年村内の淡島社・第六天社・諏訪神社を合祀した。

（宮司 石井直樹）



祭 神	天照大神
例 祭	蛭子之命
御 神 德	須佐之男命
連 絡 先	市杵比売命
神明神社宮司	病氣平癒・家内安全
TEL	〇四六一七四七一四七九八
北鎌倉駅	より徒歩十五分

# いなりじんじゃ 稻荷神社

〒247-0061 鎌倉市台1795 鎮座



〈宮司 石井直樹〉

再建当時の手水鉢、享保二十年（一七三五）の庚申供養塔がある。

神社の本地仏であり、像は稻荷いわれている。市の指定文化財になつてゐる。

弘化四年（一八四七）春正月社殿再建の砌、名主・和三郎が記した勧進状によれば、「…山城国飯成山に鎮まります御神を承久年中、執權職武藏

守泰時の代、是所に勧請奉る。五穀成就、國家安全を祈り奉る…」とあり、「相模風土記」には、山神、山王を合祀する」と見える。

稻荷神社に近い台公会堂の場所に

は、かつて地蔵堂があり、像は稻荷神社の本地仏であつたともいわれている。市の指定文

化財になつてゐる。

鎌倉

記事  
御神徳  
例祭  
受氣母知命

湯立て神樂  
四月第一日曜日

小野田泉里句碑  
商売繁盛・家内安全  
行くや  
五穀豊穫  
鎮守の  
漱石庵主人

「露ふん亭」  
あさもうで  
朝詣

明治六年に台で生まれ家業は農業でしたがその傍ら、同じ台村の山ノ井高月について俳句を学び二千句近く残されている。今も俳句の盛んな地区である。

連絡先  
交通

稻荷神社宮司  
TEL〇四六一七四七一四七九八  
北鎌倉駅より徒歩十分

# はちまんじんじや 八幡神社 (小八幡様)

〒247-0061 鎌倉市台2044 鎮座



社記によると「元禄十一年（一六九八）將軍綱吉、小坂郷台村を石野、別所兩人に頒ち給う。別所氏の領地は藤沢、鎌倉間、及び戸塚、鎌倉間

の要路に当たれるを以て、毎月五日、十日の両日に市を立て、諸物を売買交易し漸次殷賑を來たし、小名別所氏、享保二〇年（一七三五）八月十一日を吉日と選び、字亀井なる高地を神地と定め、平素篤く尊信せし石清水八幡宮を勧請し市場村の守護神とした。

「相模風土記」に稻荷社、八幡宮二社共に鎮神とす、とあり又神明、春日を合祀す」とも記されている。社殿は関東大震災で全壊し、大正十五年十二月十日再建し現在に至る。

（宮司 石井直樹）



✿ 交 通	✿ 御 神 徳	✿ 祭 神
連絡先	境内社	応神天皇
八幡神社宮司 石井直樹	稻荷社	七月第三日曜日
TEL〇四六一七四七一四七九八	神輿渡御 鎌倉神樂	家内安全・勝運

# はくさんじんじや 白山神社(毘沙門様)

〒247-0052 鎌倉市今泉3-13-20 鎮座



もと毘沙門堂と称し村の鎮守であった。建久二年（一一九二）源頼朝の建立と伝える。相模風土記には頼朝上洛の際、鞍馬寺に詣で、行基が楠で

作つたと伝える毘沙門像を請い得て鎌倉に帰り、この地に勧請すと記されている。鎌倉幕府の北の護りとして祀られたのである。その後、暫く荒廃していたが、享禄五年（一五三二）九月に再建したことが棟札の写しにより明らかである。

又、元禄九年（一六九六）、

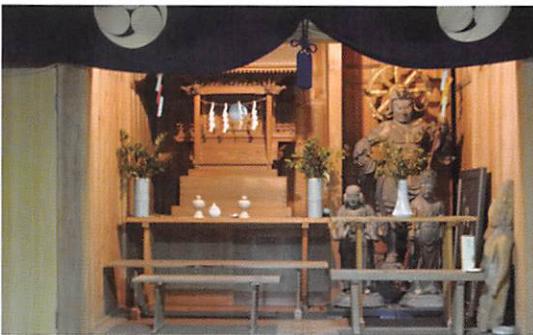
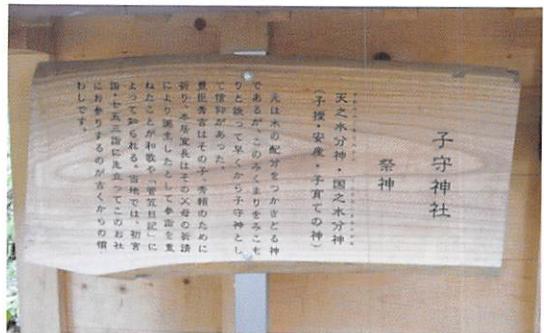
宝永年間（一七〇四～一七一二）にも再建があり、安永三年（一七七四）十月、慶応二年（一八六六）正月の毘沙門堂屋根葺替の銘札もある。末社に弁天社と白山社があつたことが相模風土記に見える。

明治維新以来、白山社と称し村の氏神となる。麓に今泉寺があり別当寺であつた。明治四十一年、八幡社

（今泉字滝の入）を合祀している。

〈宮司 石井直樹〉





鎌倉

◆◆◆  
文 通  
連絡先

白山神社宮司 石井直樹  
大船駅東口よりバス鎌倉湖畔  
循環、白山神社前下車徒歩三  
分 Tel〇四六一七四七一四七九八

◆◆◆  
御神徳  
記 事

縁結び・福寿増長・金運

『くむ酒はこれ風流のまなこな  
り月を見るにも花を見るに

も 醉亀亭天広丸』狂歌碑（参  
道入口）広丸は江戸中期の高  
名な狂歌師で、本名は磯崎広  
吉（一七五六～一八二八）今  
泉に生まれ江戸で没した。代  
表作に「狂歌酒百首」がある。  
大変な酒好きであった。その  
墓は碑の左手の磯崎家にある。

◆◆◆  
祭 神  
例 祭

菊理姫命（白山比売神）  
子守神社  
九月第一土・日  
御輿渡御・鎌倉神樂・毘沙門  
天御開帳（県重文）  
大注連祭 一月八日  
おおじめまつり

くくらめのみこと  
しらやまひめのかみ

# いなりじんじゃ 稻荷神社 (番神様)

〒248-0036 鎌倉市手広1412 鎮座



稻荷神社扁額

三十番神宮ともいわれる。「三十番神」とは一ヵ月三十日間、交替して国を守るとされる神の事。小田原北条時代、玉繩城主に仕えた島村氏が

晩年手広村に居を構え、守護神として祀ったのが始まりという。殿内厨子には三十体の三十番神像が祀られている。十月九日の例祭では笛田仏行寺の住職が経をあげる習わしがある、神仏混合の社である。

安政三年（一八五六年）創建の鳥居と安政五年（一八五八年）奉納の幟がある。

〈宮司 石井直樹〉



❖文 通  
❖連絡先  
❖御神徳  
❖境 内 社  
❖例 祭  
❖祭 神

うがのひたまよりなごみ  
倉稻魂命

稻荷社

十月九日・一月三十一日

商売繁盛・家内安全

稻荷神社宮司

TEL ○四六一七四七一四七九八

鎌倉駅東口よりバス深沢・手広方面藤沢駅南口行き手広下車三分

鎌倉

# くまじんじやの熊野神社

〒248-0036 鎌倉市手広5-1-1 鎌座



熊野神社祠

当神社の創立は別当宝積院の廃寺により古文書が散逸し詳らかでないが、神社所蔵の棟札によれば、慶安元年（一六四八）領主大岡美濃守が社殿を再興した。次いで万治元年（一六五八）大岡隼人正忠高慈母が再興、寛文十二年（一六七二）、享保九年（一七二四）、寛延四年（一七五二）にも夫々再興した。天明八年（一七八八）領主大岡亀之丞が、本殿、末社を修復し覆殿を新造した。

祭りの日に拝殿正面の鰐口を鳴らすと、ドンドンと

音がして神様が出てくるという伝説がある。その昔、社殿に棲みついた貂が鰐口の音に驚いて音をたてたためというのが伝説の由来である。

（宮司 石井直樹）

例祭 神祭  
湯立て神楽  
七月最終日曜日もしくは八月  
第一日曜日 御輿渡御  
伊弉冉命・事解男神・速玉男神  
一月二十八日に近い日曜日  
家内安全



熊野神社参道

◆ 交 通  
◆ 連絡先  
◆ 御神徳  
◆ 宮司  
◆ TEL  
◆ 家内安全  
◆ 石井直樹  
◆ 大船駅よりバス江の島行き、津村行き、鎖大師下車徒歩二分

# ごれいじんじや 御靈神社

# (梶原御靈神社)

〒247-0063 鎌倉市梶原1-12-27 鎮座



社伝によれば建久元年

から祀られたという。

(一一九〇) 梶原平三景時、景政公の御靈を祀り御靈社と称したこの地は鎌倉權五郎景政を祖とする梶原氏に縁が深いこと

「相模風土記」には鎌倉權五郎景政公夫婦の像と伝える木像二体と梶原平三景時の木像を置き等覚寺持とある。梶原平三景時の墓と伝える五輪塔など四基がやぐらの中にある。

鎌倉權五郎景政は恒武天皇の子孫で平家一門である

が当時、関東には大庭、梶原、長尾、村岡、鎌倉の平氏五家があつて、これら先祖をまつる神社として五靈神社がたてられ、その五靈が御靈に変わり、いつしか祭神も景政一柱になつたものと考えられる。

景政は永承五年（一〇五二）後冷泉天皇の命を奉じて源頼義と奥州に下向し阿部定任、宗任と合戦時、敵

鳥海弥三郎友繩に左目を射られし、抜かざるを七日遂に弥三郎を討ち大勝して本陣に帰る。天喜元年（一〇五二）鎌倉權五郎景政に御靈大権現の神号を奉り村岡村に奉齋せり後年

鎌倉權太夫景通、梶原村に居り屋号を梶原と改む。後、景時、御靈社を建立した。

初めは葛原岡に創建されたとか、坂の下の御靈神社はこの社から移されたものともいわれる。狛犬は日露戦争の凱旋を記念して造られ、奉納された。

〈宮司 石井直樹〉

◆御祭神

鎌倉權五郎景政

◆例祭

梶原平三景時

◆御神徳

家内安全・武運長久

◆連絡先

御靈神社宮司 石井直樹

◆文 通

Tel 〇四六一七四七一四七九八  
湘南モノレール湘南深沢駅より徒歩五分

# 諏訪神社 (お諏訪様)

〒247-0073 鎌倉市植木96 鎮座



永正九年（一五一二）北条早雲が小田原城の支城として玉繩城を築いた際、城内東北隅（諏訪壇）に諏訪神社を勧請し、鬼門除けの鎮護神として崇

めた。爾来、代々の城主、北条佐馬助氏時、氏綱、綱成、氏勝等北条一族の崇敬頗る厚かつたが、天正七年（一五八九）城主氏勝、豊臣秀吉に敗れ、元和元年（一六一九）徳川氏城郭を廃棄せし時、村民、神社の荒廃を憂い現在の地に奉遷し、御靈社と合祀された。

奉遷後、歴代領主、松平正綱筑後守君美、蛭川相模守親文等崇敬厚く村民も同様であつた。

相模風土記には玉泉寺持ちとある。

明治、大正、昭和の大戦までは武神として崇められたが今は農耕神としての性格が強い。

平成二四年、玉繩城築城五百年にあたり、歴代城主

奉遷後、歴代領主、松平正綱筑後守君美、蛭川相模守親文等崇敬厚く村民も同様であつた。

相模風土記には玉泉寺持

音楽祭、絵画展等多彩な模様しものが行われ、その歴史的意義と遺産が次世代に引き継がれた。

の法要、城跡周辺の整備、武者行列音楽祭、絵画展等多彩な模様しものが行われ、その歴史的意義と遺産が次世代に引き継がれた。



連絡先

Tel ○四六一七四七一四七九八  
大船駅西口より徒歩二十分

諏訪神社宮司 石井直樹

記事 神祭 祭

武御名方神・八坂刀売神  
勝運・五穀豊穣・家内安全

北条綱成公は、黄八幡といわれた有名な武将であったが、天正十五年七十三歳で没した。公一門の墓は社殿脇の山径を登った山頂にある。

# しんめいじんじや 神明神社 (神明様)

〒247-0072 鎌倉市岡本2-6-24 鎮座

創立起源など不詳であるが、五穀豊穰と村民の安寧を祈念し崇められてきた。  
〈宮司 石井直樹〉



神明神社境内



◆ 交 通  
◆ 連 絡 先  
◆ 御 神 德  
◆ 例 祭  
◆ 祭 神  
◆ 家 内 安 全  
◆ 天 照 皇 大 神  
◆ 伊 邪 諸 尊  
◆ 四 月 十 七 日 に 近 い 日 曜 日  
◆ 神 明 神 社 宮 司  
◆ 石 井 直 樹  
◆ 大 船 駅 西 口 より 徒 歩 十 分  
TEL ○四六一七四七一四七九八



神明神社鳥居

# しおがまじんじや 鹽竈神社

〒247-0061 鎌倉市台1-5-15 鎌倉



創立年月は不詳である  
が、口碑の伝えるところ  
によれば、徳川の末期の  
頃、当所の娘が仙台公に  
仕え鹽竈神社を崇敬する  
こと頗る厚く、帰郷する

にあたり主公の許しを得て御分靈を  
いただき、小祠を建て崇敬の至誠を  
ささげた。明治に至り町の発展とと  
もに何時とはなしに近隣の住民も氏  
神様と仰ぎ今日に至った。

御本社の縁起ると塩土老翁神、  
武甕槌神・経津主神を先導

して塩釜に至り、土民に塩  
を煮て作る事を教え、塩竈  
神として祀られたという。  
航路の安全、漁業、製塩、  
安産の神として信仰が篤  
い。

全國に分祀が多いが、主

として東北地方には開拓の  
守護神として瀬戸内は製塩  
の神として奉齋されてい  
る。当社では安産の神様と  
しての信仰が篤い。

尚、神奈川県内には他に、

塩釜様を祀るところがなく当社のみ  
である。  
〈宮司 石井直樹〉



塩竈神社狛犬

◆	祭 神
◆	塩土老翁神・武甕槌神
◆	経津主神
◆	七月十日に近い日曜日
◆	例 祭
◆	安 産
◆	御 神 德
◆	連絡先
◆	塩竈神社宮司 石井直樹
Tel	〇四六一七四七一四七九八
	大船駅東口より徒歩五分

# やさかおおかみ 八坂大神 (相馬天王)

〒248-0011 鎌倉市扇ガ谷1-13-45 鎌座



由緒沿革  
建久三（一一九二）年  
相馬次郎師常が自邸（異  
神社の脇）の守護神とし  
て勧請したが、後に網引（あみびき）  
地蔵の西の山麓に遷さ  
れ、更に寿福寺本堂の脇を経て現在  
地に奉遷された。世俗に「相馬天王」  
と称され、爾来、扇ガ谷の鎮守とし  
て崇敬される。享和元（一八〇二）  
年及び慶応元（一八六五）年に改築  
があり、明治二年神仏分離に際して  
「八坂大神」と改称、同六年  
村社に列格した。中世、  
御神幸の神輿荒ぶるを以て  
師常館の岩窟に納め、別に  
神輿を調進したと伝えられ  
る。独特の六角神輿は宗社  
たる京都八坂神社のそれを  
伝承したものである。

〈宮司 小池千穎〉



境内

✿ 祭 神  
✿ 例 祭  
✿ 連絡先

✿ 祭

✿ 神

素戔鳴尊・葛原親王・桓武天皇  
くわらねこのみこと・くわらねちゆう・かむらむくんのう

葛原親王・高望王  
くわらねちゆう・たかまちおう

七月五日～十二日の間の日曜

諏訪神社社務所

TEL〇四六一八二二一〇二〇八  
「JR横須賀線・江ノ島電鉄  
鎌倉駅」より徒歩八分

鎌倉

たつみじんじや  
**翼神社** (翼荒神)

〒248-0011 鎌倉市扇ガ谷1-9-7 鎮座

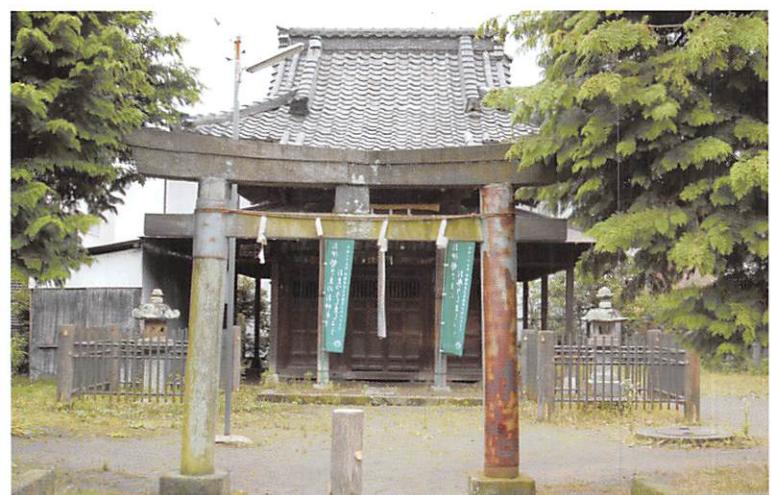


由緒沿革

延暦二十（八〇一）年  
坂上田村麻呂が東夷鎮撫の途上、当郡葛原岡に勧請したのに始まり、永承四（一〇四九）年源頼義

が社殿を改修したと伝える。その後、寿福寺境内の鎮守として奉斎されたが、再び遷って現在地に鎮座した。この地が寿福寺の翼の方角に当ることから「翼荒神」と称された。近世、淨光明寺が所管した。天正十九（一五九一）年社領一貫文の地を寄せられたと『新編相模國風土記稿』に見える。また徳川幕府から朱印地を寄せられている。天保六（一八三五）年社殿の改築があり、明治六年村社に列格した。

〈宮司 小池千穎〉



境内入り口

◆  
交 通

◆

◆  
連絡先  
例 祭

◆

◆  
祭 神

◆

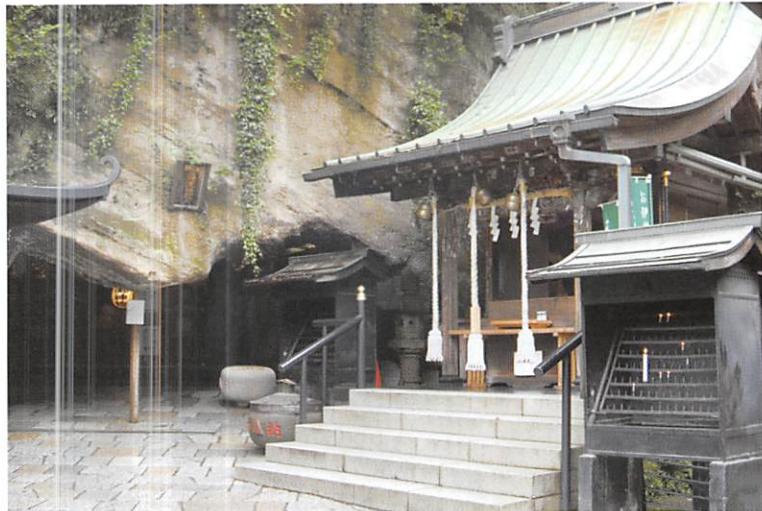
奥津日子神・  
火産靈神  
十一月下旬  
おきつひこのかみ  
はりすぢのかみ  
おきつひめのかみ

諏訪神社社務所  
TEL 〇四六一八二二一〇二〇八

鎌倉駅より徒歩六分

# 錢洗弁財天宇賀福神社

〒248-0017 鎌倉市佐助2-25-16 鎌座



由緒沿革  
創立起源は不詳であるが、伝承に源頼朝公が鎌倉建府の後、幕府の安泰と民心の安寧をひたすら神仏に祈請していた処、

文治元（一一八五）年巳月巳日の夜の靈夢の導きによつてこの宇賀福神にあやかつてここを信仰する者が次第に増えたといふ。神仏習合によつて久しく弁財天（吉祥天女）の名で親しまれていたが、明治の神仏分離令により神社となつた。境内の岩窟より湧出する靈水にて錢貨を洗えば福寿開運するとの信仰が広く全国に行き渡り、縁日たる巳の日には熱心な崇敬者の参詣が多い。『新編相模風土記稿』に「隠里。村の西方佐助谷にある大岩窟を云ふ。往古夜中に人語のみを語りしと云ふ。又窟

と民心の安寧を得るに及び、爾来これ民心の安寧を得るに及び、爾來これにあやかつてここを信仰する者が次第に増えたといふ。神仏習合によつて久しく弁財天（吉祥天女）の名で親しまれていたが、明治の神仏分離令により神社となつた。境内の岩窟より湧出する靈水にて錢貨を洗えば福寿開運するとの信仰が広く全国に行き渡り、縁日たる巳の日には熱心な崇敬者の参詣が多い。『新編相模風土記稿』に「隠里。村の西方佐助谷にある大岩窟を云ふ。往古夜中に人語のみを語りしと云ふ。又窟

中に錢洗井と云ふあり、福神此の水にて錢を洗ふと云伝ふ。鎌倉五水の一なり」とある。

## ◎境内社

七福神社 祭神 大黒天  
毘沙門天 弁財天 布袋  
福禄寿 寿老人

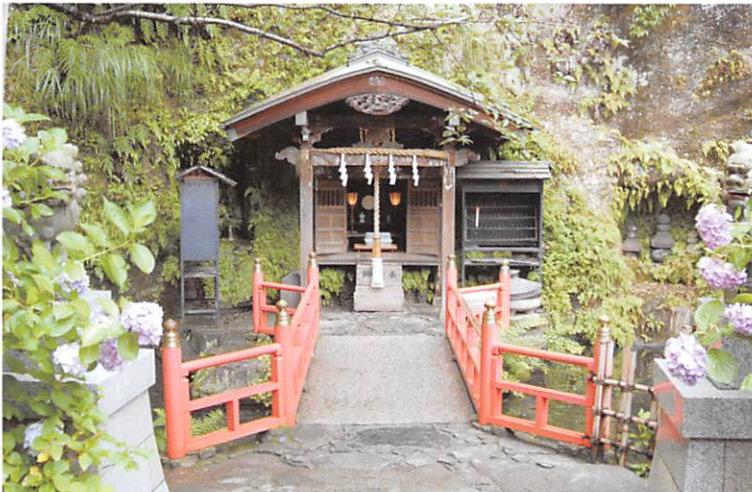
神仏混淆時代の形を留め、古來から我が国の代表的な福神として広く親しまれている七神であり、福德円満商売繁盛の御神徳により崇敬されている。

上之水神宮 下之水神宮 祭神  
両社ともに水波売神

人類を始め生きとし生けるものに欠かせぬ生命の根源とも云うべき神であり、水に所縁のあるところには必ず奉斎される、当社神泉の水口の守護神として祀られている。



本殿



下之水神宮

連絡先 交通	例祭 祭神	祭 大祭	中祭 市杵島姫命	九月白露日日
錢洗弁財天宇賀福神社社務所				
Tel ○四六七一二五一一〇八一				
「JR 横須賀線・江ノ島電鉄 鎌倉駅」より徒歩二十分				



社務所

# すいてんぐう 水天宮

〒247-0061 鎌倉市台5-3-7 鎌座



由緒沿革  
鎮座地は通称末広町と  
呼ばれ、従来は台の塩釜  
神社の氏子区域に属して  
いたが、所謂新開地とし  
て住民が一区域を形成

し、また氏神社にも距離遠いことか  
ら、町内に鎮守を奉斎したいとの要  
望が強く、遂に昭和三年九月五日、  
水難除、安産守護の神たる水天宮を  
建立し爾來住民の安居和合の中心と  
して崇敬されている。当社の社殿は

僅か一坪の小社であつた  
が、同四十年拝殿併設の社  
宇に改築した。



〈宮司 小池千穎〉



例祭の様子

綿津見神・表筒男命  
中筒男命・底筒男命  
諏訪神社社務所  
TEL〇四六一八二二一〇二〇八  
「JR横須賀線・江ノ島電鉄  
鎌倉駅」より徒歩六分

由緒沿革

鎮座地は通称末広町と

呼ばれ、従来は台の塩釜

し、また氏神社にも距離遠いことか  
ら、町内に鎮守を奉斎したいとの要  
望が強く、遂に昭和三年九月五日、  
水難除、安産守護の神たる水天宮を  
建立し爾來住民の安居和合の中心と  
して崇敬されている。当社の社殿は

綿津見神・表筒男命  
中筒男命・底筒男命  
諏訪神社社務所  
TEL〇四六一八二二一〇二〇八  
「JR横須賀線・江ノ島電鉄  
鎌倉駅」より徒歩六分

神  
祭  
通  
連絡先  
例  
交

中筒男命・底筒男命

諏訪神社社務所

TEL〇四六一八二二一〇二〇八

「JR横須賀線・江ノ島電鉄

鎌倉駅」より徒歩六分

# りゅうこうみょうじんしゃ 龍口明神社

〒248-0033 鎌倉市腰越1548-4 鎮座



縁起に依れば、欽明天皇十三年（五五二）四月の創立といい、江ノ島神女の靈感で降伏した深沢に棲んでいた五頭龍を祀るという。

「相模風土記」に『龍口明神社津村、腰越両村の鎮守なり（中略）津宝善院持』とある。この地付近は、昔は津村の郷であり、安永二年（一七七三）片瀬村の領域に帰することになったが神社地及び社有地は飛地として津村のものになつて

いる。しかし神社地が氏子地区の辺隅である隣接行政

地域に飛地として地理的に極めて不自然な形態をとつて鎮座していたがため、氏子より鎮座移転の要望が強く、氏子地域内に遷座することを決定し、昭和五十三年九月三十日に遷座祭を斎行し神嚴な威容をもつて鎮座された。

元指定村社で津村区の氏神社である。五頭龍降伏の

伝説に伴い、江島神社六十一年式年大祭には必ず神輿が江の島に渡るを古例としている。

## 〈宮司相原園彦〉

十月第一または第二土・日曜

心願成就・勝運守護など

唐破風向拝殿（千鳥破風・

銅板葺三棟一宇 全体で

四一・四三坪

一一〇戸 崇敬者三〇〇人

相原園彦 権祢宜 岡田匡大

Tel 〇四六七一三二一〇八三三

湘南モノレール西鎌倉駅より

徒歩五分・江ノ電バス龍口明神社前下車徒歩〇分



経六稻荷神社

## てみず 手水の作法

柄杓に口をつけてはいけません

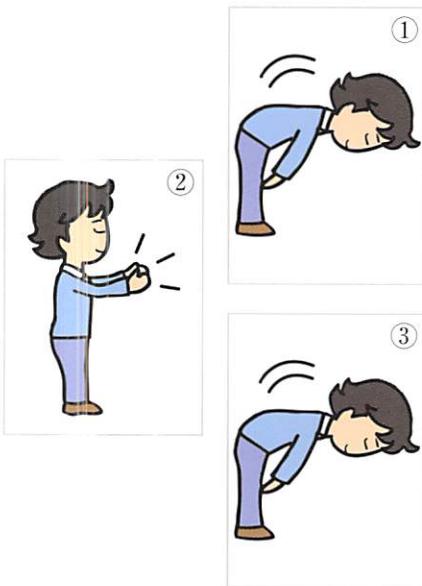


まず、神社の入り口には鳥居があります。鳥居をくぐるときは、気持ちを静かに、頭を下げてくぐります。他の人の家を訪問するとき、いきなりドアを開けたりしないことと同じです。また、参道を歩くときは、神さまの真正面にあたる中央をはずします。

次に、鳥居をくぐりぬけると、手水舎といつて、手や口をお清めするところがあります。お清めの作法は、①まず柄杓を右手に持ち水を汲みます。その水を左手にかけ、洗い清めます。②今度は柄杓を左手に持ち替え、同じ様に、右手を洗い清めます。③次に柄杓を右手に持ち替えて、左手に水を受けて口をすすぎます。④最後に、口をすすぐだ左手を洗い清めます。柄杓に直接口をつけてはいけません。

## お参りの作法

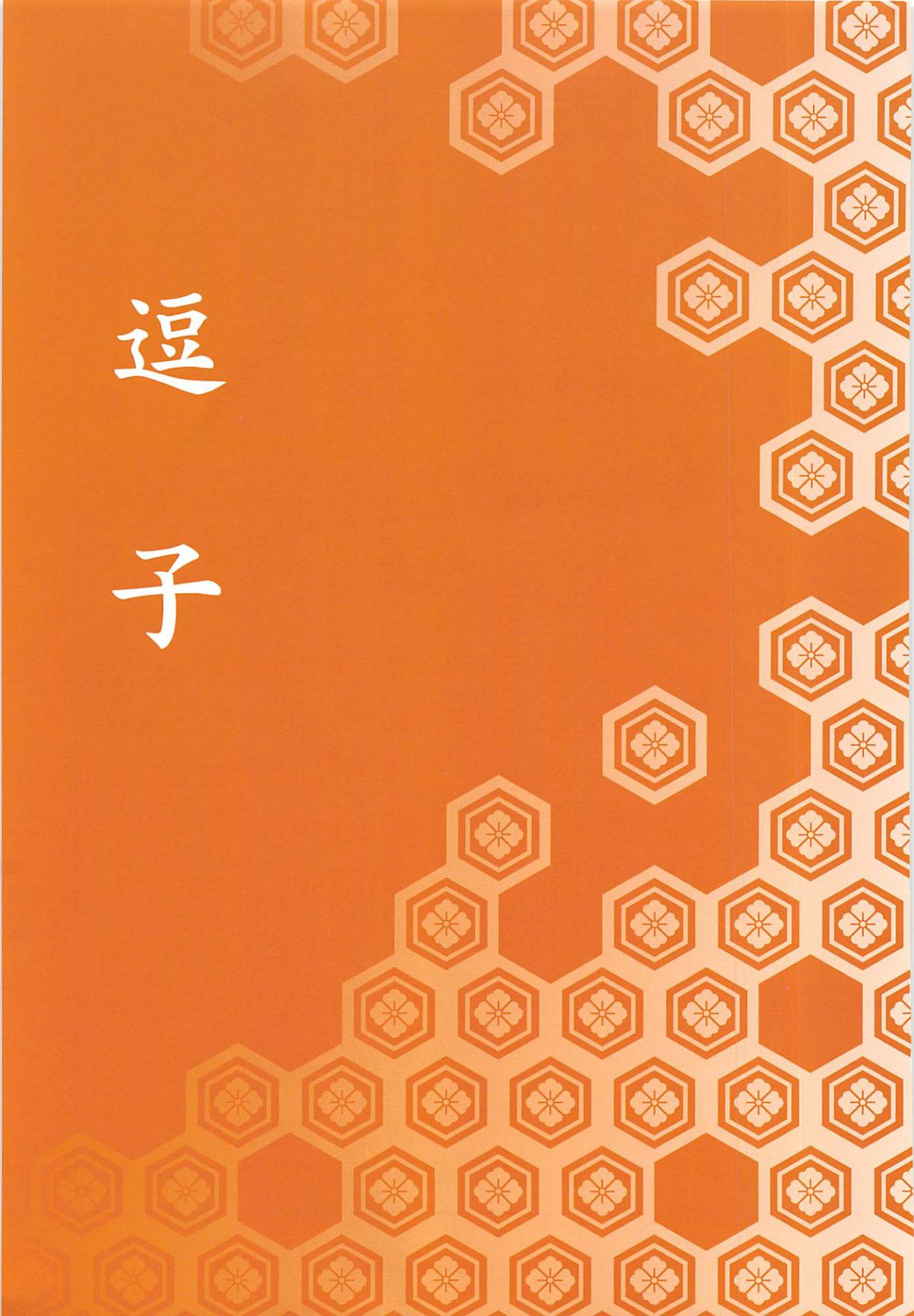
日本人の常識が問われます



神社の前に立つたら、鈴がある場合にはそれを鳴らします。これはその鈴の音で自らを祓い清めるという意味と、お参りに来たことを神さまにお知らせするという意味があります。

次にお参りの作法ですが、①先ず二回深くお辞儀をします。次に心静かにお祈りをします。お祈りをする時は、声を出しても、心の中でお祈りしてもどちらでも結構です。②次に二回手をたたき、③その後一回深くお辞儀をします。「二礼二拍手一礼」これがお参りの作法です。二回お辞儀をし、二回手をたたくのは丁寧に神さまにご挨拶したいとの思いからです。

逗  
子







# てんしょうだいじんしゃ 天照大神社

〒249-0008 逗子市小坪4-20-1 鎮座



小坪伊勢町にある伊勢山の山頂に鎮座する。石段百八十余段を登りつめた山巔は眺望絶佳で社殿は海に面して建つ。背後は披露山庭園住宅地の隅

山の山頂に鎮座する。石段百八十余段を登りつめた山巔は眺望絶佳で社殿は海に面して建つ。背後は披露山庭園住宅地の隅

黄梅院藏康安二年（一二三六）の文書に小坪神明神畑一枚と見ゆ。」とあり室町時代初期にはすでに神領を有していたことが判る。

江戸時代まで仏乗院が別

当であった。明治維新によ

り寺の管理を離れ明治六年

村社に列格、小坪の氏神と

定められた。明治四十一年

國の定めた村社としての施

設財産を設定するため氏子

百余戸が二年間にわたり各

戸毎に月十五銭を積立て規

定に適合した財産を蓄積し

たことは氏子住民の信仰と

心意気を示した美談として語り継がれている。

小坪伊勢町にある伊勢

に位置する。

勧請の年代は未詳だが新編相模風土記稿に「神明宮。村の鎮守なり。

黄梅院藏康安二年（一二三六）の文書に小坪神明神畑一枚と見ゆ。」とあり室町時代初期にはすでに神領を

大正十二年関東大震災により明治十五年に建立した社殿が倒壊したため昭和十二年七月に現社殿が建立された。平成十二年九月より社殿の大修理が行われ平成十三年二月に完成し現在に及んでいる。

境外末社 須賀神社 小坪一九二番地

素盞鳴尊を祀る。

相模風土記稿に「天王社是も鎮守なり」とある。特殊祭事として十三年目毎に葉山の森山神社に神幸する神事がある。「三浦古尋録」によれば「コノ祭リハ三十三年目毎也。

此祭礼ノ時ハ例ニヨツテ小壱村ノ天王ノ神輿ヲ借用フルトナリ。祭礼神輿ニ札ヲ張、今其三十四枚有、此札

年来ヲ数レハ文化壬申年迄千百二十二年ニナル」とある。これによれ

ば奈良朝時代から続いていることに

なる。新編相模風土記稿に「神樂、管絃を奏し二神輿を舁て海岸に至る。是を神忌と云う。」とあり、この祭りの古い伝統型式を物語っている。

須賀神社の祭神素盞鳴尊（男神）に対し、森山神社の祭神稻田姫命（女神）であることから女夫神としての



天照大神社本殿



百八十余段の石段参道

行合祭ゆきあいと伝える。

近年では平成八年に斎行された。

現在の神輿は明治二十六年に旧神輿を改め新造されたものであるが、その掛鏡には寛保三年（一七四三）の刻銘があり、旧神輿のものを転用したものと思われる。

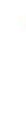
〈宮司 小坂周防〉



天照皇大神

御祭神  
交 通

バス停小坪海岸より徒歩十二分  
車では披露山庭園住宅地内を  
通つて境内脇参道まで来れる。  
駐車場特になし。



天寶

物 例 祭

神輿一基（掛鏡に寛保三年（一  
七四三）銘あり）  
九月十五日 例祭

天王祭

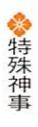
須賀神社七月月中旬日曜日から  
一週間

七月十五日前の日曜日 神幸祭  
翌週の日曜日 還幸祭

三十三年祭 行合祭

家内安全 海上安全 諸願成就

大漁満足 海上安全 疫病除



須賀神社  
御神徳  
特殊神事



境外末社 須賀神社

かめがおかはちまんぐう

# 亀岡八幡宮

〒249-0006逗子市逗子5-2-13 鎮座



勧請の年月は明らかでないが、新編相模風土記稿によれば、「八幡宮、村の鎮守なり。延命寺持」とある。昔は真言宗延命寺が別当として管理

し、御神体は常に同寺に安置され大祭にあたってこれを奉持し、行列を連ねて社殿に遷し祭儀を執行するのが例であつたと伝える。明治維新により延命寺の管理から離れ明治六年十二月村社に列格、逗子の氏神と定められた。大正八年十二月神饌幣帛供進神社に指定された。

社号は古くは「八幡宮」と称したが、昭和二十八年十月宗教法人「亀岡八幡神社」として登録されたが、常には慣習で「亀岡八幡宮」と呼称されている。

亀岡の称については、当社の境内は公の地籍上「高畠」という小字になつておらず、なだらかな岡で亀の背中のようにあつたところ

が生まれた。

祭にあたつてこれを奉持し、行列を連ねて社殿に遷し祭儀を執行するのが例であつたと伝える。明治維新により延命寺の管理から離れ明治六年十二月村社に列格、逗子の氏神と定められた。大正八年十二月神饌幣帛供進神社に指定された。

ろから、鎌倉の鶴岡に対し亀岡の称が生まれた。

社殿は大正十二年二月に新築され、その年九月一日の関東大震災に遇つたが辛うじて倒壊を免れ修復を加えて現在に至っている。

拝殿の扁額「八幡宮」は正二位伯爵東郷平八郎謹書である。

境内にはケヤキやイチヨウの大木がある。中でも社殿に向つて右側にある銀杏が一番大きく昭和三年発行の「逗子町誌」には、周囲八尺七寸五分、高さ十間を越ゆと記されている。

末社 萬榮稲荷社 宇賀之御魂神を

祀る。もとは今の市役所の南側にあつたが大正十二年二月十五日境内に移し新築したが更に警察署（今の市

役所の入口あたり）の建設にあたり現在地に移した。

大神宮社（浅間祠）天照大御

神を祀る。古くは逗子駅西

口前の山上に鎮座していた

が後年八幡宮に合祀され

た。その跡地にささやかな

石祠が残されていて、浅間

様と呼ばれていたが昭和四

十一年五月境内に移された。

（宮司 小坂周防）



亀岡八幡宮社殿と狛犬



亀岡八幡宮境内入口



浅間祠



末社 萬栄稻荷社

- |      |              |              |
|------|--------------|--------------|
| 逗子   | 御祭神          | 應神天皇         |
| 例祭   | 交通           | JR逗子駅より徒歩三分  |
| 御神徳  | 京急新逗子駅より徒歩三分 | 七月十六日 例祭 神幸祭 |
| 家運隆昌 | 文化発展         | 諸願成就         |

# ひさきじんじゃ 久木神社

〒249-0001逗子市久木6-2-39 鎮座



当所は昔、久野谷村と柏原村に分かれていたが、明治七年（一八七四）二村が合併して久木村となつた。久野谷村には稻荷社が、柏原村には柏原

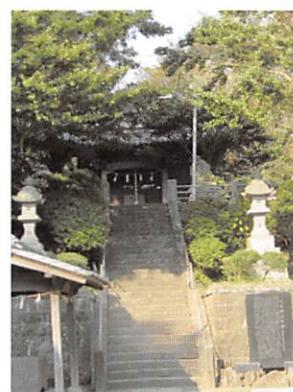
明神社がそれぞれの鎮守として祀られていた。

新編相模風土記稿に「稻荷社妙光寺持」とあり、享和二年（一八〇二）総鎮守として、再建された記録があり、また文政八年（一八二五）の書上帳に「柏原明神社村の鎮守なり。古は子の神と号せしが、元禄年中（一六八八～一七〇三）今の神号に改む。」とある。

明治維新により妙光寺の管理を離れ、明治六年（一八七三）稻荷社が村の氏神として村社に列格された。翌明治七年両村が合併して久木村となるに及び両村民会議の上、明治十五年（一八八二）両社を合併し、久木村の鎮守として「稻荷神

社」と称し、社殿を新築した。大正十二年九月関東大震災により社殿が倒壊したが、大正十四年十月現社殿を新築した。昭和十九年十一月神饌幣帛供進神社に指定された。昭和四十五年社号の稻荷神社を「久木神社」と改称した。

〈宮司 小坂周防〉



境内より社殿を望む

御神徳

◆

例祭

◆

御祭神  
宇迦之御魂命

◆

交通

◆

JR逗子駅西口より徒歩十五分  
神社近隣には学校法人聖和学院  
並びに市立久木小学校がある。

七月末の土・日  
土曜日 前夜祭

日曜日 例祭

商売繁昌 家内安全 五穀豊穰  
諸願成就

# ごりょうじんじや 五靈神社

〒249-0004逗子市沼間3-10-34 鎮座



五靈神社創建の年代は明らかではないが、源義朝公が沼間の館の鎮守として勧請したと伝える。新編相模風土記稿に「御靈社、牛頭天王を合祀す」

と記され、天保七年（一八三六）十一月書上絵図面の相州三浦郡沼間村の条にも「御靈社」と見える。村内には、このほかに古くは熊野大神、大神宮、諏訪明神が祀られていたが明治四十二年頃当社に合祀された。

社名は明治八年の田畠等

反別取調野帳に「五靈社又は御靈社」とあるが、「五靈神社」に統一した。

明治六年十二月村社に列格。沼間の氏神と定められ、大正十年七月神饌幣帛料供進神社に指定された。

境内にはアカガシ・ケヤキ・イチヨウ等、市の保存樹木が繁る。中でも銀杏の老樹は、当神社勧請の折に植えられたものと伝えられ、昭和四十一年七月神奈

川県天然記念物に指定された。昭和五十九年十二月、かながわ名木百選の内に選ばれた。当時の記録では高さ二十五メートル、胸高周囲六・七メートルと記されている。



（宮司 小坂  
周防）

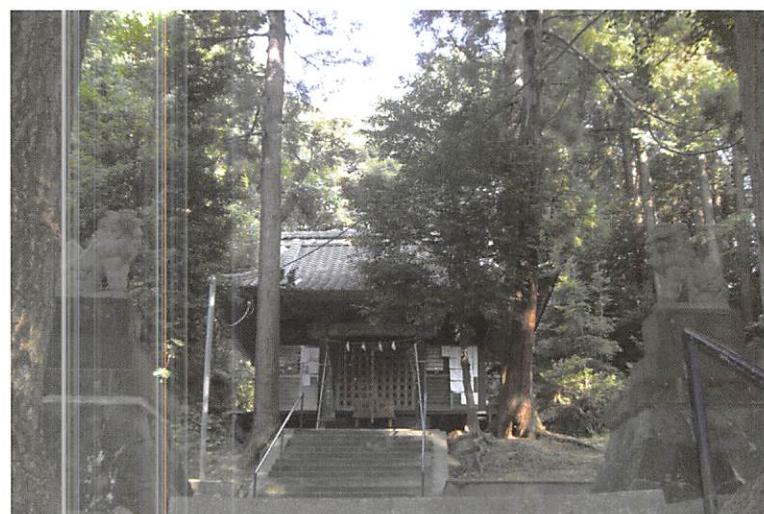


県天然記念物大銀杏

御神徳	天手力男命
例祭	JR東逗子駅より徒歩十分
宝物	バス停宮の下から徒歩〇分
交通	神輿一基
日曜日	七月十八日に近い土・日
除災招福	土曜日 例祭
知力向上	
諸願成就	

# しんめいしゃ 神明社

〒249-0005 逗子市桜山6-285 鎮座



小高い桜山の山頂に鎮座し、天照皇大神を祀る。古来、「桜山の大神宮さま」と呼ばれ、広く崇敬を集めた。現在でも桜山地区の総鎮守とされる。

例祭は七月十六日に行われ、当日は朝早くから、清掃をはじめ氏子、総代全員が、長い登山道のような参道を往復して準備が進められ、神事が厳かに執り行われる。

由緒等は不詳であるが、『新編相模國風土記稿』には「大神宮。村ノ鎮守。例祭止月九日。沼間村神武寺持」とある。

また、境内には文政四年（一八二二）銘の鳥居柱

があり、上部は関東大震災で折れたという。社殿は大正十一年（一九二二）に建て替えが行われた。

また、桜山の近く、田越川のほとりには、平維盛の子・六代が処刑されたといふ、六代御前の墓所がある。

（宮司 小林孝男）

御神徳	例祭 神	天照皇大神
交 通	祭 神	七月十六日
連絡先	天 照 皇 大 神	御靈神社社務所
御神徳	御靈神社社務所	TEL ○四六七一二二一三三五 JR逗子駅よりバス「逗子消 防署前」下車徒歩五分 家運隆昌・家内安全



山中の拝殿へ続く登り口

# くまのじんじや 熊野神社

〒249-0002 逗子市山の根2-4-1 鎮座



「山の根」の地名通り、小高い山の麓に鎮座する。山の根地区の鎮守とされる。祭神は伊弉諾尊、伊弉冉尊を祀り、例祭は毎年七月最終日曜日に行

われる。子供みこし、夜店などが出て賑わう。

由緒等は、明治二年（一八六九）の社殿炎上の際に失なわれたために不詳だが、源頼朝の勧請で、莊嚴な社殿が建てられたという。『新編相模国風土記稿』には「熊野社。村ノ鎮守ナリ。松本寺持」とある。

現在の社殿は、昭和十二年（一九三七）に氏子の浄財をもって再建された。

また、境内には横穴古墳群の遺跡があり、須恵器や鉄の鏃などと共に、鎌倉期の素焼小皿などが出士した。古代よりこの地域には、人々が生活していたことがわかる。

（宮司 小林孝男）



住宅街のなかにある鳥居

◆ ◆ ◆  
連絡先 例 祭 神

伊弉諾尊・伊弉冉尊  
七月最終日曜日  
御靈神社社務所  
TEL〇四六七一二二一三三五一

# ねののかみしや 子ノ神社

〒249-0005 逗子市桜山7-8-29 鎮座



金剛寺より百メートル位の所にある小高い丘の麓に鎮座する。当社は大國主命を祀り、桜山仲町地区の鎮守とされる。古来より農業の守護神とし

て崇められてきた。由緒等は不詳であるが、「新編相模国風土記稿」には「子ノ神社、金剛寺持」とある。

『郷土誌さくらやま』には、子ノ神社の五枚の棟札が紹介され、延宝五年、元文五年、文政二年、昭和十五年、昭和二十年にかけて同誌には、子ノ神社の氏子に赤ちゃんが生まれると、子ノ神社に赤飯を供えて参拝し、帰りに宮本の久右衛門の屋敷に寄り、久右衛門は赤ちゃんを白に入れ、杵で搗く真似をしながら「三浦の大介百六つ、この子の年は数知れず」と唄つたといふ風習が記されている。

小社ながら、子ノ神社が地域の人々と深く結び付いていたことがわかる。

例祭は七月十四日に執り行われている。  
（宮司 小林孝男）



社殿

御神徳

農業守護・家内安全

交 通

TEL ○四六七一二二一三三五一  
京浜急行「新逗子駅」より徒歩十分

連絡先

御靈神社社務所

例 祭 神 大國主命  
七月十四日

# しんめいしゃ 神明社

〒249-0003 逗子市池子2-10-11 鎮座



社殿正面

由緒沿革  
建久三（一一九二）年 源頼朝公の勧請と伝えられ、正徳三（一七一三）年社殿の改修がなされ、文政三（一八二〇）年に

は将軍徳川家斉公  
が社殿を再興した。以来徳川家の  
戸徳川家は菩提寺の鎌倉英勝寺から

人を遣わして祭儀に参列せしめるを

例とされ、明治初年までこれが続いた。同六年村社に列格。同十年「合祀令」により近隣の須賀社、稻荷社、六所明神、子神、春日社、神尾社、三嶋社を合祀した。昭和六十三年社殿を造替し現在に至る。

（宮司 小池千穎）

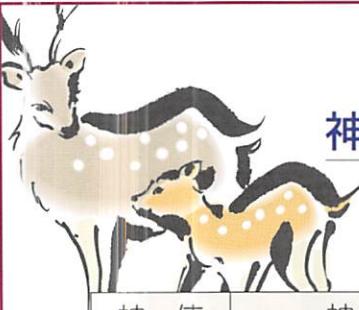


神輿発輿



境内入り口

神	祭	合祀神	例	連絡先	交通	逗子
大日靈貴命	おおひるめむらみこと					
素戔鳴尊・倉稻魂命	すさののむちこと					
子神・春日大神・神尾大神	ねのかみ・かすがの大おおかみ・かみおおおかみ	六所明神	七月十三日に近い日曜	「京急神武寺駅」より徒歩一分	TEL〇四六一八二一一〇二一〇八 諏訪神社社務所	交 通
三島明神	みしまみょうじん					



## 神様のお使いの動物



神使	神社
鶴	神明社
鹿	春日神社
	鹿島神社
	厳島神社
猿	日吉神社
	春日神社
鳥	熊野神社
	住吉神社
	諏訪神社
	羽黒神社
	日吉神社
鳩	八幡神社
狐	稻荷神社
蜂	二荒神社
	日吉神社
牛	天満宮



奈良の春日大社を参拝されたことがある人は、たくさんの中の鹿を目にしたことでしょう。なぜ奈良の人が鹿を大切にするかというと、それは鹿が春日の神さまのお使いと信じられてきたからです。お使いは神使ともいい、神さまのご意志を人間に伝えると信じられた動物のことです。

古事記・日本書紀には、天照大御神さまが八咫烏（ハチミツウ）を神武天皇の道案内として遣わしたことが記されており、このことから熊野大社では八咫烏を神さまの使いとして尊崇しています。最近ではサッカーの日本代表のシンボルとしても有名です。

そのほか、稻荷神社の狐や八幡神社の鳩、天神さまの牛、弁天さまの蛇、大黒さまの鼠、日吉神社の猿など、全国各地の神社でさまざまに伝承が残されています。

葉

山





# もりとだいみょうじん 森戸大明神

もりとじんじゃ  
(森戸神社)

〒240-0112 三浦郡葉山町堀内1025 鎮座

永暦元年（一一六〇）伊豆の蛭ヶ小島に流された源頼朝公は、三嶋明神を深く信仰し、源氏の再興を祈願した。

治承四年（一一八〇）

その神助を得て旗挙げに成功し、天下を治めた頼朝公は、信奉する三嶋明神の御分霊を鎌倉に近きこの聖地に勧請し、永く謝恩の誠を捧げたと伝えられている。「吾妻鏡」によれ



ば、歴代将軍自らこの地を訪れ、流鏑馬、笠懸、相撲等の武事を行つたという。また、災厄が生じると加持祈祷が行われ、七瀬祓の靈所としても重要な地であつたと記されている。

源氏はもとより三浦、北

条、足利諸氏の崇敬も篤く、天正十九年（一五九二）には徳川家康公より社領七石が寄進された。

延宝二年（一六七四）に

徳川光圀公が、明治の御世に移り葉山の御用邸が造営

され、御滞在の折には、天皇皇后両陛下を始め皇室の方々の御参拝を仰ぎ、葉山の総鎮守として近郷近在より訪れる参詣者で社頭は賑つている。

境内社には、喉を使う職業の方や咳の止まらない方などから篤い信仰のある「おせき稻荷社」や「まいられよ 子宝の福 さづかりに」という句碑が建つ。「水天宮」には靈験あらたかな「子宝石」と「子産石」が祀られており、子宝の福を求める夫婦や安産を願う人等で賑っている。

境内は見所も多く、相模湾・箱根・伊豆半島、世界遺産である富士山を望むことができ、夕刻の神々しく輝く「森戸の夕照」は、かながわ景勝五〇選に選ばれている。

また、源頼朝公が元暦元年（一一八四）に参拝した折、三嶋明神より

種子が飛来し発芽したと伝わる御神木「飛柏楨」(かながわ名木一〇〇選)や養和元年(一一八二)に源頼朝公が衣笠城へ向かう途中、森戸の浜で休憩した折、岩上の松を見て「如何にも珍しき松よ」と褒め称え、出迎えた和田義盛が「千貫の値ありとて千貫松と呼びて候」と答えたと伝わる「千貫松」、葉山御用邸の建設をすすめ葉山町発展の礎を築いたベル

ツ博士とマルチイーノ公使の顕彰碑などもある。

毎年九月七日、八日に行われる例祭には町内のみならず町外から多くの人等が訪れ、鎌倉時代から伝わる湯立神楽の奉納や御神輿が町を練り歩き、祭りは頂点に達する。

#### 〈宮司 守屋大光〉

記事

御神徳

厄除開運・安産・子授

学芸上達・家内安全・商売繁盛  
諸願成就他

八日  
例祭

九月七日・八日  
例祭

宵宮祭

護摩焚上神事

九月七日・八日  
例祭

九月七日  
例祭

宵宮祭

護摩焚上神事

九月七日・八日  
例祭

九月七日  
例祭

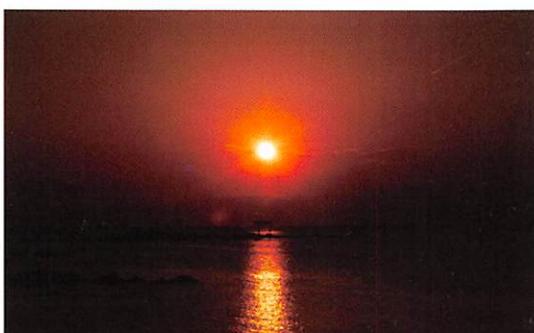
宵宮祭

護摩焚上神事

おおやまとまつみこと  
ことじしらのじのいと

大山祇命・事代主命

水天宮・おせき稻荷社・総靈社他



森戸の夕照



潮神樂（湯立神樂）



名島と富士山

文  
通

連絡先

森戸大明神社務所  
TEL〇四六一八七五一一六八一  
URL : <http://www.moritoinja.jp/>  
「森戸大明神」で検索  
「京急新逗子駅」より京急バス「葉山一色行き(海岸回り)」で十五分「森戸海岸」もしくは「森戸神社」下車  
「JR逗子駅」より京急バス「葉山一色行き(海岸回り)」で十五分「森戸海岸」もしくは「森戸神社」下車

毎年六月十六日には、町の無形文化財にも指定されている大漁満足・海上安全を祈願する潮神樂が行われる。

毎年六月十六日には、町の無形文化財にも指定されている大漁満足・海上安全を祈願する潮神樂が行われる。

# 森山社

〒240-0111 三浦郡葉山町一色2165 鎮座



社伝によれば、当社は天平勝宝（七四九～七五七）年間の頃、良辨僧正（りょうべんそうじょう）によつて勧請されたと云われている。

この社に伝わる「世計

神事」は、和漢三才図会にもある古い神事で、先づ二キロ程離れた吾妻（いわま）社に湧き出るお水取りから始まる。

その水を持ち帰り、麦麹を加え壺に入れて殿内に收め、翌年の例大祭前日に之を檢し、その酒の出来具合によつて作柄や天候を占う

神事である。

海辺に近いこの地で、農耕に深い関係のある神事が伝承されていることは大変珍しい。

又、三十三年毎に行われる「行会祭」は、逗子市小坪の須賀社から祭神須佐之男命が奇稻田姫命（こうねいだひめのみこと）を祀る森山社を尋ねる両神仇讐の儀式が行われ、一二〇〇年余り前から受け継がれている特殊神事である。

（宮司 守屋大光）

◆記事  
◆御神徳  
◆例祭  
◆境内社  
◆祭神

奇稻田姫命  
神明神社・船玉社

八月末日曜日  
家内安全・商売繁盛・諸願成就

公式ホームページは「森山神社」で検索

京急新逗子駅より京急バスで二十分「旧役場前」下車

JR逗子駅より京急バスで二十分「旧役場前」下車



神輿

# しんめいしゃ 神明社

〒240-0116 三浦郡葉山町下山口1455 鎮座



庚申塔（葉山町重要文化財）

当社の創建年代は不詳であるが、「相模風土記」に村の鎮守なり、寛文中（一六六一～一六七三）再建す、九月十六日祭る、「玉宝院持」とあ

り、棟札に建立の時を宝永元年（一七〇四）甲申九月十六日と記してあるところを見ると、それ以前に創建されていたものと推測される。

毎年八月に行われる例祭では、葉山町の中で年に四度しか見ることのできない湯立神樂（ゆたてかぐら）が本殿で奉納される。また、御神輿（みわらひ）が氏子区域を練り歩き、担

ぎ手の威勢のいい掛け声が町に響きわたりとても賑やかである。

（宮司 守屋大光）



神輿

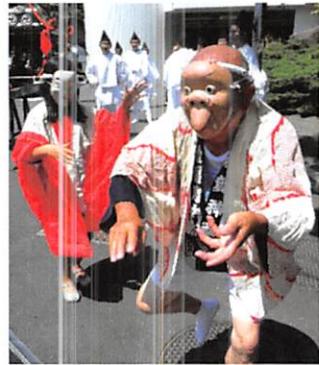
交 通	記 事	祭 神	向 津 日 賣 命・天 照 大 御 神
		御 神 德	むかつひめのなごと
	例 祭	境 内 社	あまつひらおおみかみ
		惠 比 須 社・稻 荷 社	むちのみや
	八 月 第 三 日 曜 日	家 内 安 全・商 売 繁 盛・諸 願 成 就	
		境 内 に は 葶 山 町 指 定 重 要 文 化 财 の 庚 申 塔 が 祀 ら れ て い る	
JR逗子駅より京急バスで		京急新逗子駅より京急バスで	
二十分「葉山」下車		二十分钟「葉山」下車	

# すがしゃ 須賀社

〒240-0112 三浦郡葉山町堀内44 鎮座

往古には、当社は逗子  
郷沼間の地に祀られてい  
たが、御祭神が暴神で  
あつた為、一人の老人が  
御神体を田越川に流して  
しまつた。

大神は、川を下り葉山郷<sup>あぶすり</sup>鎧<sup>よろい</sup>の向  
島に流れつき、丁度その時に居合わ  
せた翁が柄杓で掬い上げて現在の地  
に祀られたと云われ、内陣には柄杓  
の先端の綿物<sup>わけもの</sup>に榦を立てて納められ  
いる。



ひよっこ踊り

例祭には白張<sup>はくぢょう</sup>を着装した  
氏子が御神輿を担ぎしずし  
ずと氏子区域を渡御し、御  
神輿の前をお囃子とひよつ  
とこ踊りが先導する。この  
ひよつとこ踊りは、古くお  
祭りが一週間行われていた  
頃、御仮屋にて子供たちが

神輿をお守りするのに泊まり込んだ  
際に披露されていたものと伝えられ  
ている。  
（宮司守屋大光）



神輿

◆ 通  
例 祭  
神 德

◆ 例 祭

◆ 神 德

須佐之男命

七月第一週目の日曜日

家内安全・商売繁盛

諸願成就

京急新逗子駅より京急バス「葉

山一色行き（海岸回り）」で十

分「鎧摺」下車

JR逗子駅より京急バス「葉  
山一色行き（海岸回り）」で十

分「鎧摺」下車

すきやまじんじゃ  
杉山神社 (上山口杉山神社)

〒240-0115 三浦郡葉山町上山口2639 鎮座



山神社

昭和四十五年四月木古庭  
神明社を分祀した。

（宮司 玉泉隆治）

神饌幣帛料供進神社に指定  
された。

社・神明社、熊野神社、三  
島神社を合祀し、同年十一  
月十八日木古庭神明社を合  
祀した。大正三年十一月、  
神饌幣帛料供進神社に指定

昔、兄弟の漁夫がおり  
沖に出て網を打ち神像を得たが、大晦日の事とて  
繁劇の際でもあるので、  
神意を穢す事を恐れて杉  
の葉を集め敷き、社の形

をこしらえそこに御鎮座申したもの  
であると伝えられている。依つて今  
尚、杉宮の称がある。この宮は、元  
は上の山の中にあつた。現在は其の  
処を元宮と言つてはいる。

明治四十一年十月二十四日、無格

御神徳	境内社	祭神
交通	例祭	大物主命・豊佐賀勇命
		伊邪冉命・早玉命・向津日壳命
	九月五日	おわものぬのみこと
午前	現在は八月第三日	よさがのものみこと
午後	例祭 湯立神樂	いざなみのみこと
家内安全・無病息災・諸願成就		はだまみこと
「JR逗子駅」 「京急新逗子駅」		むかつのみこと
より「京急バスJR衣笠駅行 き」 上山口小学校バス停下車		
徒歩十分		



鳥居・参道

# ごりょうじんじや 御靈神社

〒240-0113 三浦郡葉山町長柄662 鎮座



平安時代治承の頃、長江太郎義景は、三浦氏（大介義明）の有力麾下として衣笠城搦手の要衝長江（現長柄）に館を構えた時、郷の平和と発展を希

いその鎮護として御靈神社を勧請したと伝える。所蔵の棟札に「：小坂郷三浦長柄村鎮守御靈大明神云々：略：永正十四年（一五一七）正月十六日企大永三年（一五二三）季春二十八日御遷宮別當梵照」とある。別の銘札には「文化十三年（一八一六）大仏師三橋永助御靈大權現を彩色し奉る」とある。新編相模風土記稿に「御靈社。村の鎮守なり神体木像。長さ八寸本地仏薬師を置く。例祭九月朔日、社領三石の御朱印は天正十九年（一五九二）十一月賜う。長運寺持：」とある。

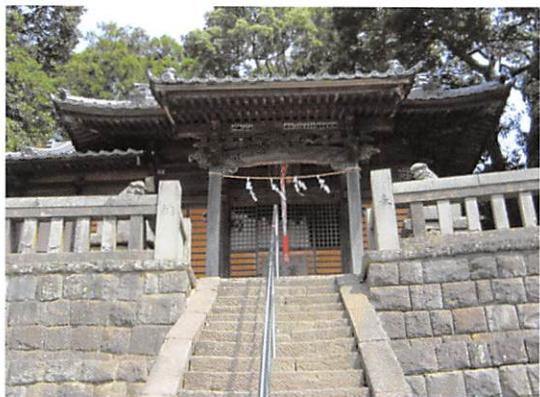
社領三石の御朱印（一反六畝）、三五〇平方メートル）は境内に続く東側にあった。

境内の石鳥居は安山岩の明神鳥居で寛政元年（一七八九）九月、西浦賀感應院住持演如（姓は荒井、当地出身者）の奉納による。

当社の特殊神事に「御奉射神事」がある。一般に「オビシャマツリ」と称し一月七日に行われる。

明治維新により長運寺の管理を離れ、明治六年十二月村社に列格、長柄の氏神と定められた。大正五年八月神饌幣帛供進神社に指定された。現社殿は大正天皇御即位の大礼を記念して大正六年（一九一七）八月に再建された。後昭和五十一年八月に拝殿の一部を増築した。

八月十五日鶴岡八幡宮放生会に際し  
流鏑馬神事あり。」とある。その一  
番射手に選ばれる長江太郎義景が、  
長柄に居館を構えた時御靈神社を勧  
請したと伝える事から、その武威と  
剛毅な精神にあやかり、その年就学  
する児童（男児）の勧学と剛健に育  
つことを祈請する初春吉例の弓射り  
神事で、当日親御同伴の上、社殿で  
式典参列の後境内所定の場に神前か



ら撤した的を据え奉射に移る。介添  
役の総代のもと、男児達夫夫忌的に  
忌矢を射当て、的中した忌矢と御守  
等を拝受して終了となる。

的は径約三十センチの紙張りの丸  
的で重ね丸が描かれる。忌弓忌矢は  
篠竹で竹は氏子役員が早朝持参し神  
主が社殿で奉製する。

〈宮司 小坂周防〉

御祭神	大己貴命
例祭	八月末の土・日
通祭	バス停長柄交差点から徒歩十分
特殊神事	バス停長柄交差点から徒歩十分
御神徳	バス停長柄交差点から徒歩十分
例祭	日曜日 前夜祭
一月七日	御奉射祭
武運長久	身体健全 家運隆昌
諸願成就	身体健全 家運隆昌

# しんめいしゃ 神明社 (木古庭神明社)

〒0240-0114 三浦郡葉山町木古庭928-4 鎮座

元名主、伊藤家の当主・敏三郎の「地誌明細記」及び「社事明細書」より  
ば、神明社は字敷の里一

二〇三に在つて天照大神と向津日売命を奉斎し、

彦外十名が神社再興を發起した処、

人々の崇敬が極めて厚かつたが、明治四十一年十一月十八日杉山神社に合祀された。

昭和四十一年、氏子総代・伊東友彦外十名が神社再興を發起した処、

氏子及び崇敬者、皆これに賛同し、

淨財を奉納し、伊東敏三郎

は現境内地三七〇坪を、伊東友彦は社殿用材を寄付

し、昭和四十三年八月、本

殿の完成を見るに至つた。昭和四十五年四月三十日附を以て、宗教法人神明社となり、茲に神社の再興が達成された。

（宮司玉泉隆治）



鳥居・社殿正面



鳥居～参道

御神徳  
交通

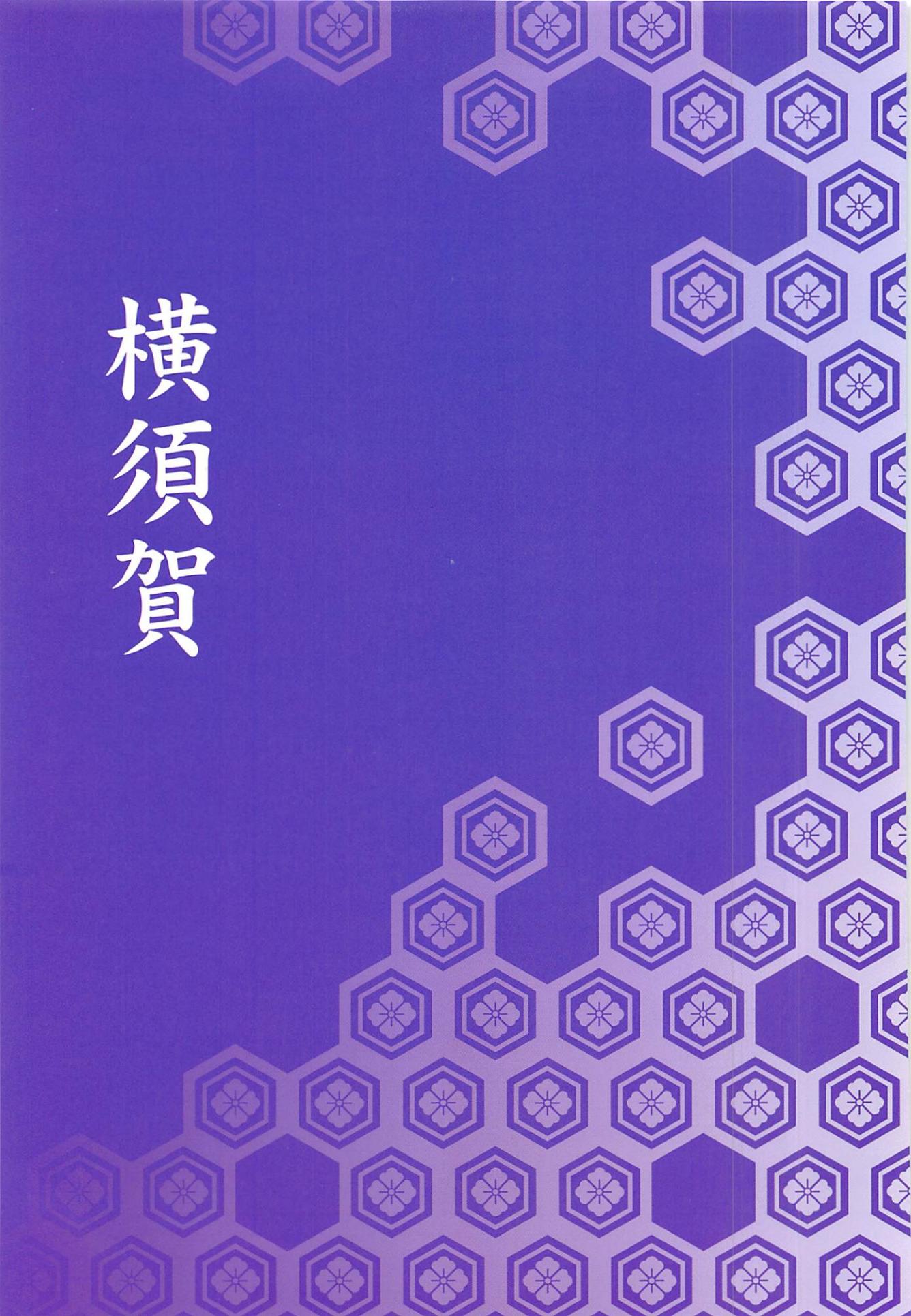
例祭  
神祭

天照大神・向津日賣命  
七月二十日、現在は八月第四  
土曜日

湯立神樂

家内安全・無病息災・諸願成就  
「JR衣笠駅」より「京急バス、  
逗子駅行き」境橋バス停下車  
徒歩十分

# 横須賀



北 部





## 南部





# かみなりじんじや 雷神社

〒287-0068 横須賀市追浜本町1-9 鎮座



雷神社 正面

天より火を戴いたこと  
を崇め、承平元年（九三  
二）勧請と伝えられ、古  
くは塩浜の地にあり永禄  
年間（一五五八）一五七  
〇）にこの地に落雷があ

り、そのときに居合わせた十二名の  
婦女子は火雷神のご加護によりいの  
ちをとり留めた伝えられている。

さらには、宝永四年（一七〇七）  
再建の際に、天正九年（一五八二）  
に朝倉能登守が現在の地に勧請した  
旨を記録した棟札が存在し  
たと、新編相模風土記に記  
されている。

〈宮司 秋山直司〉

祭 神  
境内社  
火雷神  
稲荷社  
浜空神社（旧海軍航空隊関係の  
招魂社）  
日本武尊社  
やまとたけるのみことじや

火雷神  
稲荷社  
日本武尊社  
やまとたけるのみことじや  
戦没者慰靈碑  
恵比寿大黒社  
金刀比羅社跡地  
火雷天神  
御神徳  
秋季大祭  
五穀豊穫  
火雷天神に因んで学業成就  
家内安全  
身体健全  
商売繁昌  
武運長久

例 祭

七月第二（土）～（日） 天王祭  
(夏祭り)  
十月九日 夕五時

御神徳

並びに雨乞い 現今は交通災害・  
職場災害危除けなど) 御祭神  
火雷天神に因んで学業成就  
家内安全 身体健全 商売繁

連絡先

横須賀市追浜本町一―九

記 事

雷神社社務所  
TEL〇四六一八六五一三八五  
こんもりとした鎮守の森に鎮

座し、紅白の鳥居と大きなイ  
チヨウの木三本と石段が参拝  
者をしづかにお迎えしている。  
京急 追浜駅より徒歩五分

交 通

雷神社社務所  
TEL〇四六一八六五一三八五  
こんもりとした鎮守の森に鎮

横須賀

# しんめいしゃ 神明社 (鉈切神明社)

〒237-0062 横須賀市浦郷町4-8 鎮座

寛文十二年（一六七二）  
神明社と号し鉈切りむら  
の鎮守として漁民達の航  
海安全・大漁満足を願つ  
て、今日に至つている。

〈宮司 秋山直司〉



本殿 正面



神明社入口



石段下 犬

記事

交通

御神徳  
例祭

祭神

天照皇大神 相殿に宇賀御魂  
神・玉依姫命を祀る。

十月一日

海上安全 大漁満足 五穀豊

穫 家内安全 身体健全 商

壳繁昌

追浜駅より付加裏経由田浦行  
きバスで日産自動車前下車徒

歩五分

大正七年十二月稻荷社並びに  
酒ノ宮の二社が合祀されている。

おおくにくぬしあ

# 大国主社

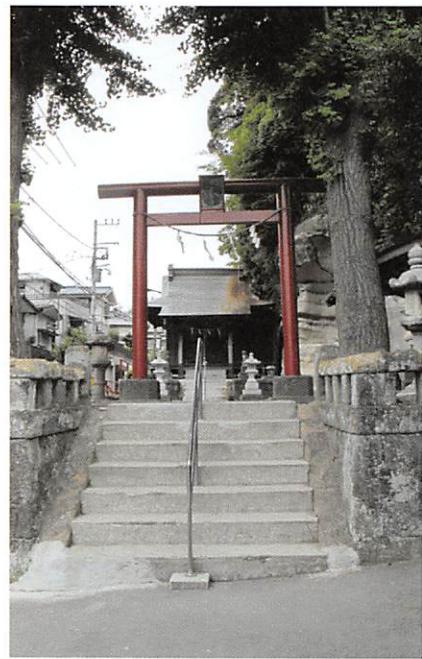
〒237-0062 横須賀市浦郷町3-41 鎮座

古くは、大黒天社と記され深浦の鎮守として、大漁満足・海上安全を祈る漁民の信仰篤き神社である。大正年間には一時稻荷社とも証したと記録

にあり昭和二十六年大国主社と改名された。  
（宮司秋山貞治）



大国主社 本殿



大国主社 正面

おおなまちのみこと  
祭 神  
例 祭  
大己貴命

十月十七日 七月下旬の日曜

日神輿渡御（なつまつり）

御神徳

大漁満足 海上安全 家内安

全 身体健全 商売繁昌

交 通

追浜駅より深浦経由田浦行き

バス深浦下車五分

記 事

新編相模風土記には、深浦湾

前方に亀によく似た形の島があり、その亀島にあった亀島明神社を境内に遷し、浦島伝説を伝えた境内社が祀られていたと伝わっているが、現在詳細は不明である。

# やまなかしゃ 山中社

〒237-0062 横須賀市浦郷町2-86 鎮座

薬一王神を崇め祀り、  
明治初年の神仏分離によ  
り浦の郷山中に鎮座して  
いた山中権現社を遷し祀  
り、榎戸村の鎮守神として  
山中社と称されている。

（宮司 秋山貞治）



山中社 全景



山中社 正面

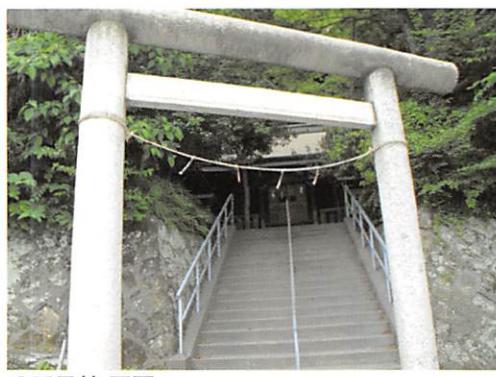
記事	例祭	境内社	祭神
交通	稻荷社	大山祇命	<small>おおやまづみのみこと</small>
御神徳	十月十六日 七月下旬日曜日 神輿渡御（なつまつり）	五穀豊穣	身体健
全	海上安全 商売繁昌	家内安全	
分	追浜駅前より深浦経由田浦行 きバスで、榎戸下車 徒歩五 海軍軍港のなごりとして、武 運長久を祈りおおきな大砲の 弾が境内に奉納保存されてい る。		

# はちおうじしゃ 八王子社

〒237-0062 横須賀市浦郷町1-90 鎮座



八王子社 本殿



八王子社 正面

日向村の鎮守として、五穀豊穰・大漁満足・海上安全を願う漁師の崇敬篤く、新編相模風土記には、八王子權現社と号され慶長十一年（一六〇六）

勧請の棟札があつたとされ、牛頭天王を合祀とあり、天明五年（一七八五）の修復棟札に「天下泰平国土安全海上安全御地頭武運長久祈」との記載が伺われる。〈宮司 秋山貞治〉

記事 交通 境内社 御神徳 祭神

十月二十一日 七月下旬の日  
曜日神輿渡御（なつまつり）

諏訪社 稲荷社 島崎社

五穀豊穰 大漁満足 海上安全

家内安全 身体健全 武

運長久 商売繁昌

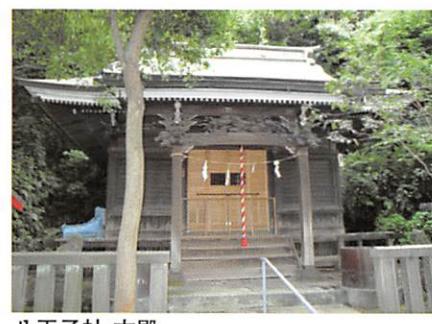
追浜駅より深浦経由田浦駅ゆきバス日向下車徒歩十分

むかしは近くに猪ヶ浦があり

五大力船などが来航し、航海

安全を祈願されたと伝わって

いる。社殿は、明治七年六月再建、昭和三年三月改築され、現在に至っている。



八王子社 本殿

# すわ おおかみのやしろ 諏訪大神社

〒238-0018 横須賀市緑が丘34 鎮座



かつての三浦四十八郷の総鎮守として、その由緒とたたずまいを今日に伝えている。創建は足利義満の頃の康暦二年（一三八〇）三月二十三日に、

三浦氏の三浦貞宗が長峰城の城の城口に当たる当地に信州信濃の上、下両諏訪明神を勧請した。江戸時代初期に至り、三浦一円の農政を管掌していた長谷川三郎兵衛により農漁業を祀る神社に大改修して今日に至っている。

社殿の背後には、緑豊かな諏訪公園が明治四十五年（一九一二）に開園され大木があり、市街化の進む今日にあつて貴重な木々の生い茂るところである。

祭礼は毎年五月末の土、日曜日、若松町の諏訪神社と同日に執り行われ横須賀米軍海軍基地が氏子区域で米海軍司令長官、また横須賀市長も御輿の連合渡御に参列し、市民大勢の参加の

もと日米友好親善をはかつている。

〈宮司 番年〉

三浦氏の三浦貞宗が長峰城の城の城口に当たる当地に信州信濃の上、下両諏訪明神を勧請した。江戸時代初期に至り、三浦一円の農政を管掌して祀る神社に大改修して今日に至つ



桜

神	事代主命	健御名方命
倉稻魂命	事代主命	たけみなかたのみこと
誉田別命	健御名方命	こじさんねののみこと
白日命	事代主命	ひのひめのみこと
大己貴命	健御名方命	おおむちのみこと
賀夜奈留美命	白日命	かやなるみのみこと
五月二十六日	相殿	しづらひのみこと
京急汐入駅より徒歩十分	相殿	おおなむちのみこと
諏訪大神社社務所	相殿	かやなるみのみこと
TEL ○四六一八二二一〇四〇三	相殿	相殿
横須賀	相殿	相殿
交通	相殿	相殿
連絡先	相殿	相殿
例祭	相殿	相殿

# ふなこしじんじゃ 船越神社

〒237-0076 横須賀市船越町1-11 鎮座



御神木 ナギの木

（二八）十二月十八日に両社を熊野社に合祀した。昭和八年（一九三三）十一月三日に現在の社殿が落成して速玉大社と大山咋命を祭祀する東京都千代田区永田町の日枝神社の祭神を勧請し、昭和三年（一九二八年）二月十二日に村社に指定された。第二次世界大戦の後、昭和五十八年（一九八三）に遷宮五十周年を記念して社殿の修復を企画し、昭和六十年（一九八五）二月二十一日完成し、更にその後港ヶ丘地区の開発により大きく境内地

が拡張されて今日に至っている。  
当社は、速玉之男命を祭祀する紀伊熊野の熊野速玉大社と大山咋命を祭祀する東京都千代田区永田町の日枝神社の祭神を勧請し、昭和三年（一九二八年）二月十八日に両社を熊野社に合祀した。昭和八年（一九三三）十一月三日に現在の社殿が落成して速玉大社と大山咋命を祭祀する東京都千代田区永

田町の日枝神社の祭神を遷宮された。昭和九年（一九三四年）一月八日に船越神社として承認され船越神社と改称した。更に昭和十三年（一九三八年）二月十二日に村社に指定された。第二次世界大戦の後、昭和五十八年（一九八三）に遷宮五十周年を記念して社殿の修復を企画し、昭和六十年（一九八五）二月二十一日完成し、更にその後港ヶ丘地区の開発により大きく境内地

（宮司 畑年）



稻荷社

✿ 例祭 神

速玉之男命  
大山咋命

九月十九日

諏訪大神社社務所

Tel. 046-1822-1040  
京急バス「北部共済病院」下車  
徒歩一分

横須賀

# しんめいしゃ 神明社

〒237-0075 横須賀市田浦町2-1 鎮座



神明社入口

創立は後花園天皇の御代の正長元年（一四二八）六月十六日である。明治六年六月村社に列格された。その後、大正三年一月二十二日に向田の御靈

社と小山田の貴布祢社が合併して現在在地に大正五年（一九一六）一月十八日に御靈社の改築があり、境内を拡張した。更に大正九年（一九二〇）五月二十一日指定村社となり現在に至っている。

（宮司 畑年）

御食津神

祭 神

御食津神

御食津神は豊受比賣神と同じ神で食物を司る祖神。伊勢神宮の外宮の大神と同じ天照大神の食物を司る神様である。

閻 靂 神

閻靂神は伊邪那岐命が火具土神を剣で頸を斬り給う時に剣から滴る血の手の俣から漏れ出した神とされている。閻は谷を意味し靂は龍神で雨を司る神で奈良県吉野にある丹生川上神社、京都の鞍馬にある貴船神社と同じ祭神である。

吉 備 靂 神

吉備靈は吉備津彦神と同じで孝靈天皇の第三皇子で崇神天皇の御代に四道將軍が置かれ西道將軍として中國地方に派遣され吉備國（今の岡山県）を平定し永くこの地に留まり仁政を敷かれ偉大な功業偉徳のあつた方で崇められている。岡山県の吉備津神社の御祭神である。

通 例 祭

諏訪大神社社務所  
TEL ○四六一八二二一〇四〇三  
JR田浦駅より徒歩五分

# だいろく天神社

〒238-0043 横須賀市坂本町2-29 鎮座



参道石段

寛元四年（一二四六）九月六日に勧請され坂本町の総鎮守で、天正二年（一五七四）造替され現在の社殿は昭和の御大典記念に改築された。元は

第六天社の社名であったが、昭和十五年（一九四〇）に大六天神社と改称されて今日に至っている。

（宮司畠年）



境内社 稲荷神社

❖ 交 通  
❖ 連 絡 先  
❖ 例 祭  
❖ 境 内 社  
❖ 祭 神  
❖ 大 山 祀 命

稻 荷 神 社  
九 月 六 日

諏訪大神社社務所  
TEL〇四六一八二二一〇四〇三  
京急汐入駅より徒歩五分

# かしまじんじゃ 鹿島神社

〒238-0046 横須賀市西逸見町2-70 鎮座



旧鎮座地は逸見森崎字七番七五二番地の海辺で現在の海上自衛隊のところにあつた。応永十七年（一四一〇）四月八日、三浦遠近守が常陸から鹿

島神社を勧請したと伝えられる。相模風土記に村の鎮守なり、御神体木像一尺二寸、像背に応永十七年の銘があり、花押ありと見える。天正二年（一五七四）十一月二十日朝日名六大夫造営の棟札、また寛永十三

円（一六三六）八月二十四日に三浦按針（英人ウイリアム・アダムス）の子が社殿を造営した棟札があつたが、明治二十四年（一八九二）七月二十八日火災で全焼し同年八月に仮社殿を造り、明治二十八年（一八九五）六月五日現在地に今の社殿を造営し遷座した。明治四十三年（一九一〇）指定村社となつた。明治四十一年（一九〇八）に町内の稻荷社、熊野社、神明社、

島神社を勧請したと伝えられる。相模風土記に村の鎮守なり、御神体木像一尺二寸、像背に応永十七年の銘があり、花押ありと見える。天正二年（一五七四）十一月二十日朝日名六大夫造営の棟札、また寛永十三

円（一六三六）八月二十四日に三浦按針（英人ウイリアム・アダムス）の子が社殿を造営した棟札があつたが、明治二十四年（一八九二）七月二十八日火災で全焼し同年八月に仮社殿を造り、明治二十八年（一八九五）六月五日現在地に今の社殿を造営し遷座した。明治四十三年（一九一〇）指定村社となつた。明治四十一年（一九〇八）に町内の稻荷社、熊野社、神明社、

浅間社、子神社、山神社も合祀された。

（宮司 畑年）



神額

❖ 例祭  
❖ 神通  
❖ 連絡先  
❖ 祭神  
たけみわづちのかみ  
武甕槌神  
諏訪大神社社務所  
TEL〇四六一八二二一〇四〇三  
京急逸見駅より徒歩五分

# ねのじんじゃ 子之神社

〒238-0042 横須賀市汐入町4-55 鎮座



境内社 稲荷社

村社に列格し、指定村社となり現在に至っている。

〈宮司 畑年〉

承久二年（一二二一〇）  
勧請され天和元年（一六八一）造営された。元、楠ヶ浦泊の波島に長源寺と共にあつたが、海軍用地になり、現在の変電所

の下、汐入二十四番地に明治十七年（一八八七）九月社殿を造営したが、同所の通称子神山の境内地の一部が官有地として買い上げられたので、明治三十一年四月二十六日に現在の地に鎮座し大正十年（一九二二）に



御輿倉

祭 祭  
典 神

大己貴命  
おおなむちのみこと

例 祭

六月七日

祈年祭

三月七日

新嘗祭

十二月七日

月次祭

毎月七日

稻荷社

毎月二十一日

初午祭

二月初午の日

諏訪大神社社務所

TEL〇四六一八二二一〇四〇三

京急バス「汐入四丁目」より

徒歩一分

✿ 交 通

✿ 連絡先

✿ 境内社

横須賀

# やすうらじんじや 安浦神社

〒238-0012 横須賀市安浦町2-9 鎮座



正面鳥居

大正時代に安浦町が埋め立てられ元楠ヶ浦町が軍用地となり町民がこの新しく埋め立てられた地に集団居住して來たが、楠ヶ浦町の氏神が諏訪大

神社であつたのでこの安浦町に小林房次郎が中心となつて、大正五年（一九一六）諏訪大神社の神靈を遷座した。当初は神輿庫を仮社殿としていたが、小林房次郎、高橋新一、市川竹作氏などが中心となつて安浦神社を設立し昭和三十六年（一九六一）七月七日に現在の社殿を建設して神靈を遷座して現在に至つている。

（宮司 畑年）



社号標



狛犬

✿	祭 神	建御名方命
✿	事代主命	
✿	八坂戸売命	
✿	八坂戸売命	
✿	例 祭	
✿	連絡先	
✿	六月一日	
✿	交通	
✿	諏訪大神社社務所	
TEL	〇四六一八二二一〇四〇三	
京急県立大学駅より徒歩五分		

# なかざとじんじゃ 中里神社

〒238-0017 横須賀市上町1-9 鎮座



現在の鎮座地は元稻荷谷戸と云い古くは稻荷神社の鎮座地で、文化十四年（一八一七）八月に造営した。明治六年（一八七三）同町の神明社と稻

荷社を合祀して明治四十二年（一九〇九）三月三日中里神社と改称して現在に至っている。  
（宮司畠年）



正面参道

交 例 祭 神  
通 連絡先 祭 祭

宇賀御魂命  
八月十六日  
諏訪大神社社務所

TEL 〇四六一八二二一〇四〇三  
京急横須賀中央駅より徒歩五分



石灯籠



手水舎

# しんめいしゃ 神明社

〒238-0016 横須賀市深田台40 鎮座



神明社入口

元深田字七番地六十九番に鎮座していたが、陸軍砲台に近接のため、明治十六年（一八八三）十月二十五日移転許可を受けて小松善兵衛氏による

寄付を受け移転した。明治四十年（一九〇八）十月二十一日境内地に山林を加え境内地が拡張された。先の第二次世界大戦の後、元の深田字七番地六十九番の土地が返還され、境内地になつたが、米が浜の氏子が山の上で参拝に不便なため、再び社殿を建設して別宮として昭和五十六年（一九八一）に神明社を遷座して今日に至つている。

〈宮司 畑年〉



神額



参道

◆ 交 通 分 京急バス「平坂上」より徒歩五  
◆ 連絡先 諏訪大神社社務所 Tel〇四六一八二二一〇四〇三  
◆ 祭 例 祭 大日靈貴命  
◆ 祭 例 祭 六月十日

# はちまんじんじや 八幡神社

〒238-0052 横須賀市佐野町1-26 鎮座



由緒書

元禄元年（一六八八）字六番地に境内地を買収し弘化二年（一八四五）佐野村の小山左左右衛門が村民を代表して京都の石清水八幡宮を佐野村の諏訪神社に勧請した。村民の寄付により、佐野村

十八戸の協力により社殿を造営し諏訪神社より遷座した。明治六年（一八七三）六月に村社に列格した。昭和七年（一九三二）三堀庄蔵、川島庄太郎が委員長となり現在の社殿を建立した。

（官司畠年）



参道

交 通 連絡先 諏訪大神社社務所 Tel〇四六一八二二一〇四〇三  
京急バス「佐野二丁目」より徒歩五分

祭 神

誉田別命  
建御名方命  
海津見命

例 祭

八月十五日

交 通

京急バス「佐野二丁目」より徒歩五分

# 御嶽神社

〒238-0051 横須賀市不入斗町3-4 鎮座



元三浦郡豊島村不入斗字十二番地三九七番地に奈良県の吉野藏王權現を勧請し藏王權現堂が元不入斗練兵場の処にあつた。

元禄二年（一六八九）修驗道大越家の法印玄盛が武藏国より来て堂守となり、境内に草堂藏王院を建て居住し子孫に伝えたが、明治元年三月の神仏分離令により、同年六月に御嶽神社の社号を受け、法印末田富衛は同年十二月十三日に神職となつた。明治六年（一八七二）六月に村社に列格したが、富衛は同年八月一日辞任して畠良宗が神職を拝命した。

境内地は明治三十一年（一八九七）七月五日陸軍用地になり、新たに不入斗町六三四番地に社殿を新築し、明治四十三年（一九一〇）十一月八日に指定村社となつた。  
（宮司畠年）

✿ 例祭 神天香語山命  
✿ 連絡先 諏訪大神社社務所  
TEL ○四六一八二二一〇四〇三  
京急バス「西来寺」より徒歩  
一分



境内社 稲荷社

# きぬがさじんじゃ 衣笠神社

〒238-0026 横須賀市小矢部4-1202 鎮座



古くは、衣笠村に鎮守社が多くあつて、衣笠城のあつた衣笠坂台に村社蔵王社、大字衣笠に五社、小矢部に四社、金谷に二社、大矢部に六社、森崎

に二社、池上に三社、阿部倉に一社、平作に六社合計二十九社あつたが、政令により一村一社の行政指導が大正二年（一九〇二）に小矢部城山一〇二〇番地に鎮座する村社の皇大神社に合祀し、現在地に小矢部の熊野山王社の社殿を移し創立し

た。

第二次世界大戦の後、國家管理を離れ、信仰のある崇敬者による神社運営になり、衣笠神社に合祀された神社は衣笠山では遠隔不便なため、復旧させ元の鎮座地に戻して遷宮して今日に至っている。戦後宗教法人が設立され、宗教法人衣笠神社として承認された。

（宮司 畑年）

文 交 通

例 祭 神  
連絡先 祭 神

七月三十日  
大日靈女貴命

諏訪大神社社務所

TEL〇四六一八二二一〇四〇三  
京急バス「衣笠公園」より徒歩十分



神額



鳥居

# すわじんじや 諏訪神社

〒238-0033 横須賀市阿部倉町355-2 鎮座



阿部倉の総鎮守とし崇敬されるが、創立年月は不詳。天明四年（一七八四）八月十五日造営の棟札がある。大正二年（一九一二三）一村一社の行政指導により衣笠神社に合祀された。

第二次世界大戦の後、昭和二三年（一九四八）

七月十九日復旧を申請して、昭和二年（一九四八）八月二十五日申請が承認されて現在に至っている。

〈宮司畠年〉



建御名方命  
祭 神  
例 祭  
連絡先  
通 交  
八月二十六日  
諏訪大神社社務所  
TEL〇四六一八二二一〇四〇三  
京急バス「大楠登山口」より  
徒歩二十分

# ひらさくじんじや 平作神社

〒238-0032 横須賀市平作6-7-1 鎮座



由緒書

〈宮司 畑年〉

換して平作一八三六番地に  
昭和三十二年（一九五七）  
八月二十日現在の社殿を建  
設し今日に至っている。

平作町一九九八番地に  
鎮座の陣ヶ原村社皇大神  
社、石井村社、白山社、  
御嶽社、竹林村社正真子  
社、伝馬場村社諏訪社を  
一村一社の行政指導によ  
り大正二年（一九一二）

九月一日衣笠神社に合祀された。第  
二次世界大戦の後、氏子の人々が衣  
笠神社が遠隔不便なため、旧村社の  
あつた皇大神社に平作神社を設立し  
て、衣笠神社に合祀された神靈を遷  
宮し、守っていたが社殿狭隘のため、  
氏子總代・長澤正教氏の所有地と交



正面石段

## 祭 神

大日靈命  
白山姫命

天香語山命  
穗別命

建御名方命

八月二十日

## 例 祭

交 通

諏訪大神社社務所

TEL〇四六一八二二一〇四〇三

京急バス「第一平作町内会館」  
より徒歩五分

# ちかたじんじゃ 近殿神社

〒238-0024 横須賀市大矢部1-9-3 鎮座



幟旗の礎石

近殿神社は旧村社で大矢部氏子の祖神・三浦義村公を祀っている。大正二年（一九一二）一村一社の行政指導により村内の熊野社、皇大神社、八戦の後、衣笠山では遠隔不便なため雲神社とその境内社浅間社及び金比羅神社、貴船社、山頂神社と共に衣笠神社に合祀された。先の第二次大戦の後、衣笠山では遠隔不便なため昭和二十三年（一九四八）二月一日に復旧申請して承認され、現在地に戻された。社殿は明治十一年（一八八二）十一月に建築され、損傷著しく昭和五十一年（一九七六）八月二十二日に改築された。

〈宮司 畑年〉



鳥居

✿ 例祭 祭神  
交通 連絡先

三浦善村公  
八月二十三日  
諏訪大神社社務所  
Tel ○四六一八二二一〇四〇三  
京急バス「大矢部三丁目」より  
徒歩五分

# すあじんじや 諏訪神社(お諏訪さま)

〒238-0007 横須賀市若松町3-17 鎮座



## 由緒沿革

当社の草創については  
社記に「正親町天皇の御  
宇天正元（一五七三）年  
三月十二日信濃國諏訪明  
神の御分靈を勧請す」と

伝える。記録に明らかなところでは  
享和元（一八〇二）年八月本殿・拝  
殿の造替があり、現在の社殿は大正  
十二年に造営されたものである。往  
古、当社は三浦郡横須賀村中横須  
賀（現在の下町商店街地区）瀧にあ  
り、後背の丘陵海中に聳立

し遙かに江戸湾を一望に收  
め波浪の響常に絶えずとい  
う環境にあり、散在せる住  
民は専ら漁業を以て生計と  
なし、依つて当社も漁業の  
守護神として崇敬を聚め

た。明治の御代に至り横須

賀軍港の設置に伴い転入者  
の逐年増加する趨勢となつ  
たため付近の山崖を切崩し

埋立てることになり当社の  
存置が危ぶまれたが、三人  
の篤志家が所有地を寄進し

社殿を奉遷したのが現在地である。  
因みにこの付近一帯の埋立て工事は  
主に高橋勝七氏によつて施工された  
ため、その屋号若松屋から若松町と  
名づけられた。大正十一年五月村社  
に列格、更に同年九月神饌幣帛料を  
供進すべき神社に指定された。爾  
来、横須賀市の中心たる下町商業地  
域の中核をなす神社として御神威弥  
高く、殊に五月の例祭と十一月の酉  
の市（境内社大鷲神社の例祭）は下  
町の風物詩として広く市民に知られ  
ている。

## ◎境内社

水天宮

祭神

天御中主神  
あめのみなかぬしがみ

安徳天皇  
あんとくてんのう

建礼門院平中宮  
けんれいもんいんひやうちゅうぐう  
二位尼時子  
にいのあまときこ

嘉永元（一八四八）年、現在の  
篤志家が所有地を寄進し

福岡県久留米市の水天宮を勧請。安産、子育、海上安全の靈験あらたかである。

### 大鷲神社

祭神 天日鷦命  
日本武尊

古くから当社の境内に鎮座する。十一月の酉の日は三浦半島

唯一の酉の市が立ち、開運・商売繁盛を祈る崇敬者でにぎわう。



節分祭豆撒き



大鷲神社と酉の市



酉の市の風景

### 稻荷社

祭神 宇迦御魂神

大市姫神  
宇迦御魂神  
おおいちひのかみ

三富稻荷と称し、京都伏見稻荷大社を本宗とする。衣食住を主宰し給う神で、殊に殖産興業神、商業神として信仰が篤い。

〈宮司 小池千穎〉

祭神 天日鷦命  
日本武尊



参拝者の列

✿ 交 通  
✿ 連絡先  
✿ 例 祭  
✿ 境 内 社  
✿ 祭 神

建御名方神  
たけみなかたのかみ

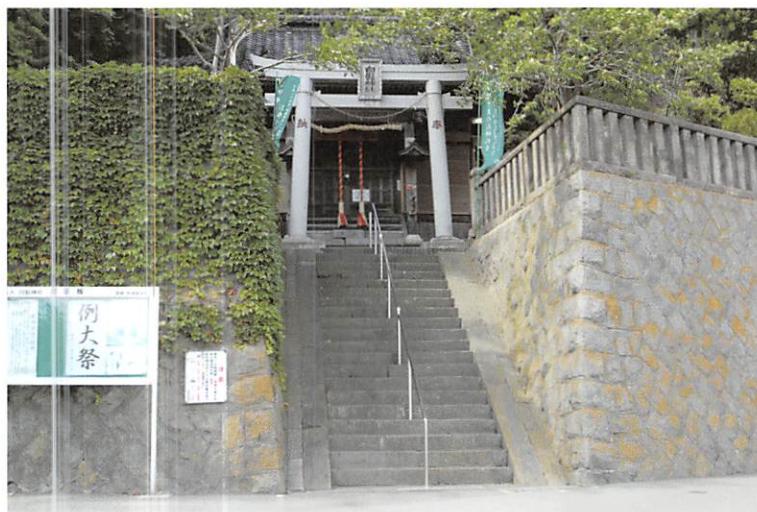
水天宮・大鷲神社・稻荷社  
五月二十五日に近い日曜

諏訪神社社務所

Tel ○四六一八二二一〇二〇八  
「京急横須賀中央駅」より徒歩一分

# しらひげじんじゃ 白鬚神社

〒239-0841 横須賀市野比2-26-1 鎮座



## 由緒沿革

往古、浦賀入港の船が野比千駄ヶ崎でしばしば遭難したので、これを憂えた住民が海上安全を祈つて、とがさん（今の

富塚山）山上に猿田彦神を勧請したと伝える。寛永八（一六三一）年菱沼某が発起して同山南麓に社壇を築き、神威に応えたのが現在の社地である。元禄四（一六九一）年菱沼茂行等が社殿を再建し、安政二（一八五五）年にも改築があつた。

明治六年村社に列し、同四十一年村内の稻荷社、天神社、諏訪社、貴船社、子神社、水神社、神明社を合祀した。社殿裏の境内林富塚山は遠方からもよく目立つ小高い山であるが、広範な樹種が分布し植物学的にも貴重な宝庫として昭和五十一年神奈川県天然記念物に指定された。

〈宮司 小池千穎〉

## 祭 神

猿田彦神  
さるたひのかみ

合祀神：瓊々杵尊・菅原道真公  
ふつじののかみ すがわらのみちまさねこう  
経津主神・豊受大神  
みづはやおののかみ とよけのおおかみ  
水速男命・豊斟渟尊  
みずはやおのめのかみ とよくわねののかみ

七月十五日に近い日曜

諏訪神社社務所

Tel 〇四六一八二二一〇二〇八  
「京急YRP野比駅」より徒歩

## 交 通

## 連絡先



神輿發輿と各町の山車

# すみよしじんじゃ 住吉神社

〒239-0831 横須賀市久里浜8-29-1 鎮座



由緒沿革

創立年代は不詳であるが、古くは栗濱明神と称され、『吾妻鏡』により鎌倉時代には既に名社となつていたことが知られ

る。即ち寿永元（一一八二）年源頼家公誕生の際に神馬が奉納され、文治元（一一八五）年正月には源頼朝公が参詣し、建久六（一一九五）年には頼家公の参詣があつたことなどが『吾妻鏡』の記事に見られる。現存する棟札によつて正保年中（一六四四～一六四八）、明暦年中（一六五五～一六五八）の両度に社殿の改築が行われてゐる。明治四十一年琴平社、神明社、船玉社、八雲社を合祀した。明治六年村社に列し、同四十二年指定村社となつた。昭和初年社殿を改築した。

〈宮司 小池千穎〉



境内入り口

交 通

TEL ○四六一八二二一〇二〇八  
〔京急バス久里浜港〕より徒歩  
一分

連絡先  
諏訪神社社務所

合祀神：金山彦命・表筒男命  
天照皇大神・素戔鳴命  
中筒男命  
ななかつものめいめい  
かなやまひこめいめい  
うわづらおのめいめい  
あまこうすめおおかみ  
すさきのおのめいめい  
かなかつものめいめい

祭 神

中筒男命

横須賀

かすがじんじゃ  
春日神社 (よこすかすがじんじゃ)  
横須賀春日神社

〒238-0014 横須賀市三春町3-33 鎮座



当社、鎮座地の旧公郷は藤原氏の莊園であったため、奈良の春日大社より御分靈を迎えたと伝えられる。古くは猿島に鎮座し小島九つ合せ十島

故、十嶋大明神とも称され旧公郷一円の鎮守であった。

猿島全島を境内とし、藤原氏の奉幣使の伝統を伝えるものとして、鎌倉の深沢村より梶原氏の一族・梅沢氏が参向し、田津（田戸）の浜より関係者一同が島に渡り神樂

を奏し祭典を執行していった。舟は山崎地区、囃方は田津、賄方は堀之内のそれぞれの地区が担当する例になっていた。堀之内の旧家岩堀家には銀杏の大俎板が残っているといわれている。又、田津囃は舟の櫓に合せてテンポの早い囃が残されている。しかし朝夕参拝する氏子の為に古来より現在地に遙拝のための拝殿があつた。向きは今とは全

く反対で拝殿より猿島の本殿に向つて拝するという世に稀な社であつた。

尚、「猿嶋・由緒石渡旧記」の要点のみを記せば「建長五年鎌倉に遊学の為房州より渡海の途中、風波の荒びにあい、十嶋（猿島）に漂着せし日蓮を十嶋大明神の神託により、石渡氏これを助け鎌倉に立たせ給いし、（中略）後に望により豊島を春日大明神と祭り及べり」とあり、別に「十嶋春日大明神勧請建長七年六月石渡氏」の棟札あると伝える。

社殿は弘化元年（一八四四）以後、数度にわたつて再建造されたとす

る棟札がある。

また、弘化四年（一八四七）江戸防備の為、猿島に台場建設するに当り幕府及び川越藩それぞれ三百疋の献絹があつた。明治六年、県より村社に列格される。

明治十二年の公簿神社明細帳には猿島春日神社と称され、社殿は島の南東部の高台にあり、社殿は正面二間（三、六m）奥行三間（五、四m）境内地四六三六坪民有地第一種と記



神輿倉



大神輿

殿のある現在地に遷座し、社殿は向きを変え猿島の方角に向くようになつた。

大正十二年関東大震災の時には、社殿倒壊し、氏子里人恐懼し再建を議り昭和十一年七月現在の社殿を造営遷座す。石渡旧記の子孫

島の最後の社殿は享和元年（一八〇一）の建築であつた。明治四十二年推移と共に軍用地にされ、社殿移転の止むなきに至り、明治十七年本殿を山崎の石渡氏の山に移転した。猿

が氏子総代として相継ぎ現在に至る。

〈宮司今村和歲〉

### 祭 神

天児屋根命・日本武尊

伊弉諾尊

少彦名

天照大神

海津見命

宇賀御魂命

素鳴命

木花咲耶姫命



豊守稻荷神社

### 境 内 社

豊守稻荷神社

鏡一面

銘藤原金良経六寸

重量八十匁

七月三十日

（時により七月末

の土日）

例大祭

（大神輿渡

御）

大神輿一基

三浦百基の

内の一基で通称五百貫神輿と

して伝えられる

### 神 事

春日神社社務所

Tel 〇四六一八二三一二三三二

京急堀ノ内駅より徒歩五分  
り徒歩二分

### 連絡先

交通

春日神社社務所

Tel 〇四六一八二三一二三三二

京急バス停「春日神社前」よ

# 諏訪神社

〒239-0808 横須賀市大津町4-22-22 鎮座



古来より大津はその名の示す通り、幕府の置かれた鎌倉や江戸に出入りする物資を中継する湊として、東京湾を臨む舟の渡し場の役割を担つてき

たと思われる。この地は古代にあつては房総への渡津、中世には半島を跋扈した三浦一族の衣笠の荘の配下、江戸時代は海の関所・浦賀への往還や海防のための陣屋が置かれ、明治時代以降は軍都横須賀の演習場や学校、関係施設が立ち並びその一翼を担い、いつの時代においても脇役的な役割ではあつたが、「つなぎ」としての重要な位置と役割を占めていた。

その時代の趨勢を見守つてきた祖神様こそ「おおつのおすわさま」と親しみを込めて呼ばれている当神社で、今から千百九十年前の天長元年（西暦八二四年）、信濃国の諏訪大社の御分靈を当地に勧請したのがその

嚆矢とされ、由緒は未詳ながら平成三十六年には御鎮座千二百年の節目を控えている。

神社に伝わる「諏訪大明神縁起」によれば、比叡山延暦寺の開祖最澄が来遊し、文殊菩薩の神体を神鏡の裏面に鋳移したと伝え、その後、空海が巡錫の折、真言密教の行法を修めて、この御尊体を諏訪大明神と称して神祠を創建したのが当社の起源なりと伝える。更に空海は不動明王の尊像を彫刻して青蓮寺の本尊にしたともいい、この青蓮寺こそ神仏習合時代の別当寺であり、明治初年の神仏分離令により廃寺となるまで、諏訪神社とともに並立していた。この縁起書も仏教側の視点により創建の由来や御祭神の靈験などが記されていて、長い歴史のなかで平貞盛、三浦大介義明、向井将監らの崇

敬や社殿造修の記録も見られる。

近代に入り関東大震災が起こり神

社は社殿倒壊、周辺集落も甚大な被

害を被つたが、氏子中の篤い信仰心

のもと、各集落の氏神様も合祀し

て、被災より僅か一年半後には大津

総鎮守として再興を果たした。現在

の社殿は、本殿は旧矢之津神社、拝

殿は旧白山神社のもので、損害の少

なかつた両神社を氏子の手によつて  
移築・再建したもので、氏子中九ヶ  
所十神社の御祭神も合祀され、大津  
地区の団結の象徴となつてゐる。  
宅地造成や埋め立てが進んだ戦後  
は人口が急増し、当神社の氏子区域  
は大津行政センター管轄の三十二町  
(走水を除く)を数え、人口約四万人、  
一万所帯を有する広域な区域となつ  
たが、新興住宅や団地・マンション  
等の氏子会未加入の自治会も多く、



鳥居と祭礼幟



御本殿



手水舎

御鎮座千二百年祭を好機に交流を深  
めている。  
〈宮司 岩城純隆〉

（宮司 岩城純隆）



✿ 祭 神  
✿ 境内社  
✿ 例 祭  
✿ 他 旧集落の氏神  
稻荷社・琴平社  
八月二十七日直前の土・日  
土曜日 湯立神楽(旧千片神社跡)  
宵宮祭・献燈祭  
神輿合同参拝

日曜日 例祭・奉納演芸  
諸業開発・諸願成就

諏訪神社社務所  
連絡先

TEL〇四六一八三六一三五七〇  
京浜急行久里浜線「新大津駅」  
より徒歩五分

京浜急行浦賀線「京急大津駅」  
より徒歩十分

# はちまんじんじゃ 八幡神社 (八幡さま)

〒239-0831 横須賀市久里浜2-17-9 鎮座



神社名は、はちまんじんじゃ。地名は、やわたと読む。

養老四年（七二〇）当時の武人達によつて創建されたと伝えられる。

境内や周辺（現八幡遺跡群）から、弥生式土器の出土によつて古墳が点在していたことが立証される。特に前方後円墳（たで原遺跡）の発見は、當時有力な豪族の下で稻作が行われていたと思われる。

文字として、最初に出てくるのは、御浦の玖利波摩牟良という言葉である。（お米がとれる久里浜という意味）前述のたで原と八幡が非常に栄えたと思われる。

平安時代初め源氏の氏神

として、武神の性格が尊ばれ、武士はもちろん、一般民衆に尊崇され、八幡神社は、乱世にも兵火にあわず、むしろ三浦一族ら、戦功があれば、武具など奉納された。

天正十八年（一五九〇）

豊臣秀吉は、天下統一の最後の小田原城攻めにより、三浦の北条氏を封じ鶴岡八幡宮に祈願した後、八幡神社には、米三石を寄進した。

徳川歴代将軍も、これにならい継承し、幕府の直轄地（天領）と定め、社領約千余坪の御朱印と葵の紋を賜り、神社周辺は、浜、堀、松原、中小路、森、飛井など、また現在社殿が建つ場所は他の地よりも小高くなつて見晴らしがよいことから幕府の庇護もあり、多くの代官により治められ八幡地区が最も栄えた。

嘉永六年ペリー黒船の空砲に驚き、八幡神社に祈願、安全と知つて自家の屋根から黒船をみたと伝えられる。

明治維新政府は、神仏分離令を發布、神仏習合は一切排除された。また、明治二十一年黒田内閣により、

「八幡宮」の御名を賜る。大正三年  
神饌幣帛料供進神社に指定。

終戦後、日本国憲法の制定により  
戦前の神道が廃止され八幡神社にな  
る。

人変わつても、「八幡さま」の愛  
称で親しまれてきた神社には、その  
長い歴史と伝統をかいまみることが  
できる。

〈宮司 大井靖法〉



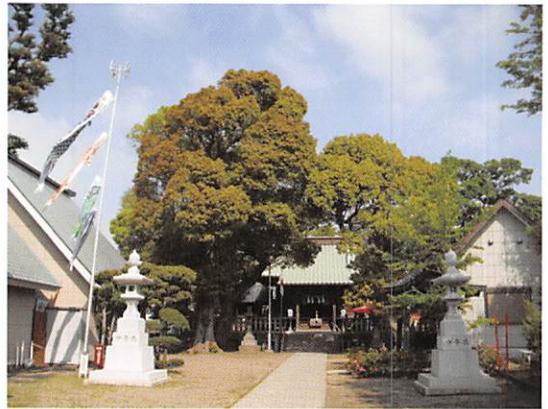
伏見稻荷社



豊川稻荷社



海軍工作神社



新緑境内

連絡先	横須賀	祭相殿神	祭境内社	例祭	天照皇大神
TEL〇四六一八三五一一三七一三	TEL〇四六一八三五一一三七一三	TEL〇四六一八三五一一三七一三	TEL〇四六一八三五一一三七一三	七月第三土・日（八雲祭）	はんだわけのみこと 誉田別尊
久里浜八幡神社社務所	近郷近在にみられない「神輿」 「からくり人形山車」 ・境内には四季折々の花など が見ることができる。	諸願成就 京急久里浜駅西口より徒歩五分 JR久里浜駅より徒歩十五分 ・世の変遷をみつめてきた巨木 の楠	・徳川歴代御朱印・木彫り四神 ・「板墨画龍図天井」横須賀市 指定重要文化財 ・「韓信の股くぐり」絵	九月曜日 神輿渡御 土曜日 宵宮祭 日曜日 湯立神樂	あまたすらおわらみかみ 天照皇大神・素盞嗚命
	・「力だめしの石」	・いつの世にか若者が競つた			おおのぬじめごと 大物主命・菅原道真公
		・近郷近在にみられない「神輿」 「からくり人形山車」 ・境内には四季折々の花など が見ことができる。			ふしみいなりし 豊川稻荷社・豊川稻荷社

# ごりょうじんじや 御靈神社

〒239-0835 横須賀市佐原1-16-1 鎮座



仁平元年六月創建。寛治元年の後三年の役に従つた者が景政の誠忠を称し子孫に伝えるために祀つたと伝えられる。また佐原十郎義連の祀つたともいわれる。

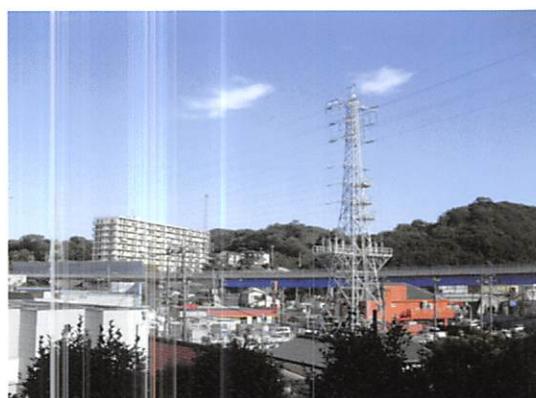
鎌倉権五郎景政は將軍であつた源義家に従つて、十六歳で奥州に武将として、出かけ仙北舍沢城に立てこもつた時、鳥の海弥三郎に左眼を射られ、その矢にめげず、鳥の海を追い射殺。その勇猛さは、古来稀であったため「御靈権現」として祀られる。

景政の事跡は相模国の住人鎌倉の権五郎景政というものあり。先祖より聞え高きつわものなり。年僅か十六歳にして戦い、征矢にて左眼を射られたり。矢をおりかけて當の矢を射て敵を射とる。のちに兜を取り手負いたりとてのけざまに伏し、同国の三浦の平太郎為継、景政の顔を踏みつけ矢

を抜き取る。景政伏しながら刀を抜きて為継のくさづりをとらえてあげざまに突かんとす。弓箭に当たりて死するはつわものの、のぞむところ。

いかで生きながら足にて面を踏むことあらむ。しかし汝を敵ととして、われ爰にて死なんという。為継舌をまけり。膝をかがめて顔を抑えて矢を抜き、多くの人は是を見聞き賞しぬ。とある。

〈宮司 大井靖法〉



神社から見た町並み



狛犬



社号額



山王社、神明社



社名

祭神	境内社	例祭	通連絡先	記事	交通
鎌倉五郎景政 天照大神 大山祇命(相殿)	稻荷社	七月下旬	久里浜八幡神社社務所	TEL〇四六一八三五一三七一三	土曜日宵宮祭・湯立神樂 日曜日神輿渡御
				かつて御靈神社氏子区域となる佐原地区には、佐原谷神明社、山王前山王社、茅山稻荷社、太郎崎稻荷社、小矢ヶ谷稻荷社、用崎稻荷社、内田稻荷社が点在していたが、道路整備や区画整理等により合祀する。	初午祭・稻荷講祭 京急北久里浜駅より徒歩三分 駅行き佐原橋下車徒步三十分 横横道路佐原インター近く
				大正時代頃から盛大に行われていた稻荷講祭は、現在は茅山稻荷講と神社に合祀する稻荷社のみとなる。	二月十一日 YRP野比

# いけがみじんじゃ 池上神社

〒238-0035 横須賀市池上5-4-5 鎮座

由緒沿革

往古、当地に白髭社、貴船社、第六天社の三社があつた。これら三社の創立年代は不詳であるが、白髭社の寛永十六

(一六九三)年の棟札が現存し、また『新編相模国風土記稿』に「貴船社に元禄十(一六九七)年の棟札あり」と記されており、少なくとも戸時代初期まで遡り得る。他の一社については不明である。明治四十年これら三社は他社に合祀されたが、氏子の熱望により旧跡に一字を建立し崇敬してきた。昭和二十一年これら三社を合併して「池上神社」と改称した。同四十四年社殿を造替し今日に至る。

〈宮司 小池千穎〉



社殿と社務所

祭 神

天照大神・八幡大神  
閻羅神・素戔鳴尊・猿田彦神

例 祭

七月最終日曜

連絡先

諏訪神社社務所

交 通

TEL〇四六一八二二一〇二〇八  
「京急バス池上十字路」より徒歩五分

横須賀

# みたきじんじゃ 御瀧神社

〒239-0834 横須賀市久村535 鎮座



瀧口盛定は藤原盛重の子。盛重は白河天皇に許しを経て高雄山に入道した。盛定は後、三浦党の幕賓となつて現在の平作に居住した。

その郎党の捨平はかつて盛定の父盛重の高雄山神護寺に参詣、その帰り拾い上げて養育された。盛定に仕事を与えるが主君逆らつて手打ちになるところ、海雲和尚の命乞いによつて救われて久村の草庵に帰り行を修めた。

ある日、老桜にまとう簾つたを抜き取ると清泉湧き出で瀧となり、水乏しき久村郷民は救われた。

捨平は、新田を開発して名主に挙げられ瀧本盛兼と名乗つた。この清泉、神木の老桜枯れた折、盛兼は斎戒沐浴してその神木を以て恩主瀧口盛定の像を彫り祠を建て水神と祀つて御瀧権現と称えた。文治年間の創建との伝え。（宮司 大井靖法）

連絡先  
境内社

例祭  
祭神

水速男命・瀧口五郎盛定  
天照大神（相殿）

八月第一土曜日・日曜日  
土曜日 万灯神輿渡御  
日曜日 宮神輿渡御

稻荷社

久里浜八幡神社社務所  
TEL〇四六一八三五一三七一三



狛犬



狛犬年号

# てんじんしゃ 天神社 (久里浜天神社)

〒239-0831 横須賀市久里浜5-19-3 鎮座



この地は古くは入海で葦原であった。久里浜中央部を流れる内川（今の平作川）流域一帯に新田開発をするべく、江戸初期に越前国鯖江出身で大

阪にて身を立てた砂村新左衛門が、幕府の許しを得て開拓することになる。新左衛門は以前から崇敬していた摂津国西成郡上福島村天満宮（現在の大坂市福島区鎮座福島天満宮）の御祭神・菅原道眞の御分靈を万治三年（一六六〇）六月に久

里浜村八幡（現在の天神屋敷）に勧請し、新田鎮護の神社としてお祀りしたのが当社の創建である。

その後、新左衛門はこの

新田開発の要となる大〆切水門の工事に着手するが工事は難航していた。そんな或夜、新左衛門の枕辺に菅原道眞公と上福島天満宮の相殿に祀られる天照皇大神が現れ、夢の中でお告げがあり、新左衛門は苦労して

ついに水門を完成させる事が出来た。

新左衛門は靈夢に深く感謝し新たに上福島天満宮より天照皇大神の御分靈を寛文五年（一六六五）九月村の東端、水門に近い宇明浜に勧請し、寛文七年（一六六七）には御神号を水神社とした。これにより村の東方に水神社、西方に天神社の両社が鎮座し、新田の形態と人心が整うこと



牛乗り天神像

になる。（後に水神社は明治四十一  
年九月七日天神社に合祀される。）

砂村新左衛門は寛文七年三月に至  
る間、八年をかけて石高三六〇石余  
の新しい村、「内川砂村新田」を完  
成させ、その後も村人たちは努力し、  
延宝七年（一六七九）には石高五四  
二石余、文化十一年（一八一四）に  
は石高五八五石余と発展を遂げて三  
浦半島で最大の新田となる。



正面参道



樹齢300年以上の櫻

内川新田は地理的には久里浜四・  
五丁目の商店街、六丁目の学校群、  
各企業研究施設一帯、舟倉町及び久  
里浜工業団地の全域と広範囲で、久

里浜地区繁栄の基盤となっている。  
社殿の造営は安永八年（一七七九）  
十月と明治二十六年九月と記録があ  
り、平成十三年八月には菅原道真公  
千百年式年大祭記念・砂村新左衛門  
生誕四〇〇年記念を祝い、新たに本

殿・拝殿・手水舎を造  
営。平成十五年には境  
内に菅公の騎牛像を建  
立。

当社は、三浦半島の  
中で唯一学芸の神菅原  
道眞公を主祭神とする  
神社で御参拝の方から  
「横須賀の天神さん」、  
「久里浜の天神さん」、

「内川の天神さん」と呼ばれ、お宮  
参り、七五三詣、受験生の合格祈願、  
近年は高齢になつても頭脳が曇らぬ  
様にとご参拝される方が多く、特に  
秋コスモスが咲き出す頃より、春、  
新緑の頃まで、遠近各地よりの参詣  
者で社頭が賑わう。  
（宮司早川智好）

✿ 祭 神

菅原道眞公・天照皇大神（相殿）  
素盞鳴命（相殿）  
祖靈社・稻荷社

✿ 例 祭

八月十日直前の土・日

土曜日 例祭

湯立神楽

日曜日 神輿渡御

✿ 境 内 社

学業成就・学芸上達

✿ 御 神 德

諸願成就

神社の向かいにイオン久里浜  
店があり、参拝の折に買い物、  
食事と便利でいつも賑わって  
いる。

✿ 連絡先

久里浜天神社社務所  
TEL〇四六一八三五一三七〇三  
「京急久里浜駅」より徒歩五分  
「JR久里浜駅」より徒歩十分

# くまのじんじゃ 熊野神社

〒239-0844 横須賀市岩戸1-4-1 鎮座



岩戸は岩山に囲まれた要害の地なれば三浦大介

衣笠城籠城の際岩戸五郎に命じて、老幼を避難せしめた所と伝えられ、治承四年衣笠城落去の節神

社も炎上した。

文治元年三浦大介の七男佐原十郎義連、社殿を再建し、佐原家の守護神と崇め祀った。

その後、義連が戦々功をなし曾津四郡に封ぜられ佐原家奥州に移りしにより土民崇敬して氏神と

して佐原神社と号す。

寛永年間、社地を熊野森と称し熊野大神となす。

明治四十一年九月岩戸の旧家山崎新左衛門邸内にあつた神明社を合祀した。

鳥居から社殿までは約百段以上ある階段を昇つた杜の中に鎮座。

〈宮司 大井靖法〉

✿ 祭 神

天照大神・応神天皇  
大己貴命  
諸願成就  
おまてらすおおみかみ  
おおなむちみこと  
おうじんくんのう

✿ 例 祭  
御神徳  
通 神

八月下旬  
満願寺信号入り徒歩七分

京急北久里浜駅よりバスYRP  
野比駅ゆき岩戸下車



神社入口

# てんしょうだいじん 天照大神 (長沢天照大神)

〒239-0842 横須賀市長沢6-27-33 鎮座



北下浦の長沢は、前が海、後が山に囲まれた地勢で自然豊かな土地である。その中心に通称「お伊勢やま」と呼ばれる小高い山があり、山頂に天照大

神の社殿が南向きに鎮座している。氏子地域、各町内を見守る姿である。由緒沿革は不詳であるが、江戸時代の「お伊勢参り」の盛んな頃に三重県伊勢市の伊勢神宮の神様のご分霊を勧請されたものと思われる。現在は地域内に四社あつた神社、浅間神社(入)、若宮神社(梅田)、熊野神社(宮ヶ谷戸)、春日神社(宮ヶ谷戸)の四社を天照大神の神社内に合わせてお祀りし、長沢の総社、鎮守様として親しまれている。

社殿の改修及び境内の整備事業も近年度々行われ、手水舎や裏参道の新設、山頂駐車場の設置等々、氏子崇敬者の篤い奉賛によつてより一層神域としての趣が深くなつた。〈宮司 早川智好〉

代の「お伊勢参り」の盛んな頃に三重県伊勢市の伊勢神宮の神様のご分霊を勧請されたものと思われる。現在は地域内に四社あつた神社、浅間神社(入)、若宮神社(梅田)、熊野神社(宮ヶ谷戸)、春日神社(宮ヶ谷戸)の四社を天照大神の神社内に合わせてお祀りし、長沢の総社、鎮守様として親しまれている。

在は地域内に四社あつた神社、浅間神社(入)、若宮神社(梅田)、熊野神社(宮ヶ谷戸)、春日神社(宮ヶ谷戸)の四社を天照大神の神社内に合わせてお祀りし、長沢の総社、鎮守様として親しまれている。

祭 神	例 祭	境内社	（飛地境内）
大日雲貴尊（天照大神）	例 祭	浅間神社奥宮	三浦富士山頂
伊弉冉尊	例 祭	若宮神社	山頂祭
木花開耶姫命	例 祭	熊野神社	七月七日
大雀命	日曜		九月二十一日に近い土日
伊弉諾尊			家内安全・家族健康
天兒屋命			長沢地区の總鎮守として初詣、例祭、特に三年に一度の例祭「大祭り」（合同祭礼）、又、三浦富士山頂祭は大いに賑わう。

## ✿ 聖 御 神 德

## ✿ 境 内 社

## ✿ 祭 神

## ✿ 連 絡 先

## ✿ 聖 記 事

## ✿ 例 祭

✿ 交 通  
TEL〇四六一八三五一三七〇三  
「京急YRP野比駅」より徒歩二十分  
横浜横須賀道路 佐原インター  
より車で十分

# かのうじんじや 叶神社 (西叶神社)

〒239-0824 横須賀市西浦賀1-1-13 鎮座



当社は養和元年（一一八二）神護寺文覚上人が勧請し創建した。

その由縁は、文覚上人が源頼朝の為に源氏再興

を発願し、治承年間（一一七七）一八〇）上総国（千葉）鹿野山に参籠しました。源氏氏神と称え奉る石清水八幡の神に祈念をし、源氏再興の本願が叶えられれば勝地を探し求め八幡の一社を建立、末永く祭祀をせんと誓いをたてた。

養和元年大願成就の前兆を感得し、社殿建立の勝地を求め、各地遍歴の末に鹿野山に相対する浦賀西岸の現在地に石清水八幡宮の神を祭祀する社宇を建立し、文治二年（一一八六）神の靈験により源氏再興の大願が叶うたところから、叶大明神と称するようになつた。

現在の社殿は天保十三年再建されたもので、本殿、

弊殿の内部は悉く彩色され、本殿の柱は金箔朱塗り、拝組は縹緗彩色、墓石は緑青色で彩られている。

そして、内部の七四面の花鳥草木の彫刻はすべて極彩色となつており、本殿扉は黒仕立鎌色塗、内面は金箔押しと云う、華麗な装飾がなされている。後藤利兵衛義光は安房国朝夷群北朝夷村（現千葉県千倉）出身であり、当社彫刻は、利兵衛がまだ江戸京橋の彫刻師後藤三次郎恒俊の弟子として、後藤利兵衛光定と称して居た二十八歳の時の作品である。

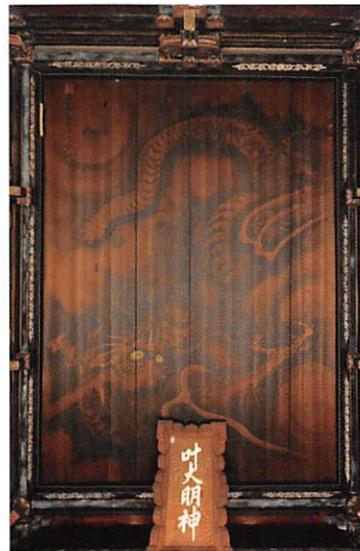
この後、利兵衛は師匠の江戸・京橋の三次郎への奉公を終えてから、腕を磨く修行を兼ねて、上洛し、京都・東山の智積院の扁額や、鞍馬寺の扁額を刻み、醍醐三宝院の院主金剛宥性上人より、「如意雨宝居士」

の法謐（ほうし）を賜つた。

弊殿の天井墨絵の龍、拝殿の大絵馬は、香雪斎円州の描いた傑作と云われる作品である。〈宮司 感見達也〉



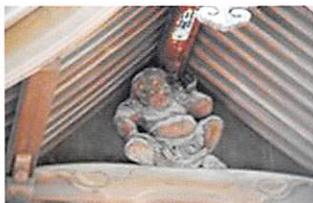
拝殿花鳥彫刻



幣殿墨絵の龍



八幡太朗大絵馬



本殿を支える力士像



拝殿向拝の龍の彫刻

横須賀

祭 神

誉田別尊（応神天皇）

比売大神

息長帝比売命（神功皇后）  
以上併せて八幡大神と尊称  
する。

境内社

老山福寿稻荷社・武雄神社  
大鳥神社・船守稻荷神社  
嚴島神社・淡島神社  
金刀比羅神社・福寿弁財天

例 祭

九月十五日（当日祭）

例祭、付祭

（慣例、正しくは六月の例祭会  
議で決定）

連絡先

叶神社社務所  
TEL〇四六一八四一一〇一七九

神事と芸能  
湯立神楽

交 通

京急浦賀駅徒歩十五分

# 走水神社

〒239-0811 横須賀市走水2-12-5 鎮座

走水神社は、十二代景行天皇の皇子、日本武尊やまとたけるのみことと御后の弟橘媛命おとたちばなひめのみこと二柱を祀りしている。

景行天皇即位四〇年、東国ひがしのくにの騒動を静めるため

日本武尊にその鎮定を命じた。

勅命を奉じて日本武尊は、伊勢神

宮に参詣され戦勝祈願をなし、神宮

の斎宮あめのむらくものみつるぎであつた叔母の倭姫命やまとひめのみことより神

宝の雨叢雲之剣あめのむらくものみつるぎと火打袋を授けられ、東国に東征の軍を起こされた。

途中、静岡（焼津）において

賊にだまされ火攻めの難に遭遇されたが雨叢雲之剣

で草を薙払い向火を放ち形勢を逆転させて賊を討伐したといわれ、これよりこの神宝を草薙之剣くさなぎのみつるぎとも呼ばれ、以来熱田神宮の御神宝となつてゐる。

日本武尊一行は、焼津、厚木、鎌倉、逗子、葉山を通り走水の地に到着された。



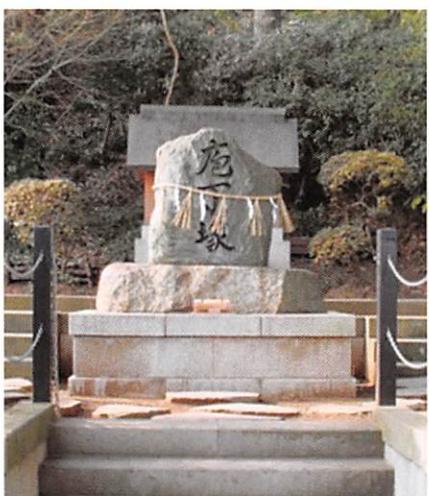
を建てた。（現在の御所が崎といわ  
れている）

走水の地において、軍船等の準備をし上総に出発するときに村人が日本武尊と弟橘媛命を非常に慕つていたので、日本武尊は自分の冠を村人に与えた。村人はこの冠を石櫃に納め土中に埋めその上に社を建て、これが走水神社の創建となる。

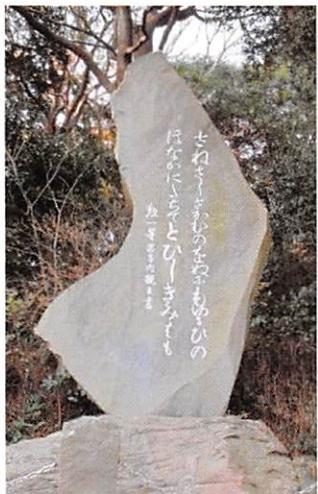
日本武尊は、上総国へ軍船でいつきに渡ろうと船出をしたが、突然強い風が吹き海は荒れ狂い軍船は波にもまれ進むことも戻ることもできず転覆するかの危機に、日本武尊に付き添つていた御后の弟橘媛命が「このように海が荒れ狂うのは、海の神の荒ぶる心のなせること、尊様のお命にかえて海に入らせて下さい」と告げ、「さねさし さがむのおぬにもゆるひの ほなかにたちて と

ひしきみはも」と御歌を残し、海中に身を投じられた。たちどころに海は風ぎ風は静まり日本武尊一行の軍

船は水の上を走るように上総国に渡ることが出来た。以来、水走る走水と言われている。



庖丁塚



弟橘媛命歌碑



舵の碑

東(吾妻)「アズマ」と呼ぶようになつたといわれている。

され、明治四十二年に走水神社に合祀され、今日に至っている。

〈宮司 感見達也〉

奈良時代の初期に編纂された『古事記』『日本書紀』にも記されている。

また、弟橘媛命が御入水されてか

ら数日して海岸に櫛が流れ着き、村人たちはその櫛を日本武尊と弟橘媛命の御所があつた御所が崎に社を建て、櫛を納め櫛神社としたが、明治十八年に御所が崎が軍用地になつたため、櫛神社は走水神社の境内に移

る。数日して海岸に櫛が流れ着き、村人たちはその櫛を日本武尊と弟橘媛命の御所があつた御所が崎に社を建て、櫛を納め櫛神社としたが、明治十八年に御所が崎が軍用地になつたため、櫛神社は走水神社の境内に移

✿ 祭神  
日本武尊  
✿ 境内社  
別宮(弟橘媛命に殉じた侍女を祀る)  
須賀神社

✿ 祭神  
神明社  
諏訪神社  
稻荷社

十月十五日  
針祭

包丁供養祭  
京急馬堀海岸駅よりバス「走水神社前」下車徒歩一分

# あぐちじんじゃ 安房口神社

〒239-0804 横須賀市吉井3-95 鎮座



安房口神社は吉井・明神山の山頂に鎮座する靈石を御靈代として拝する特殊な形態を持つ神社である。

御神体とする靈石は、

安房国（千葉県）鎮座の安房大社の御祭神である天太玉命の靈代として、東国鎮護のために安房国より吉井明神山の山頂に出現飛來したと伝えられる。その巨石の面が安房国を向いているという事から、古来より安房口明神と尊称してきた。

社伝によれば、日本武尊が御東征の折、登山せられて靈石を拝し、東夷征討が速やかに成就されることを立願せられたという。又、史家によれば、湘南山手開発前の安房口神社の山麓の道筋は、古東海道の一つであると云われている。鎌倉幕府も大事ある時には、当地の群主三浦義澄を代拝させて奉幣祈願を行つたとい

う。

創立は詳らかでないが、巨石を以てご神体と仰ぎ、社殿を設げず、神社建築史上からいっても原初的な形態をなしていることなどから、古代の鎮座であることは信憑性のあることであり、又古代の信仰形態を現代にまで伝えている珍しい神社でもある。

古代の神道では、大きな石や岩を磐境（いわさか）とか磐座（いわくら）と称し、神の降臨の場所・坐と考へてその前で祭りをした。その他、山（神奈備・かんなび）や樹木（神籬・ひもろぎ）を御神体とすることもあつた。神道の原点の一つは自然崇拜であり、神が宿つていそうな巨岩や、清らかな水を湧き出させる泉、あるいは山そのものに神が宿るという事で神まつりが始

まつたとされる。

この吉井の鎮守の森（杜）に鎮まる安房口神社は、古代より吉井の里人が大切にしてきた「ふるさとの森」であり、命を育み豊かな自然の恩恵を祈り、感謝する神社である。

日本全国の神社が存在することで



境内



鳥居

森を残し、守り、創ってきたこの森

こそ、長い歴史に支えられた鎮守の森であり、世界に誇る日本人の英知である。今では、「鎮守の森」は国際植生学会などでも世界の公用語になっている。

〈宮司 感見達也〉

## ✿ 神 須賀

## ✿ 天太玉命

アタマタケマツコト

遠い神代の昔、天照大御神のお側近くにお仕えになられた神様で、中臣氏と共に朝廷の祭祀（お祭り）を司った斎部氏（忌部氏）の祖神に当たる。

天照大御神が弟神・スサノオノミコトのあまりにも乱暴な振る舞いにお怒りになり、天の岩屋にお籠もりになられてしまった時には、中臣氏の祖神・天児屋命（アメノコヤネノミコト）と共に力をあわせて、大御神の御出現を願うためのお祭りを行なわれるが、それ以外にも御自身の率いる忌部の神々を指揮され、このお祭りを行なうために必要不可欠な鏡や玉、神に捧げる幣帛や織物威儀物としての矛や楯といった武具、社殿の造営などを司られており、天孫降臨にも五伴緒に名を連ねて、朝廷の祭祀を司る氏族として、宮殿の造営、祭器を造ることを職掌としていた。

## ✿ 例 祭

### 連絡先

### 神事芸能

### 湯立神樂

### 八月前半土日

## ✿ 文 通

### 安房口神社社務所

### 吉井二一七一五十四

### Tel〇四六一八四一一〇一七九

### （叶神社社務所）

京急久里浜駅 湘南山手行バス  
「安房口神社前」下車

# かのうじんじや 叶神社 (東叶神社)

〒239-0821 横須賀市東浦賀2-21-25 鎮座



東浦賀の守護神である  
当社は、社伝によれば、  
養和元年（一一八一年）、  
京都神護寺の僧文覚が源  
家の再興を発願して、山  
城国男山にある石清水八

幡宮を当地に勧請なされ、若し源家  
の再興実現の折には、永くその祭祀  
を絶たざるべしと祈念したところに  
始まる」と記されている。

その後、文治二年（一一八六年）  
には源頼朝公が平氏一門の滅亡によ  
り源家再興願意成就の意を  
込めて神号を改め、「叶大  
明神」と尊称されたと伝え  
られている。

社殿に昇る石段の両側に  
植えられている一対の蘇鉄  
はこの時に頼朝公が縁深い  
伊豆の地より移植奉納され  
たものと伝えられている。

なお、この創建の意を汲ん  
でのことであろうか、その  
後、源家の当社に対する崇  
敬信仰は甚大なものがあつ  
たと推測される。この事は

当社に伝わる、鎌倉幕府二代将軍源  
頼家公の銘を刻んだ花鬘（けまん）  
に再建された建築で銅板葺権現造で  
ある。神社の境内地は総面積約二千  
坪で、その中に本殿（奥の院）・拝殿・  
社務所・境内神社・その他諸石造物・  
石碑などが配置されている。中でも

境内神域の三分の二を占める明神山  
は、往古から自然林・常緑樹木の宝  
庫として神奈川県から天然記念物に  
指定されている。〈宮司 永井不士男〉



境内社 身代り弁天



勝海舟  
断食跡の碑



奥の院



境内社 東照宮

✿ 祭神 誉田別尊 「応神天皇」  
✿ 御神徳

当社は第十五代応神天皇さまを奉斎するところから八幡社の御利益即ち、

①国家隆昌 ②産業興隆 ③家業繁栄・

④航路平安・⑤交通安全・⑥厄除開運・

⑦勝運長久等の御神徳弥高くましま

す。また社号命名の由来より、願いが叶うというところから、心願並びに諸願成就に特に顯著なる御神威を発揚なされる。

この他に、古来当社境内には恵仁志坂（えにしざか）・産靈坂（むすびざか）と二つの坂があり縁結びにご利益があるとされています。お参りをされますと、恋愛に限らず、仕事・友人・その他諸々の良縁を結んでいただけます。

✿ 境内神社

(一) 東照宮 本殿（奥の院）

明神山の山頂に鎮座せられる社殿は、昭和五十六年に創建八百年祭を記念して再建されたものである。

(二) 東照宮 祭神 德川家康

由緒 元禄二年（一六八九）勧請  
(三) 神明社 祭神 天照大神  
由緒 永正二年（一五〇五）勧請

東照宮・神明社は明神山山頂に鎮座せられ、昭和五十六年叶神社創建八百年祭に当り、再建されたものである。

(四) 厳島神社（身代り弁天）

✿ 祭神 厳島媛命（市寸嶋比売命）  
由緒 寛政二年（一七九〇）勧請

叶神社社殿の石段に向かつて右側、社務所寄りの石窟の中におまつりされている弁天さまは、天災・人災による病気・事故その他危難に際し、身代わりになつて下さることから、近在の信仰をあつめている。例大祭は毎年七月十八日に斎行されている。

✿ 恒例祭事

一月 一日	歳旦祭
二月 節分	節分祭
二月 十七日	祈年祭
五月 五日	蘇鉄まつり
五月 十七日	東照宮祭
六月 三十日	大祓式
七月 十八日	身代り弁天例祭
九月 十五日	例大祭
十一月 二十三日	新嘗祭
十二月 三十一日	大祓式

はちまんじんじや  
**八幡神社** (かもいはちまんじんじや)  
鴨居八幡神社)

〒239-0813 横須賀市鴨居3-5-5 鎮座



治承四年源頼朝公鎌倉入りし、幕府の礎石を築くに当り、三浦義澄、義盛は軍功あつて後に荒次郎義澄三浦介となり、当郡を領し、義盛は侍所別当となり、三浦党の一

その頃多々良四郎義春は当郷鴨居の領主として武名も高く三浦家の柱石をなしていった。当社は義春が源家の命をうけて、養和元年（一一八一）鎌倉の鶴岡八幡宮を勧請したと伝えられる。新編相模風土記には「八幡社村の鎮守なり祭礼八月十五日縁起に養和元年六月源頼朝卿当縣遊覧の折り勧請ありし由記せり」とある。

（宮司 永井不士男）

当となり、三浦党の一族門葉最も栄えたときである。



神社神輿



手水舎



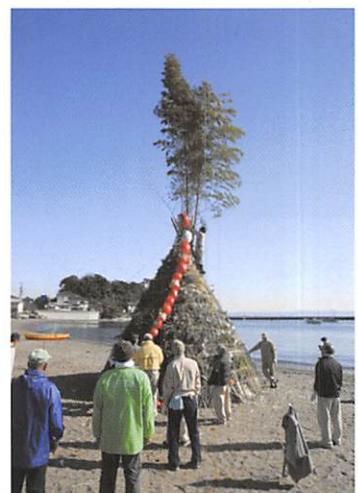
神輿庫



とっぴきびー踊り



7月例祭



齋燈（どんど焼き）

<p><b>境内社</b></p> <p>八幡神社・須賀神社 （第十五代応神天皇）</p> <p>須賀神社・素盞鳴尊 （牛頭天王）とも称される</p> <p>八幡神社、須賀神社の他に、当社には天神さま、お稻荷さん、大鳥神社その他の神様をおまつりしている。</p> <p>天満社・稻荷社</p> <p>八幡神社：九月十五日</p> <p>須賀神社：七月七日（現在は七月最終土曜日）</p> <p>須賀神社例祭には大祭の年とお浜降りの年がある。大祭は神社の神輿が全町を巡回し御座船で海上を渡御するものであるが、近年海上交通等の事</p>	<p><b>相殿</b></p> <p>八幡神社・誉田別尊</p> <p>（はんたりけのみこと）</p> <p>（第五代応神天皇）</p> <p>須賀神社・素盞鳴尊 （すさののむねこと）</p> <p>（牛頭天王）とも称される</p> <p>八幡神社、須賀神社の他に、当社には天神さま、お稻荷さん、大鳥神社その他の神様をおまつりしている。</p> <p>天満社・稻荷社</p> <p>八幡神社：九月十五日</p> <p>須賀神社：七月七日（現在は七月最終土曜日）</p> <p>須賀神社例祭には大祭の年とお浜降りの年がある。大祭は神社の神輿が全町を巡回し御</p>	<p><b>祭</b></p> <p>八幡神社・誉田別尊</p> <p>（はんたりけのみこと）</p> <p>（第五代応神天皇）</p> <p>須賀神社・素盞鳴尊 （すさののむねこと）</p> <p>（牛頭天王）とも称される</p> <p>八幡神社、須賀神社の他に、当社には天神さま、お稻荷さん、大鳥神社その他の神様をおまつりしている。</p> <p>天満社・稻荷社</p> <p>八幡神社：九月十五日</p> <p>須賀神社：七月七日（現在は七月最終土曜日）</p> <p>須賀神社例祭には大祭の年とお浜降りの年がある。大祭は神社の神輿が全町を巡回し御</p>
--	--	---

<p><b>御社殿</b></p> <p>本殿・幣殿・拝殿・天満社・神輿殿にて構成される。現在の社殿は昭和三年建立、平成三年屋根葺き替え工事を経て現在に至る。</p> <p><b>御神木</b></p> <p>本殿・幣殿・拝殿・天満社・神輿殿にて構成される。現在の社殿は昭和三年建立、平成三年屋根葺き替え工事を経て現在に至る。</p> <p><b>御社殿</b></p> <p>本殿・幣殿・拝殿・天満社・神輿殿にて構成される。現在の社殿は昭和三年建立、平成三年屋根葺き替え工事を経て現在に至る。</p> <p><b>御物</b></p> <p>神輿二基（八幡神社・須賀神社各一基）概ね江戸後期の作</p> <p><b>能面里神楽</b></p> <p>別名「とっぴきびー踊り」または「鴨居の馬鹿面里神楽」江戸時代後期、今から百八十年位前から伝えられ現在横須賀市指定の無形文化財となっている。</p> <p>出し物は、獅子退治、狐とり、餅搗き、鯛釣り等がある。</p>
---

情により開催が困難となつてゐる。お浜降りの年は、各町の一部の神輿のみ海上渡御、その後神社神輿の行列が浜に降りお神樂をあげる。この時鴨居全域の神輿が浜に勢揃いし、その姿は誠に壯觀である。境内中央に銀杏の大樹あり、樹齡は定かでないが約四百年。

# わかみやじんじや 若宮神社

〒239-0828 横須賀市久比里1-4-11 鎮座



若宮神社は享禄四年

奉齋したのが創立である。

(一五三一) 六月、鎌倉大町居住の白井宗左衛門が源家の縁によって、鶴岡八幡宮の若宮社の御分靈を奉遷し産土神として

當時、この地の久比里は微々たる一寒村であったが、白井宗左衛門が此處に若宮社を遷し奉つてより、率先して神祇を敬い、大いに産業を奨励し開拓に努め、その一族が栄えるに及んで大神の神徳をするもの益々多くなり、勤儉の美風が町を榮えしめたと云う。

鎮座地の久比里の地名の起こりは、「相模風土記」に依れば、「若宮權現社、小名久比里の鎮守なり、村持、神躰木立像社の床下に石あり長二尺五寸許、土人は是を崇敬す、石の形中程くびれたり、久比里の地名是より起これりと云う」とある。この石は今なお、本

殿の床下に安置してある。

祭日も往昔は六月一日であつたが、現今は八月一日で、当日は今も必多く降雨があるので、「三浦の下駄祭」と称して有名である。又、当社には勝海舟になる大轍並びに扁額を蔵している。隣地の宗円寺には、当社造営の慶長十一年(一六〇六)同十六年(一六一二)、寛永六年(一六二九)正保二年(一六四五)の棟札がある。

〈宮司感見達也〉

✿ 祭 神 大佐々岐命 大山咋命	✿ 例祭日 八月一日	✿ 境内社 稲荷神社・金刀比羅神社
✿ 神事と芸能 湯立神楽	✿ 神明社	
✿ 連絡先 若宮神社社務所		
TEL〇四六一八四三一四一九四		京急久比里浜駅より徒歩十分

# くまのじんじゃ 熊野神社 (權現さま)

〒238-0316 横須賀市横須賀市長井6-16-25 鎮座



長井の荒井磯の小高い処、相模湾を隔て、伊豆箱根の山脈（やまなみ）を前面にした秀峰富士に正対し、八百有余年の歴史を秘めて鎮座している。また一説には、当時社殿を建立するに当たり、熊野（和歌山

県）の本宮熊野大社に向かい合えるよう西向きに建てられたとも言われている。表参道の石造りの大鳥居は、その昔産地からはるばる石材を運ぶ途中、船が長井の沖の「亀城礁」と呼ばれる暗礁に座礁し、その積み荷の石材が寄進され大鳥居が造られたのだと伝えられている。

当社は、土地の人から「ごんげんさま」と呼ばれ、長井全町の総鎮守として古来より篤い信仰を集める。

創建は建久三年（一一九二年）源義経の家臣鈴木三郎重

家の嫡子三郎家長が、ここ長井の荒井の里に移り住み、郷里熊野の大権現を勧請し当地の鎮守としたのが始まりで、

当時より、社殿は権現造りで近隣無二の荘厳なるものであつた。表参道に聳える石垣を四・五段上ったところの右側には江戸日本橋の魚問屋寄進、左側には四日市の干物問屋寄進と天保年間の銘が残つており、昔からの熊野神社への崇敬の篤さが窺える。

七月十五日の例祭日には「飴屋踊り」（横須賀市指定の

民俗文化財）が奉納される。

若衆歌舞伎の形を残すもので、江戸末期に房総から漁師によつて長井村へ伝えられたとも、明治・大正期に、飴屋が飴を売りながら村々の祭りにこの踊りを広めたともいわれている。

（宮司 豊浦崇男）

## ✿ 祭 神

伊邪那岐尊  
伊邪那美尊

天照大神

明治二十八年一村一社の指令により、長井村内の小祠も熊野神社に合祀され相殿（むかいど）の神として祀られ九柱の神々をお祭りしていた。戦後地域氏子民の熱望により、合祀され還いた神々は、それぞれ昔の儘のお社に御靈され、それ以降当社の御祭神は明治以前の三柱となり現在に至つていて波きり不動尊

弁天様

境内社

## ✿ 境内社

境内社

## ✿ 例 祭

境内社

## ✿ 記 事

十月十五日 神幸祭（四年毎の大祭）

秋季例祭（お神楽奉納）

## ✿ 連絡先

神社近くにはソレイユの丘があり、境内からの相模湾越しに見える富士山、夕景の絶景とも有名で、多くの参詣者で賑わっている。

## ✿ 交 通

長井熊野神社社務所  
TEL〇四六一八五六一〇四四五  
荒崎行バス「荒崎」より徒歩三分  
「ソレイユの丘」より徒歩十分

# すみよしじんじゃ 住吉神社

〒238-0316 横須賀市長井6-30-32 鎮座



境内より港を望む

古きより長井の総鎮守は熊野神社であり、漁の神として荒井浜の住吉神社、岡の神として八雲神社が、漁業・農業、岡浜に別れてそれぞれに鎮守

と等しく信仰を集めた。古老の伝ひ傳に建久年中鈴木三郎家長発起となり諸人と共に勧請せりと、尚町内老人も恐らく鎌倉時代に創建せらしこと鎮守熊野神社に等と称す。

新編相模国風土記三浦郡卷の四長井村の条に住吉社と社号のみ列記さる。

〈宮司 豊浦崇男〉



鳥居

交 通	十一月十五日	例 祭	中筒之男尊
一分	秋季例祭（お神樂奉納）	祭 神	お天王さま
荒崎行バス「荒崎」より徒歩	熊野神社の例祭日に合わせ、	七 月	祭礼がおこなわれる。

# やぐもじんじや 八雲神社

〒238-0316 横須賀市長井1-5-1 鎮座



古きより長井の総鎮守は熊野神社であり、漁の神として荒井浜の住吉神社、岡の神として八雲神社が、漁業・農業、岡浜に別れてそれぞれに鎮守

と等しく信仰を集めた。また、創建に関しては鎌倉時代であると伝わる。  
鎌倉時代創建のものと古老は称  
〈宮司 豊浦崇男〉

通	記	祭	祭	神	素戔鳴尊
横須賀	事	三月中旬	春季例祭	(御神樂奉納)	神幸祭 (お天王さま)
長井バス停より徒歩三分	秋季例祭 (御神樂奉納)	七月下旬	十一月十六日		
仰が特に篤い。	神社近隣には農家が多く農産物直販の「すかなごつそ」が近くにある。農業生産者の信				



鳥居

# はちまんしゃ 八幡社 (林八幡社)

〒239-0831 横須賀市林4-696 鎮座



当神社の由緒は明らかではないが、寛永十七年の棟札がある。言い伝えによると天保年間に、社殿の改築が行われ、その彫刻は房州住人橋

後藤義光本名山口利衛門門下の作と伝えられ、神拝殿に再使用されている。

当神社は、明治六年六月村社に列し、明治四十一年十二月神明社を合祀、昭和三年十一月神饌幣帛供進神社に指定された。昭和二十八年十月五日「宗教法人八

幡社」となり現在に至る。

鎮座の場所は、林の扇子畑で、風光明媚な御幸ヶ浜を見下ろす社殿は、以前は流造草葺であったが、現在は造営され神明造り春日造併用銅板葺のまことに立派なものとなっている。

社前雄大な大鳥居に、手水舎、狛犬、灯籠を配し、神域は老樹の茂りと相まって尊厳の気に満ちている。

（宮司 豊浦崇男）

## ✿記事

## ✿境内社祭

## ✿神祭

誉田別尊  
おおたべめむらのみこと  
大日靈貴尊  
おおひるめむちのみこと  
伊邪那岐尊  
いやながみこと  
神明社

三月十七日  
春季例祭（お神楽奉納）

十月十七日  
秋季例祭（お神樂奉納）

氏子は従来、農家が大半を占めていたが近年様相も変わり近隣には住宅も増えた。三浦縦貫道にもほど近く（縦貫道下バス停より徒歩5分）、近隣外からの参詣者も見受けられる。

林四ツ角バス停から徒歩5分  
林バス停から徒歩7分



正面石段

# 三浦正八幡宮

〒238-0311 横須賀市太田和5-2771 鎮座



由緒…八幡社は古来武運を守護し、健康を司り、土を愛し、稔を扶け給う神として、崇敬最も厚く、村人其他参拝多く、御神徳の弥高く在りますを偲ばしむ。天文五丙申年九月十四日、時の領主北条彦九郎為

昌より鎌倉鶴岡八幡宮社領として、当太田和郷を寄進せられたと鎌倉鶴岡八幡宮古文書にある。

慶長十七年壬子八月二十二日、鎌倉鶴岡八幡宮を当村に分祀勧請し、小田和の真言宗安養院（今の蓮宗本住寺）の境外地に鎮座した。当時安養院の住僧が別当に任じた今の宮畠と称する地が宮地であったとのことである。

元禄四年未年十一月十五日、落成の社殿再建に当たり、村人御造営を謀りし折、十二羽の丹頂鶴が宮の屋の棟に現れ、忽ち舞上りて北に進みて飛翔し、今の鶴巻田の辺りにて三度舞を巻き、更に北に進みて西の谷の小高き丘の杜に舞降りて神跡をたれたので、今の中尾に社殿の造営は成つたとある。

文久二壬戌年十月里庄浅葉仁右衛門は僅かの基金に多額の私財を投じて社殿を造営せられた。即ち、今の社殿がそれである。旧本殿は里人高木當造なる者願主となり、宇林中尾に不動尊を祀り其の堂と

なつて居る。

文久四甲子年二月人皇第百二十一代孝明天皇宸筆の御社号を賜る。相三浦神社正八幡宮の篆額がある。

沿革書の記事は、鎌倉鶴岡八幡宮古文書、相模國風土記、浅葉家所藏の文献、本住寺古文書により記す。太田和は横須賀市の相模湾側に位置し、三浦郡葉山町より相模湾を秋谷・佐島と下ると海岸線は急に引っ込み、小田和川が注ぐ小田和湾となつていて。佐島より下ると長坂、荻野、太田和と続くが、そのいずれもが山側に長く伸びていて海上に面した辺はきわめて短い。かつては海に面していたが現在は自衛隊の武山駐屯地が塞いでいる格好となつていて。小田和湾奥の浜はかつて御幸浜（現在の武山駐屯地あたり）と呼ばれていた。

（宮司 豊浦崇男）

文 交	通	祭 神	諏 田 别 尊
記 事	境内社	山神社・神明社・姥神社	
例 祭 日	十 月 十 五 日		
		神社近くには太田和つづじの丘があり、多くの参詣者で賑わっている。	

# じゅうにしょじんじや 十二所神社 (三浦十二天)

〒240-0104 横須賀市芦名1-21-26 鎮座



社伝によれば、治承年中（一一七七）一一八二）源頼朝の夫人政子出産の時、近国の諸神に安産を祈る為、当社へも佐原左衛門尉義連が代参したと

云う。その後天正十九年（一五九二）徳川家康は二石を寄附し、文政年中（一八一八）一八三〇）領主・松平肥後守は郡中安全の大祭を行う。その時の祭文祝詞は今もある。

当社は古来三浦十二天、十二天明神と称していたが明治維新以来十二所神社（じゅうにしょじんじや）と改称す。

史乘掲載の古社であり

『吾妻鏡』の寿永元年八月十一日の条に、奉幣の御使を伊豆箱根両所權現ならびに近国の宮社に立てられ、三浦の十二天には佐原十郎を出向させたとある。

明治六年六月村社に列せられ、同四十一年五月九日無各社・秋葉社・山神社を合祀し、同四十二年十月二

十二日に神饌幣帛料供進神社に指定された。  
（宮司 玉泉隆治）

## ✿ 祭 神

國常立尊	國狹槌尊
豊斟渟尊	泥土袞尊
大戸之道尊	沙土袞尊
面足尊	伊弉諾尊
彦火々出見尊	伊弉冉尊
葦不 <sup>アシ</sup> 合尊	天照大神
大山祇尊	忍穗耳尊

## ✿ 境内社

八雲社	若宮社	稻荷社	大山社
-----	-----	-----	-----

## ✿ 例 祭

十一月十二日	湯立神樂
七月第三日曜日	神輿渡御
八雲社	宵宮祭

## ✿ 御神徳

家内安全・無病息災・商売繁盛	海上安全・諸願成就
----------------	-----------

## ✿ 連絡先

十二所神社社務所
----------

## ✿ 交 通

横須賀市芦名一一二十一一十 Tel〇四六一八五六一〇七〇七 「JR逗子駅」「京急新逗子駅」 より「京急バス長井行き、横須 賀市民病院行き、佐島マリーナ 行き」芦名バス停下車徒步七分
---

# 淡島神社

〒240-0104 横須賀市芦名1-18-29 鎮座



古来よりの口碑に、当社は十二所神社と共に創立されたものであるといわれ、多くの参拝者に淡島様と親しまれている。いわれ深い底なし柄杓を

胸にいだき、縁結びの神、安産の神として私どものからだをお守り下さる御祭神・少彦名命の御神徳に願いをこめる善男・善女の姿であり、春開けそめし桃のお節句三月三日はこのお社のお祭りであり、三浦のお祭りのはじまりでもある。

交通不便な明治の頃は、船上に日傘かざして参拝に出入りする大船小船が波間にゆれる風景は一幅の絵巻物「お礼参りは二人づれ」と手をとりあつて、きざはしを登っていく後姿は昔も今も変わらない。

お参りの人々を見守った石の鳥居の文化の年号、奉納者（叶屋中五郎、夷屋十三郎、高橋六右衛門）三名の名前は風雨に消されうす

れても長い過去を語ってくれる。

〈宮司 玉泉隆治〉



鳥居～参道

✿ 祭 神  
少彦名命  
三月三日

例祭

十三時三十分

例祭

十五時三十分

御神徳  
縁結び・子授かり・安産  
病気平癒・針供養・人形供養  
諸願成就

✿ 連絡先  
淡島神社社務所

横須賀市芦名1-1-11-10  
TEL〇四六一八五六一〇七〇七

「JR逗子駅」「京急新逗子駅」  
より「京急バス長井行き、横  
須賀市民病院行き、佐島マリ  
ナ行き」芦名バス停下車徒步  
七分

✿ 交 通  
通

# しんめいしゃ 神明社 (あきや 秋谷神明社)

〒240-0105 横須賀市秋谷2-14-12 鎮座



八坂神社

元弘三年（一三三三）  
八月十五日、当国葛原郡  
の森武山の三神（天照大  
神、御嶽、浅間の三神社）  
の社主、従四位下若命伊  
豆守基盛が秋谷村に引移

治四十一年十月三十日無名社・神明  
社、諏訪社、浅間社を合祀し、明治  
四十二年十月二十二日神饌  
幣帛料供進神社に指定され  
た。

〈宮司 玉泉隆治〉

四十二年十月二十二日神饌  
幣帛料供進神社に指定され  
た。

✿ 祭 神

おおひるぬまむらのみこと  
大日靈貴命・たけみなかのみこと  
建御名方命・あさらすおおかみ

いざなみのかと  
伊弉冉命・こしらねのみこと

伊弉冉命・事代主命・あさらすおおかみ

事代主命・天照大神  
あさらすおおかみ

木花咲耶姫命  
このはなくわいのみこと

木花咲耶姫命  
このはなくわいのみこと

✿ 境内社

おおひるぬまむらのみこと  
大日靈貴命・たけみなかのみこと  
建御名方命・あさらすおおかみ

いざなみのかと  
伊弉冉命・こしらねのみこと

伊弉冉命・事代主命・あさらすおおかみ

事代主命・天照大神  
あさらすおおかみ

木花咲耶姫命  
このはなくわいのみこと

木花咲耶姫命  
このはなくわいのみこと

✿ 例 祭

おおひるぬまむらのみこと  
大日靈貴命・たけみなかのみこと  
建御名方命・あさらすおおかみ

いざなみのかと  
伊弉冉命・こしらねのみこと

伊弉冉命・事代主命・あさらすおおかみ

事代主命・天照大神  
あさらすおおかみ

木花咲耶姫命  
このはなくわいのみこと

木花咲耶姫命  
このはなくわいのみこと

十一月十三日 現在は前後の

土又は日

八坂神社（夏祭り）七月第二

金・土

金曜日 宵宮祭

土曜日 神輿渡御

交 通

✿ 御神徳

家内安全・無病息災・諸願成就

「JR逗子駅」「京急新逗子駅」

より「京急バス長井行き、横須  
賀市民病院行き、佐島マリナ  
行き」秋谷バス停下車徒步五分



海神社・御嶽山神社

# くまのじんじゃ 熊野神社 (久留和熊野神社)

〒240-1015 横須賀市秋谷5309 鎮座



鳥居・参道

（宮司 玉泉隆治）  
事並びに神社古事等消失してしまったとあり、従つて往古の記録等徵すべきものはない。然しながら、その時の調査に社殿本殿九尺四

方、覆殿二間四尺五分、拝殿間口三間奥行三間半とある。

当社の創立については詳らかではないが、明治維新前迄は熊野権現と称し、古来久留和と伝える此の郷の産土神として崇敬されている。

文政乙酉年地誌御用役・内山孝之助、御出役・猪飼昌次郎両氏の調査に依ると、当社はもと同村円乗院（正慶元年・一三三三創立）が別当として管理していたが大永六年（一五六六）秋谷村の大火に類焼し、重宝古事並びに神社古事等消失してしまったとあり、従つて往古の記録等徵すべきものはない。然しながら、その時の調査に社殿本殿九尺四



社殿側面

✿	✿	✿	✿	✿
✿	✿	✿	✿	✿
✿	✿	✿	✿	✿
✿	✿	✿	✿	✿
✿	✿	✿	✿	✿

祭 神

境内社

例 祭

御 神 德

交 通

伊弉諾命・泉津事解男命  
（いざなぎのみこと・いずみことときのみこと）

金比羅社・八坂神社（二社相殿）  
（かなみらしゃ・やさかじんじゃ（にしゃあうでん））

十一月十日・湯立神樂  
（はつまつじんらく）

家内安全・無病息災・諸願成就  
（いえうちあんぜん・むびょうそくさい・しょがんじょうじゅ）

「JR逗子駅」「京急新逗子駅」  
より「京急バス長井行き、横須賀市民病院行き、佐島マリーナ行  
き」子産石バス停下車徒步二分

# ましまの熊野社

〒240-0103 横須賀市佐島2-14-17 鎮座



佐島は横須賀市の西部  
海岸にある漁村である。

幸が豊かで人情は細やか  
であり、南国的な桃源郷  
である。佐島の人は敬神

崇祖の念が強い。男たちは外海へ大  
きく乗り出して行つた。外海へ出れ  
ば嵐もある。「船板一枚下は地獄」  
である。だから航海の安全を祈り、  
豊漁を願う気持ちは強く純粹であ  
る。また、神仏への報恩感謝の念も  
強い。

その天神島は、ハマユ  
ウ自生の北限地として知ら  
れている。佐島という名称  
は「山と海に囲まれた陸の  
孤島であった地形から」と  
言われている。

当社は明治二十四年佐島

全焼の際、社殿は鳥有に帰  
して由緒記録等を焼失して  
その創祀年月も明かされて  
いないが、宝永元年（一七  
〇四）別当法印、享保七年（一七  
二三）現住秀快法印

印の棟札を蔵している。『相模風土  
記』に「本地仏弥蛇を置き、村の鎮  
守なり云々」とあつて古き年代をも  
つ神社と思われる。なお境外末社天  
神社は佐島水尻に奉祀されていたの  
を応永八年（一四〇二）九月十三日、  
京都の佐々木道人が永松院西岸寺の  
住僧に、道真公の像を与えて島に宮  
殿を造営させて勧請したといわれ、  
依つて島を佐々木島と称し、後に天  
神島と言われるようになつた。天正  
十九年（一五九一）十一月、徳川家  
康は朱印二石を寄せて崇敬の誠を尽  
した。

明治四十一年十一月十一日、熊野  
社に合祀されたがその後、当村民は  
天神島に祭神分離の念が年と共に加  
わり昭和二十六年三月一〇日、分離  
申請書を提出、同年三月二十五日境  
内社設立の許可を受けた。

境内社頭に立つて願望すれば相模湾を一望に収めて真に景勝の地である。社殿は神明造にて年古くなく社域は整然として神々しく自ら心静まる感がある。



佐島の地で夏に行われる通称御船祭りとは、佐島の鎮守である熊野社の伝統的な祭礼で正式には「佐島熊野社八雲大神祭礼」という。港町ながらではの勇壮な風景が見られる船祭



水産省「農山漁村の郷土料理百選」に選定された「へらへら団子」が各家庭で作られ、また、きゅうりのお初を天王さま（須佐之男尊）に奉納して初めて食す習慣がこの地にはある。

境内に御嶽大神を祭った祠がある。このような御嶽山大神や国

りの見所は、三年に一度の御輿の海上渡御や正確な起源は不明だが江戸時代『佐島船祭り御座船絵図』によると安政五年（一八五八）から受け継がれている市指定重要無形民族文化財の「佐島御船唄」の奉納を特徴とする。現存する船祭りでは相模湾東部で最大規模である。

祭りの日には、二〇〇八年の農林

常立尊の祠石碑が三浦半島西部～鎌倉にかけて何ヶ所もあるが、ここの中の一つである。

三浦半島には約二十の熊野神社が鎮座している。紀州の熊野神社は全国各地の海岸地方に多い。航海の神であり漁業者の信仰が厚い神である。

〈宮司 豊浜芳夫〉

祭 神	伊邪那岐尊・伊邪那美尊
境内社	相殿 保食命・大日靈貴尊 水稻魂命・須佐之男尊
連絡先	八雲社・舟玉社・境外末社 天神社（菅原道真公・三月二十五日）
交 通	例 祭 十一月十一日
留所下車	神事と芸能 湯立神楽
徒歩五分	熊野社社務所

Tel〇四六一八五六一三七〇三  
京浜急行バス「佐島港前」停

# そぼじんじゃ 祖母神社

〒240-0101 横須賀市長坂3-12-45 鎮座



小田和湾に面し山側に細長く広がっているところが長坂である。地形にちなんだ地名で「長」は長いという意味のほか、傾斜地を指す方言である。

り、「坂」は山や丘に上り下りする道という意味である。

武山断層に近く、原子力関連施設や陸上自衛隊の駐屯地に近い重要な位置に鎮座している。境地は耕地より程近い高台にあり、社殿の背後には老松が多く、森厳の気が充ち閑寂な境地をなしている。

当社はもと祖母山明神と称し元和二年十月（一六一六）、今よりおよそ三九〇年前、第一〇八代、後水尾天皇の御代に日向の国（今の宮城県）にある姥嶽明神を勧請したと伝えられ、元和二年十月（一六一六）、間宮吉則が社殿を修復した旨の棟札と元禄一六年（一七〇三）の棟札を蔵している。

るが、その他の由緒については詳かにされていない。明治六年（一八七三）、一村一社に定められ祖母神社となつた。更に明治四十一年七月（一九〇九）、次の三社を合祀することになった。

・秋葉社（鹿島）

祭神は穗須勢理命

・白山社（谷戸）

祭神は伊邪那美尊

・若宮社（石谷戸）

祭神は大日靈貴尊

この外に白山社（寺地）

祭神は不明

明、山王社（里） 祭神は大山昨命、浅間社（堀越） 祭神は木花咲夜毘売命、祇園社（荻野） 祭神は不明、これら

の祭神も合祀したことが記録に残っている。そして大正三年（一九一四）一月、神饌幣帛料供進神社に指定されたが終戦後憲法により国及

びその機関はいかなる宗教的活動もしてはならないことになりこの制度は廃止された。

また、この神社は昔から安産の神社として多くの人々から崇拜されている。

当神社の社殿が權現造と記録されているが、この様式は桃山時代に起り、江戸時代に非常に流行したもので、組物や彫刻を用い、彩色を施

すなど華麗な建築法である。日光の東照宮はその最も顕著な例である。終戦前までは別格官幣社であつた東家康の遺骸を駿河久能山からこの地に改葬し、寛永十一年（一六三四）、徳川家光が廟宇を造立し、同十三年に成ったということから当祖母神社はそれより一年早く建立されていることがわかるのである。

江戸時代、祖母神社の祭礼に三浦相撲が奉納され、それは大正時代まで行われていた。

（宮司 豊浜芳夫）



✿ 祭 神  
伊邪那岐尊  
相殿（合祀）  
穗須勢理命・大日靈貴尊

✿ 例 祭  
九月第一土曜日  
十一月二十三日 感謝祭（秋）

二月 記念祭（春の御神楽）

湯立神樂

✿ 神事と芸能  
熊野社社務所

連絡先

✿ 交 通

TEL〇四六一八五六一三七〇三  
京浜急行バス「佐島入口」停

留所下車 徒歩十分

# 三島神社

〒238-0313 横須賀市武1-33-13 鎮座



春 納

・ 走湯社	例祭	九月七日
・ 吾妻社	命 例祭	一月十七日
・ 牛頭天王（須佐之男尊）	例祭	六月六日
・ 天忍	例祭	十一月

当社は、社殿正面に靈峰富士を仰ぐ気候温暖にして風光明媚な三浦半島は武山丘陵の北麓に鎮座している。混生する常緑広葉樹に

より境内を囲む社叢林は、神奈川県指定の天然記念物として貴重な存在である。更に北側には、情報通信分野における国際的な研究開発拠点として名高い横須賀リサーチパークを配し、海と丘に包まれた豊かな自然と最先端技術の科学・文明とが調和した恵まれた環境に位置している。

当社の創建年代は不詳であるが天保十二年（一八四一）頃の「新編相模風土記」に以下の内容が記載されている。

三島神社 村の鎮守なり  
例祭 九月十一日  
・ 吾妻社 祭神 弟橘姫  
命 例祭 一月十七日  
牛頭天王（須佐之男尊）を合殿 例祭 六月六日  
その他、御幸浜（現在は自衛隊武山駐屯地になつていてが昔は砂浜だった）で何か光る物を拾い、持ち帰つて見ると牛頭天王像だつたので、それを近くの吾妻社に収め、その後八坂神社の夏祭りが行われるようになったとの伝説もある。

・ 神明社 祭神 天照大御神 例祭 一月十六日  
神明社が祀られている水道山は、昔は「お伊勢山」と呼ばれていた。これは神明社のご祭神が伊勢神宮と同じ天照大御神である事の他、当地の平野の真ん中に小山がある地形が、伊勢に似ているためと言われている。

三島神社は伊豆半島より分霊されたとも言われている。  
以上のように三島神社の創建は戸時代の天保（一八三〇）の頃と考えられ、二〇〇年程の歴史があると考えられている。

その他、御幸浜（現在は自衛隊武山駐屯地になつていてが昔は砂浜だった）で何か光る物を拾い、持ち帰つて見ると牛頭天王像だつたので、それを近くの吾妻社に収め、その後八坂神社の夏祭りが行われるよ

神社の社格については、律令時代より一応あつたが、明治新政府が神社の格付けを行つた。官幣社、国幣社、府県社、郷社、村社、無格社がそれである。三島神社は明治六年村社に格付けされ、他の各神社は無格社とされた。

明治四十年、政府の一村一社方針の影響を受け、昭和八年に神明社が、昭和十八年に走湯社と吾妻社が三島神社に合祀されました。当時三島神社が格上だつたので、三島神社に合祀されたようである。この時の記念碑が社殿の向かって左側に建てられている。

昭和十三年には火災のため社殿が焼失。その後昭和十六年に当時の氏子、地元の大工さんが協力して、旧社殿が新築された。当時地元に住んでいた方によると、皆で山に木を切りに行き、古材等も使って再建したという。

平成四年二月当三島神社の森は

「三島社の社叢林」として、神奈川県の天然記念物に指定された。この森は「アカガシ・スダジイ・モチノキ」等の常緑広葉樹林と「ホソバカナワラビ」等のシダ植物が群生している所が貴重なようだ。

氏神様、鎮守様として江戸時代から永きにわたり厳然として武を見守つていただいている三島神社は、いく度かの補修によりその容姿を保つてきたが、現在の社殿は平成十九年十月に建て替えられた。当時の氏子会役員が中心となり、「武三島神社社殿修復事業奉賛会」を設立し、地元の方々に奉賛を呼び掛け完成したものである。

当社のお祭りは、七月中旬に八坂神社の夏祭が行われ神輿、山車、屋台が町内を巡回し、家内安全、五穀豊穣を祈願し盛大に行われている。十一月中旬には秋祭が行われ、午前中は七五三の御祈祷、午後からは「湯立神樂」の神事が厳かに執り行われる。

る。また元旦には毎年千人以上の方が初詣に訪れる。

当社には伝統芸能として、祭囃子・獅子舞・謡が保存されており、祭礼時にはそれぞれの保存会により奉納される。

伝統を継承し、地域の親和に寄与する三島神社は、年々参拝される方々も多数となり、私どもの心のよりどころとして広く崇敬されている。

（宮司 豊浜芳夫）



✿ 祭 神  
✿ 相 殿  
✿ 大 山 祇 命  
✿ 大 日 雲 貴 尊 神  
✿ 天 忍 穂 耳 命 · 弟 橘 姫 命  
✿ 神 事 と 芸 能  
✿ 連 絡 先  
✿ 例 祭  
✿ 十 一 月 十 五 日 直 前 の 日 曜 日  
TEL ○四六一八五六一三七〇三  
✿ 交 通  
京浜急行バス「武山」停留所  
下車徒歩十分

# あづましや 吾妻社

〒237-0072 横須賀市長浦町5-15-1 鎮座



創祀については創立当時の事情年代は不詳であるが、吾妻半島（現在は運河により区切られて吾妻島となり、米軍の用地として立ち入りのできな

い区域になつていて）の中の吾妻山山上に鎮座し、日本武尊・橘媛命の御威徳を敬仰、鎮齋され、中世には吾妻權現と呼ばれて、海上安全をはじめとするその顯著な御神徳は近郷民衆の崇敬の中枢となつていた。

## 『新編相模國風土記稿』

三浦郡卷之九長浦村の条には、「吾妻權現社 村ノ北方山上ニアリ。社頭松樹數株アリテ海上通船ノ標トナセリ。祭神ハ橘樹姫命。神躰木像。村持。」の記載がある。

伝承によれば、弟橘媛命の御入水ののち、御屍がこの浦に流れ寄りきたのを葬り奉つたものとも、または、媛の御入水の際に、日本武

尊が握り遊ばされていた姫の衣の片袖が、命の御手に残つたのを収め祀つた所とも、あるいは、媛の御櫛が流れ漂つっていたのを拾い上げて、淨地山上に納めて二尊を奉祀申し上げた所ともいわれる。

中世には、田の浦常光寺が当社の別当職となつたが、その濫觴は、源実朝の家臣であった鈴木三郎常廣の二男常光が、主君が非業の最期を遂げたことに無常を感じて、比叡山に登つて得度し、三浦衣笠に常光寺を営んだが、吾妻社が時を経て荒廃しているのを見てこれを改修し、衣笠より来たりて庵を結び奉仕したことによるという。

爾來、鎌倉武将を始め、近郷一円に多くの崇敬者を有して修造も常に行われてきたといふ。

明治六年村社に列格。

明治三十二年、吾妻山一帯が海軍

用地として買収されたため、幾百星

霜由緒の深かった長浦字長浦一九七九の吾妻山を離れて、現在地に位置を移し、社殿の大改装も加えて遷座奉祀するところとなつた。

しかし、大正六年大暴風雨のため拝殿が倒壊。大正十三年氏子崇敬者により仮拝殿を再建するものの、再び大風により倒壊したという。

昭和二十一年六月、宗教法人令に

より宗教法人となつた。

氏子区域は有せず、田の浦神明社の氏子会と、長浦神明社の氏子会とが合同で奉仕している。

例祭には湯立て神楽が奏される。

（宮司 佐野和史）



覆殿内の流造の本殿（18世紀）

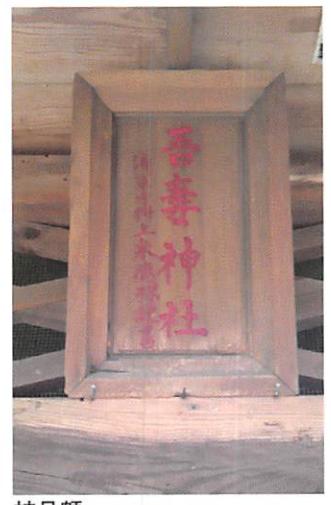


嘉永七年の手水鉢

❖ 祭 神 日 祭 祀  
參 照 日 本 武 尊 橘媛命  
春季祭礼 四月後半日曜  
例祭（秋季祭礼） 八月十七日  
(以後の日曜) 湯立て神楽  
〔新横須賀市史（別館・文化財編）〕の第三編近世建築に本殿（流れ造り）についての考察が掲載されている。



鳥居



神号額

# しんめいしゃ 神明社 (長浦神明社)

〒237-0072 横須賀市長浦町5-9 鎮座

創祀については明確な根拠となる資料は存しないが、天徳三年八月ころの造立と伝えている。

横須賀市の吾妻半島

(現在は運河により区切

られて吾妻島となり、米軍の用地として立ち入りのできない区域になっている。)の先端地域一帯は、箱崎と呼ばれ、その地に創建されたものである。

『新編相模國風土記稿』三浦郡卷

之九長浦村の条には、「神

明社 箱崎明神ト號ス。字

箱崎ニ在ル故ナリ。村ノ鎮守トス。神躰銅像。文祿四年ノ勸請ナリ。其棟札今ニ

藏ス。文ニ奉建立伊勢天照

大神宮。相州三浦郡長浦之

村。文祿四稔五月四日。大

檀那鈴木雅樂助トアリ。例

祭九月九日。村持。」と見

え、箱崎の地域の鎮守とし

て崇敬されていたことが知

られる。文祿四年の棟札と

いうのは、この地域の鈴木

氏により再建された時のものを指しているのであろう。地形的にみても、古来、伊勢・熊野方面との海上交通にも関わることの多かつたと思われるこの地に、鈴木氏の祖先の関与もあると推察できる。

明治十三年九月、横須賀軍港が拡張するのに伴い、箱崎の地が海軍用地として買収されたため、長浦字西の浦に移転したのであるが、この神域(横須賀線のトンネル出口北側の山上)も鉄道線路の増設により参道(階段)を断たれて交通不能となり、昭和二十五年十二月、現在地に境内を整備し、社殿を移転修築して御遷座申し上げるに至つたものである。

以降、現在にいたるまで「長浦町内」

(長浦町五丁目区域)の鎮守として

氏子の崇敬により、年々の祭典が執



行されてきている。

特に、夏の例祭には湯立て神楽が奏され、町内神輿の渡御もおこなわれる。

昭和二十一年六月、宗教法人令により法人届け出をした。

（宮司 佐野和史）



覆殿内の本殿及び末社



神輿



榊神輿

横須賀	神 祭 日	大日靈貴命
		八王子神 稲荷大神（相殿）
	春季祭礼	四月後半日曜
	例祭（夏季祭礼）	八月第一土曜（湯立て神楽）
	日曜	（神輿渡御）



手水鉢及び狛犬

# しんめいしゃ 神明社 (田の浦神明社)

〒237-0072 横須賀市長浦町2-76 鎮座



創祀については創立当時の事情年代を詳らかにしないが、吾妻半島（現在は運河により区切られ

て吾妻島となり、米軍の用地として立ち入りので『新編相模國風土記稿』三浦郡卷之九長浦村の条には、「神明社、正徳三年ノ棟札アリ、例祭九月十九日」と見えるが、この棟札は改修のときの棟札で、創立は正徳以前であることは明白である。

大正十五年三月、同所田の浦浜の無格社幸神社を合祀し、祭神に猿田彦命が増祀された。また同年十月、田の浦浜の社地が海軍軍需部用地として買収されることとなり、現在の社地に社殿を移築改修し、同年十月、遷座申し上げることとな

きない区域になつていて)の中の田の浦浜の鎮守として、伊弉那岐命・伊邪那美命を主神として鎮齋されてきた。

特に、夏の例祭には湯立て神樂が奏され、町内神輿の渡御もおこなわれる。昭和二十一年六月、宗教法人令により法人の届け出をした。

〈宮司佐野和史〉



祭 神	伊弉那岐命・伊邪那美命
猿田彦命 (相殿)	
日 春季祭礼	四月後半日曜
例祭 (夏季祭礼)	七月最終土曜 (湯立て神樂)
日曜 (神輿渡御)	

# はちまんじんじや 八幡神社

(須軽谷八幡神社)

〒238-0314 横須賀市須軽谷1186 鎮座



勧請の由来は詳らかで

いう記録がある。

はないが、正保三年（一六四六）に京都の石清水

八幡宮を勧請したと伝え

られ、享保十六年（一七三一）社殿を修繕したと

明治六年須軽谷の鎮守として「村

社」に列格された。

は、寛延二年（一七四九）村の組頭

総代により書き残された記録による

と、延宝二年（一六七四）

に村で疫病が流行り村人の

命が失われ、人々が恐れて

いた様子を見た法道寺の住

職が一片の木から牛頭天王

の像を彫刻し、疫病から逃

れるよう祈ると疫病は治ま

り村人は救われた。その後、

牛頭天王をお祀りするため

社殿が建てられ、毎年神樂

が奉納されるようになり、

さらに延享四年（一七四七）

には神輿が造られ、毎年六

月に祭礼が行われるよう

なった。現在、社殿はなくなつてしまつたが、天王ヶ谷という地名だけが当時の面影を今に伝えている。

境内は武山の南麓に位置し、枝振り

りが美しい樹木が多く、静寂な神域の中に社殿が鎮座している。

〈宮司 菊池恵〉

## ✿ 祭 神

✿ 誉田別尊・天照皇大神（相殿）  
✿ 素盞鳴尊（相殿）  
✿ 大山咋命（相殿）

## ✿ 例 祭

十月二十八日 湯立神楽

## ✿ 御 神 德

✿ 家内安全・疫病退散・五穀豊穣  
✿ 大正初期から昭和初期まで、春

祭の日に「馬駆」と呼ばれる

奉納競馬が盛大に行われ、三

浦半島でも有名な行事の一つ

であった。

## ✿ 連絡先

### 八幡神社宮司宅

Tel ○四六一八八八一〇七五八

三浦海岸駅から横須賀市民病院行き、又は衣笠十字路行き

バスに乗り、下の里で下車。

徒歩五分

# せんげんじんじゃ 浅間神社 (みうらふじのせんげんさま)

〒239-0843 横須賀市津久井1267 鎮座



社伝によると聖武天皇の天平年中（七二九～七四八）に僧行基（奈良大仏建立勸進の高僧）が当郷に来り、駿河国の浅間神社を勧請し祀つたとあ

る。そこは津久井と長沢の奥にあつて高くそびえる浅間山の山頂である。この山は海上からよい目標となり、漁場の位置や東京湾に出入りする船のよい目印となると共に信仰の対象になつてゐる。後に三浦富士と呼ばれ、人々から崇められるようになつた。

当社の奥宮は今も山頂に鎮座している。毎年七月八日山頂にて「お焚き上げ」の神事が盛大に行われ、家内安全・大漁・海上安全・五穀豊穣・病気平癒・交通安全等を祈願する人々で賑わう。

明治六年津久井の鎮守として「村社」に列格され、明治四十年八坂神社、日枝神社、稻荷神社を合祀し、

昭和四年神饌幣帛料供進神社に指定された。

当社殿は当初「富士入」にあつたが、昭和三年十一月、現在地に移転した。境内は緑の大樹に囲まれ、静寂な神域の中に社殿が鎮座している。

（宮司菊池恵）

## 祭 神

木花咲耶姫命・素戔鳴尊（相殿）  
猿田彦命（相殿）・保食命（相殿）

## 境内社

金毘羅神社・稻荷神社

## 例 祭

七月七日 湯立神樂

## 御 神 德

家内安全・安産・子育守護・縁結び

## 記 事

津久井観光農園ではミカン狩りやイチゴ狩り、芋掘りなど年間を通して楽しむことができる。

## 連絡先

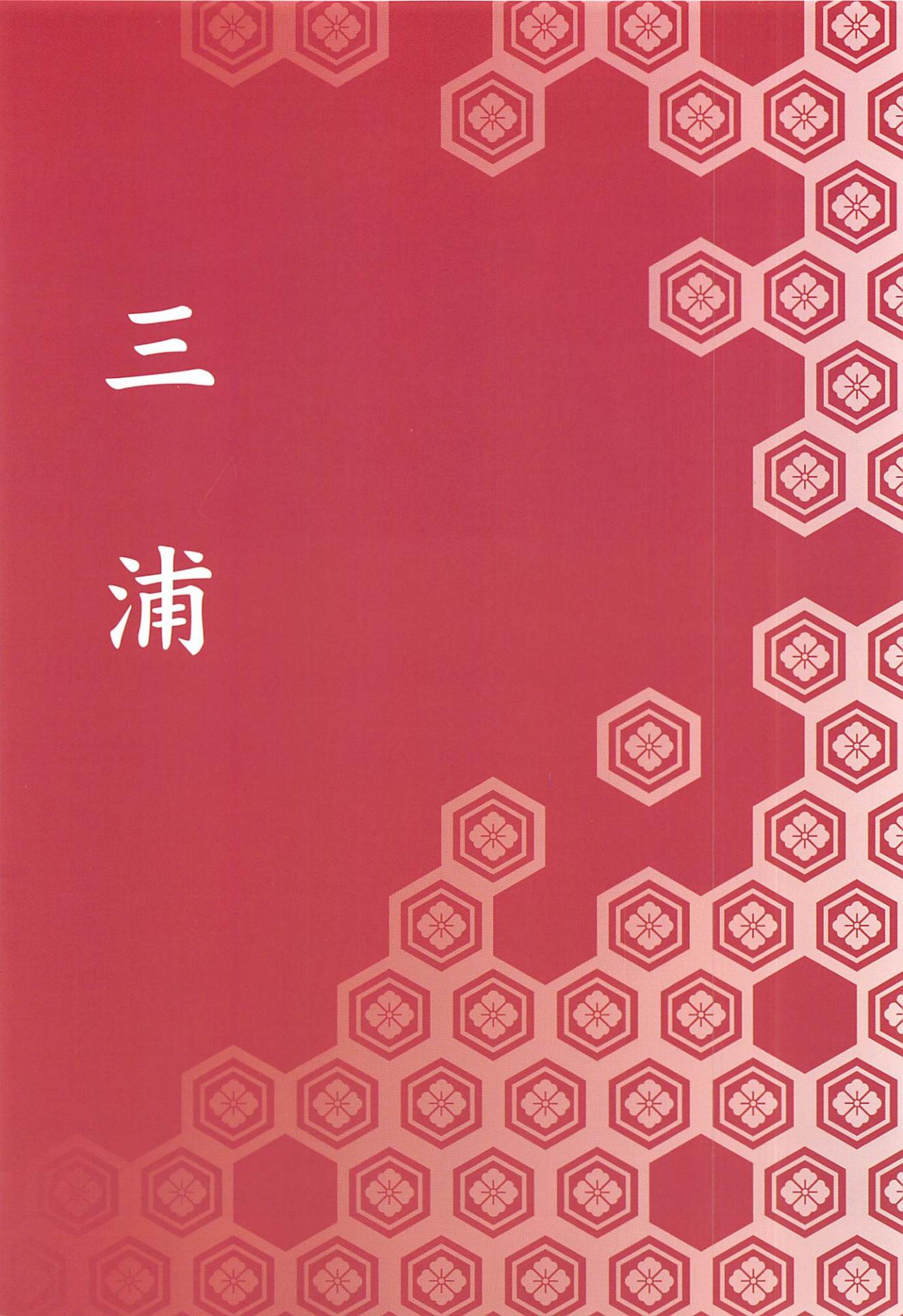
浅間神社宮司宅

Tel 〇四六一八八八一〇七五八

## 交 通

津久井浜駅下車、すぐ

三浦



# 横須賀市





# はくさんじんじゃ 白山神社

〒238-0102 三浦市南下浦町菊名149 鎮座

当社は元白山宮と称して三浦一族の臣、菊名左衛門重氏の守護神であり、菊名仲里の山林中（現社殿より見える小高い丘付近）に鎮座していた。



四) 江戸時代初期に村民相謀り現在の地に社殿を造営し、菊名の氏神として奉られた。

明治六年菊名の鎮守として「村社」に列格され、明治四十一年神明社、熊野神社、日枝神社、水間神社を合祀し、大正七年神饌幣帛料供進神社に指定された。

社殿は幾度も改築され、明治四十一年に本殿の敷地を掘り下げ幣殿を新造し拝殿を増築、なお石段並びに石垣も同時に新造した。現

仲里は菊名氏の別荘「浜御殿」があつた所で、また其の墳墓の地でもある。

三浦一族の滅亡と同時に菊名氏も滅びて、以来久しく社頭も荒廃にまかせてあつたが、貞享元年（一六八〇）江戸時代初期に村民相謀り現在の地に社殿を造営し、菊名の氏神として奉られた。

明治六年菊名の鎮守として「村社」に列格され、明治四十一年神明社、熊野神社、日枝神社、水間神社を合祀し、大正七年神饌幣帛料供進神社に指定された。

社殿は幾度も改築され、明治四十一年に本殿の敷地を掘り下げ幣殿を新造し拝殿を増築、なお石段並びに石垣も同時に新造した。現在の社殿は昭和四十五年の増改築の際に、耐火建築に改められた。周辺は農業、漁業ともに盛んな土地で、地域の氏神様として、今もなお大切にされている。

境内社金毘羅宮石段上にある「切妻造妻入形横穴古墳」は三浦市内でも最大級の古墳で、奥行き約六メートル、幅約三メートル、高さ一メートル七十センチの横穴で天井部分は美しく切妻形に削られ、柱の様に浮き彫りが施されて赤塗の跡が残っているため、奈良時代、水蛭郷と呼ばれていた当地を支配した豪族の墓とみられている。

神社より南西一キロメートルの田保谷戸という所に一年中涸れることのない水が湧き出ている場所がある。湧出口のうえに水間神社が祀られ、この水を飲むと乳の出が良くな

ると伝えられている。遠方よりこの水を汲みに来る方も多い。谷戸入り口の山上に菊名は菊名左衛門重氏の石碑があり、またその裏には菊名一族の五輪塔がある。

例祭日の夜、神社下の児童会館前

広場にて、神奈川県指定無形民俗文化財「あめや踊り」が奉納される。この踊りは、江戸時代の終わりに関東一円に広められ、当初の手踊りに

歌舞伎や地狂言の所作が加わり、次

第に盛んになっていった。現在は七演目が継承され踊られている。

（宮司菊池恵）



稲荷神社



参道



切妻造妻人形横穴古墳



社殿



（宮司菊池恵）



社号標

三 浦	交 通	連絡先	記 事	例 祭	御 神 徳	境 内 社	祭 神
白山神社宮司宅	白山神社宮司宅	白山神社宮司宅	神社近くの三浦海岸は関東有数の海水浴場。毎年八月には花火大会が行われ、大勢の観光客で賑わう。	十月二十三日 湯立神楽	伊邪那岐尊・伊邪那美尊 天照大神 国常立尊 (相殿)	金比羅神社 浅間神社・稻荷神社	伊邪 那 岐 尊 ・ 伊 邪 那 美 尊 天 照 大 神 (相 殿)
Tel〇四六一八八八一〇七五八	三浦海岸駅から剣崎まわり三崎行き、又は剣崎行きバスに乗り、白山神社で下車。徒歩三分				水歯別命 (相殿)		

# 走湯神社

〒238-0103 三浦市南下浦町金田373 鎮座



社歴は不詳だが、『南下浦村誌』に「走湯神社金田字宮ノ脇にある村社にして祭神は天忍穗耳尊である。当社は寛治元年（一〇八七）十一月伊豆

国賀茂郡走湯神社を遷し奉つたものであると伝えられ、明治維新頃までは走湯權現社と称した。』と記されている。

祭神の天忍穗耳尊は天照皇大神の御子で瓊瓈杵尊<sup>にぎのさと</sup>の御父である。

伊豆國走湯神社は古来、伊豆山大權現、走湯大權現と称され、明治時代に伊豆山神社と改称された。全国各地に鎮座する伊豆山神社や走湯神社などの総本宮である。

古くより伊豆半島と三浦半島とは漁業上も海上を船で往来し密接な関係があり、伊豆より移住してきた人々が郷里の走湯神社を勧請したものと思われる。

明治六年金田の鎮守とし

て「村社」に列格され、大正六年神饌幣帛料供進神社に指定された。大正十四年に社殿の大改修を行い、權現造朱塗り銅板葺きの社を造営した。

（宮司菊池恵）

## 祭 神

天忍穗耳尊・素戔鳴尊<sup>あめのおほしほみみのこ</sup><sub>すさののをのこ</sub>（相殿）猿田彦命<sup>さるたこのみこと</sup>（相殿）

山王社・三峰神社

十月十四日 湯立神楽

家内安全・疫病退散・五穀豊穰

金田漁港では毎週日曜日、朝市が行われている。

走湯神社宮司宅

Tel〇四六一八八八一〇七五八  
三浦海岸駅から鋸崎まわり三崎行き、又は鋸崎行きバスに乗り、金田で下車。徒歩三分

## 文 通

## 連絡先

## 記 事

## 境 内 社

## 祭 事

（相殿）

# しんめいしゃ 神明社 (まつわしんめいしゃ 松輪神明社)

〒238-0104 三浦市南下浦町松輪1634 鎮座



勧請の由来は不詳だが  
『新編相模國風土記稿』  
に「神明社 三社 村持」  
とあり、間口の「また様」、  
房作の「房作様」、片谷  
の浜の「片谷様」と呼ば

れる三社の神明社が、松輪の海岸近  
くに祀られていた。しかしいずれも  
境内が狭く参拝者が不便をしいられ  
ていたため、大正五年松輪の中央地  
である日枝神社跡地に社殿を建立し  
神明社三社、日枝神社、剣神社、稻  
荷社が合祀され、神明社と  
称するようになる。

明治六年松輪の鎮守として  
「村社」に列格され、大  
正十年神饌幣帛料供進神社  
に指定された。

房作と片谷の神明社は合  
祀後すぐに社殿は取り壊さ  
れてしまつたが、間口の神  
明社は昭和二十年代頃まで  
残つており、現在は小さな  
祠と灯笼が当時の面影を今  
に伝えている。

〈宮司 菊池恵〉

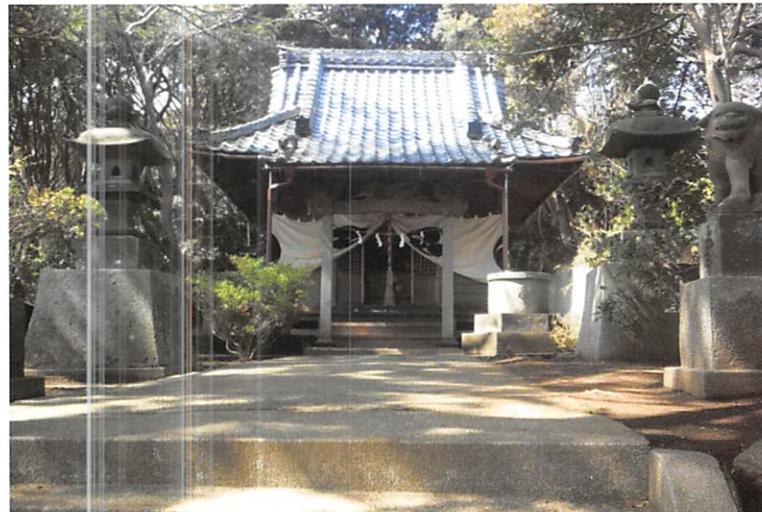
祭 神	祭 内 社	祭 例 祭	御 神 德	記 事	連 絡 先	交 通	文
天照皇大神・豊受大神 (相殿) 大己貴命(相殿)・保食神(相殿) 国常立尊(相殿)	淡島神社	七月十日 湯立神樂・二年に一度、屋台巡行	家内安全・五穀豊穣	松輪間口漁港の「松輪サバ」は、西の関サバと並ぶサバの最高級品。	神明社宮司宅	Tel ○四六一八八八一〇七五八 三浦海岸駅から剣崎まわり三 崎行き、又は剣崎行きバスに 乗り、剣崎で下車。徒歩三分	



鳥居と社号標

# しんめいじんじゃ 神明神社

〒238-0105 三浦市南下浦町毘沙門53 鎮座



当社の創建は詳らかでないが、この海辺、台地一帯は、泉州・堺あたりより移住してきた人が多いので、これらの人々が日頃崇敬する神を奉祀

して「村社」に列格された。

明治四十一年十月二十四日、伊勢

川公園の風車や相模湾の彼方に大島

皇大神宮の遙拝所であつたお伊勢山の神明社に白浜神社（毘沙門天）、天王社、大乘の八

が望める。

約書に、「大乗の八雲神社拝殿の材料を新築社殿の材料に使用する。」とある。昭和二年（一九二七）四月に遷宮の式を挙げ、昭和十二年七月二十五日社殿が竣工された。

大正十二年九月一日の関東大震災により社殿が倒壊してしまった。お伊勢山は村の南端にあり高所にて交通の便が悪く参拝者も少ないため、毘沙門、大乘、両集落から交通の便が良い岩堂山の東に面した山腹に社殿を造営することを決めた。

大正十五年五月二十七日に毘沙門、大乘、両部落の協

したのが当社の始まりと伝えられて

いる。

雲神社を合祀した。しかし

（宮司菊池恵）

## 祭 神

天照大神・事代主命  
（あまてらすおおかみ  
ことしろぬしのみこと）

素戔鳴尊  
（すさののをのここと）

家内安全・疫病退散・五穀豊穣

七月十二日 湯立神樂

## 祭 神

御神徳  
（みわくとく）

記 事  
（きじ）

跡の毘沙門洞窟弥生時代住居  
（しきょくの毘沙門どうくつ ゆうじょうじだいじゆきょく）

跡群がある。

## 連絡先

神明神社宮司宅  
（しんめいじんじゃぐうじやく）

Tel ○四六一八八八一〇七五八

三浦海岸駅から剣崎まわり三崎行きバスに乗り、大乗で下車。徒歩一分

# しんめいしゃ 神明社 (みやがわ 宮川の神明様)

〒238-0231 三浦市宮川町17-46 鎮座



当社の起源は、長享二年（一四八八）に伊勢国宮川の住人である松田修理が当村に来住し、郷里の伊勢神宮を当地の鎮守として奉斎した事に始

まつたと伝えられる。三崎地方は、伊勢国より漁業のため移り来て、生活する人々が多く、海女等は殆ど伊勢國の人であつた。したがつて当社を祀つた事例が多く、当社も数多くの人々により崇敬を受け、この地の氏神となつた。

明治六年宮川の鎮守として「村社」に列格され、大正八年神饌幣帛料供進神社に指定された。

宮川という地名は、伊勢の宮川から先祖が移住してきたので、その名がついたとされている。

〈宮司 菊池恵〉

例祭	境内社	神
天照大神・豊受姫命（相殿）	稻荷神社	
家内安全・五穀豊穣		
神社近くの宮川公園は、晴れた日には正面に宮川湾と大島が、西には富士山を望むことができる。夜には公園のシンボルである風車がライトアップされる。最近は、ドラマ、CM、映画などの撮影に利用されている。		



幟の彫刻

◆ 連絡先  
神明社宮司宅  
Tel ○四六一八八八一〇七五八  
三浦海岸駅から剣崎まわり三  
崎行きバスに乗り、宮川町で  
下車。徒歩五分

# すわじんじゃ 諏訪神社 (むこうがさきすわじんじゃ) 向ヶ崎諏訪神社)

〒238-0233 三浦市向ヶ崎町3-1 鎮座



勧請の由来は不詳だが、『古社調査事項取調書』に「当社は応仁年中（一四六七～一四六九）に信濃国諏訪大社を勧請した」と記されている。

また『新編相模國風土記稿』には「諏訪神社、村の鎮守なり、例祭八月二日、社地古松二十余株あり、村持とある。

明治六年向ヶ崎の鎮守として「村社」に列格され、大正十二年神饌幣帛料供進神社に指定された。

この地に伝わる伝説として、藤原資盈の家臣であつた太郎、次郎、三郎、四郎の四人が海南神社を中心として四隅に祀られたというものがある。太郎が向ヶ崎の諏訪神社に、次郎が宮城の住吉社に、三郎が城ヶ島の梶の三郎山に、四郎が城ヶ島の梶の三郎山にそれぞれ祀られたという。

諏訪の上の山腹に鎮座

※ 交 通

連絡先

記 事

例 祭

祭 神  
境内社

神

建御名方命・大山祇命(相殿)  
諏訪神社・稻荷神社・弁財天  
日枝神社(境外末社)

八月二十七日 湯立神樂・四年  
に一度、神輿渡御

家内安全・五穀豊穣・海上安全  
社の南にある大椿寺は源頼朝の別荘であった「椿の御所」跡であると伝えられる。

TEL ○四六一八八八一〇七五八  
三崎口駅から城ヶ島行き又は  
通り矢行きバスに乗り、椿の  
御所で下車。徒歩一分



参道の大鳥居

し、昔は、鳥居の辺りまで波が打ち寄せる浜辺であった。  
(宮司菊池恵)

# かいなんじんじや 海南神社 (城ヶ島海南神社)

〒238-0287 三浦市三崎町城ヶ島408 鎮座



『新編相模國風土記稿』に「元龜年中（一五七〇）（一五七二）三崎海南神社を勧請す。六月十八日祭る村民持下同じ」と記されている。また杉山家

に伝わる『非常御用留』には「三崎海南神社の分靈なり、元龜以前村民は毎月三日三崎海南神社に参拝していた。しかし暴風雨の時は渡航が難しいため、分靈を勧請し村社と定められたと伝えられる」とある。

古くは城ヶ島の東南、

遊ヶ崎海岸（宮ヶ崎）に鎮

座し、明治六年城ヶ島の鎮

守として「村社」に列格された。

明治十一年五月に暴風にて破損された社殿を現在地に奉還した。

祭神の一柱である梶三郎命は、藤原資盈の家臣の一

人で、船の梶取りをしていたことからそう呼ばれている。

明治の中頃まで例祭日に

御船唄を唄いながら、神輿の海上渡

御が行わっていた。この御船唄は保存会によつて現在も唄い継がれ、祭礼の時などに披露される。

境内は城ヶ島の中央の丘にあり、三崎港に出入りする船を見守るよう

に社殿が鎮座している。

（宮司 菊池恵）

祭 神

藤原資盈・源頼朝（相殿）  
梶三郎命（相殿）

例 祭

一度 神輿渡御  
七月十七日 湯立神樂・五年に

御神徳  
記 事

家内安全・海上安全・大漁満足  
島内には城ヶ島公園、城ヶ島  
灯台、北原白秋記念館などが  
あり、年間を通して観光客で  
賑わう。

連絡先

海南神社宮司宅

交 通

Tel ○四六一八八八一〇七五八  
三崎口駅から城ヶ島行きバス  
に乗り、城ヶ島漁港前で下車。

徒歩一分

# しんめいしゃ 神明社 (二町谷神明社)

〒238-0244 三浦市白石町15-1 鎮座

当社は、伊勢の人がこの里に来て漁業を営み定住し、伊勢の皇大神宮を勧請した事に始まると伝えられる。

## 『新編相模國風土記稿』

によると二町谷村には神明社が三つあり、その一つは寛文三年（一六六三）五月朔日（一日）勧請をされたとある。また、そのほかの社は年代を伝えてないが、共に鎮守として毎年六月に代わる代わる祭りごとを行つていると記されている。

境内は二町谷の丘上にあり、住宅街の中とは思えないほど静寂な場所に社殿が鎮座している。

〈宮司菊池恵〉



『三崎郷土史考』に三つの宮は、明治時代には、元宮・中宮・端宮と呼んでいたとある。明治四十一年（一九〇八）に合祀され、元宮が海外にあり、白石の神明社を端宮と呼んでいたことなどが記されている。また口碑によると応仁年中（一四六七～一四六九）に勧請したとも伝わる。

明治六年二町谷の鎮守と

◆  
連絡先  
◆  
交通

神明社宮司宅  
TEL〇四六一八八八一〇七五八  
三崎口駅から浜諸磯行きバスに乗り、二町谷で下車、徒歩三分

◆  
祭 神  
◆  
天照皇大神  
稻荷神社・大六天神社  
七月十七日 湯立神樂  
◆  
境内社  
◆  
御神徳  
◆  
記 事  
◆  
例 祭  
◆  
家内安全・海上安全・大漁満足  
社の南西にある歌舞島は、源  
頼朝が歌舞の宴を開いた事か  
らその名がついた由緒ある地  
である。

して「村社」に列格され、昭和五年神饌幣帛料供進神社に指定された。

# しんめいしゃ 神明社 (浜の神明様)

〒238-0224 三浦市三崎町諸磯1872 鎮座



当社は建久・正治年間（一一九〇～一二〇〇）の勧請とあるのみにて、その由緒沿革は詳らかでないが、昔、伊勢地方から移住した人々の、日

頃崇敬している天照皇大神を分祀し奉つたものと伝えられている。また『新編相模國風土記稿』に「村の鎮守なり 例祭六月十九日、九月四日。光宝院持末社若宮」と記されている。

明治六年諸磯の鎮守として「村社」に列格され、大正二年神饌へいはくりょうさうしんじんじや幣帛料供進神社に指定された。

諸磯の浜は油壺の対岸にある漁村で、相模湾の彼方に大島を遙かに眺める洵に壮大な風光である。

境内は諸磯湾の南突端にあり、社殿の背後は森を越えて海に臨み諸磯の集落を正面に鎮座する。

〈宮司 菊池恵〉



稻荷神社と若宮神社

連絡先	御神徳	祭 神
神明社宮司宅	若宮神社・稻荷神社	天照皇大神・日本武尊 <small>（相殿）</small>
Tel ○四六一八八八一〇七五八	例 祭	大山咋命 <small>（相殿）</small>
一分	家内安全・五穀豊穣・海上安全	山王日枝神社・日枝神社
三崎口駅から浜諸磯行きバスに乗り、浜諸磯で下車。徒歩	大漁満足	あまたてらすおおかみ
	諸磯湾には、国内でも有数の規模と歴史を誇る油壺京急マリーナがある。	おおやまくいのなご

# かみすわしゃ 上諏訪社

〒238-0112 三浦市初声町三戸1091 鎮座

御祭神・建御名方命は、  
たけみなかたのみこと

いる。

信濃国諏訪大社の御祭神である。当社に祀られた由緒沿革は詳らかではないが、元禄六年（一六九三）の勧請と伝えられて

明治六年三戸の鎮守として「村社」に列格され、明治四十一年下諏訪社、神明社、山王社、三島社を合祀し、昭和二年神饌幣帛料供進神社に指定された。

境内社に八雲神社があり、延享元年（一七四四）の勧請と伝えられる。

神社前の浜には、九尺四

方もある大きな石が二つあります。この大石はその昔、江戸城築城のために運んでいた廻船が海上で大風にあい、船から落ち流れ着いたものといわれている。地元の人からはカンコロ石と呼ばれている。

社殿は三浦半島西海岸相模湾に面し、富士山を望め

神	祭	境内社	例祭	記事	連絡先
建御名方命・八坂刀売命 <small>(相殿)</small>	天照大神 <small>(相殿)</small>	八雲神社	七月十五日直前 土・日、八雲祭	神輿渡御 獅子舞	十月二十五日 湯立神楽
國常立尊 <small>(相殿)</small>	大山祇命 <small>(相殿)</small>	家内安全・五穀豊穢・海上安全 大漁満足			
神社前の三戸浜は、映画、ドラマ、CMなど様々な撮影が行われ、夏には海水浴客で賑わう。					

上諏訪社宮司宅  
TEL〇四六一八八八一〇七五八  
三崎口駅から徒歩二十分



る風光明媚な景勝地に鎮座している。

（宮司菊池恵）



彫物の社号額

# わかみやじんじや 若宮神社 (若宮様)

〒238-0111 三浦市初声町下宮田3726 鎮座



当社は、永正年中（一五〇四～一五二二）に北

条早雲が油壺の新井城を攻め三浦道寸と合戦をし

た際に兵火に焼かれて、

社宝、記録など一切を焼

失したので由緒沿革は知ることができない。

寛文十三年（一六七三）に社殿を再建し、宮田郷の総鎮守として崇敬を集め、宮田郷が上宮田と下宮田の二つの村に分かれてからは下宮田の

鎮守となつた。貞享三年（一六八六）に社殿を改修し、

寛政八年（一七九六）には拝殿を再建したという。現在の社殿は平成元年に造営され、同時に社務所も建設された。

明治六年下宮田の鎮守として「村社」に列格され、大正四年神饌幣帛料供進神社に指定された。

例祭日に行われる奉納相撲は、江戸時代より行われていたと記録があり、古く

は、横須賀や葉山の社寺でも行われていたが、今ではこの若宮神社ただ一社だけとなつた。現在は「初声つ子相撲大会」という名称で地元の小学生や中学生が競い合つていて、

は、横須賀や葉山の社寺でも行われていたが、今ではこの若宮神社ただ一社だけとなつた。現在は「初声つ子相撲大会」という名称で地元の小学生や中学生が競い合つていて、

（宮司菊池恵）

## ✿ 祭 神

大鷦鷯尊・天照皇大神（相殿）  
倉稻魂命（相殿）  
国常立尊（相殿）

## ✿ 例 祭

九月上旬の土・日

土曜日 例大祭 奉納相撲

日曜日 宵宮祭 神輿渡御

神輿渡御、湯立神樂

祭囃

## ✿ 御神徳

家内安全・五穀豊穣・勝運

神社近くの三浦市総合体育館

（潮風アリーナ）は国体の相撲会場に使用され、現在も多く市民がスポーツやイベントなどで利用している。

若宮神社宮司宅

## ✿ 連絡先

Tel 0461-888-10758  
三崎口駅から横須賀方面行きバスに乗り、宮田で下車。徒歩二分

# しらはたじんじや 白旗神社 (神明白旗神社)

〒238-0114 三浦市初声町和田1746 鎮座



当社の由緒沿革として  
は、鎌倉幕府侍所の別当  
であつた和田義盛が北条  
討伐の兵を挙げたが、合  
戦に破れ一族は鎌倉の由  
比ヶ浜にて自刃したが、

五十年を経た弘長三年（一二二六三）  
和田の村民が義盛の報恩のため和田  
の地に社殿を設け白旗神社と称する  
ようになる。

明治六年和田の鎮守として「村社」  
に列格され、昭和三年神饌幣帛料供  
進神社に指定された。

白旗神社の名を得たの

は、和田義盛が文治二年

（一一八六）平家討伐に出

陣し大勝を收め、城内を開

放して紅白の幟建て城内鎮

守の八幡社に戦の勝利を報

告したことに始まり、領民

を交えた酒席での勝利の舞

「初声」を舞つたとされて  
いて「初声町」の名もそこ

から始まつたといわれてい  
る。

境内は和田、入江新田、

下宮田の田園風景が一望に眺められ  
る高台にあり、神明造りの社殿に拝  
殿、幣殿、本殿が設けられている。

（宮司菊池恵）

## 祭 神

和田義盛・天照大神  
(相殿)

建御名方命(相殿)

国常立尊(相殿)

素盞鳴尊(相殿)

市杵島姫命(相殿)

宇迦之魂命(相殿)

十月十七日 湯立神楽

家内安全・五穀豊穢・疫病退散

## 勝運

## 記 事

## 御 神 德

## 例 祭

## 連絡先

## 交 通

## TEL

〇四六一八八八一〇七五八

三崎口駅から横須賀方面行き  
バスに乗り、和田で下車。徒

歩三分

白旗神社宮司宅

社の東には、キヤンブやマリ  
ンスポーツなどが体験できる  
海洋野外教育施設、三浦ふれ  
あいの村がある。

# ひえじんじや 日枝神社 (こうえんぼうひえじんじや)

〒238-0115 三浦市初声町高円坊430 鎮座



文禄年間（一五九二）  
一五九六）高円坊の住人、  
川名利右衛門の創建と伝  
えられている。

明治六年高円坊の鎮守  
として「村社」に列格さ

高円坊という地名は、和田義盛の孫にあたる和田朝盛が、この地に来て削髪して「高円坊」という僧侶になり家来十五人と共に、この地を開墾して住んだのでこの名前が地名になつたと伝承されている。その家來たちの名字は、川名、加藤、金崎、鈴木、青木、小林、根岸、米本、長沢で、今もこの地にその子孫達が暮らしている。

神社前の畠の中にはと朝  
盛塚の碑が立つてゐる。

境内は三浦半島の台地上にあり、社殿は広葉樹に囲まれ、美しい森となつていて、当郷の人々からは大井

れ、明治四十二年に神明社と稻荷社を合祀した。

高円坊という地名は、和田義盛の孫にあたる和田朝盛が、この地に来て削髪して「高円坊」という僧侶になり家来十五人と共に、この地を開

墾して住んだのでこの名前

が地名になつたと伝承され

ている。その家來たちの名

字は、川名、加藤、金崎、

鈴木、青木、小林、根岸、

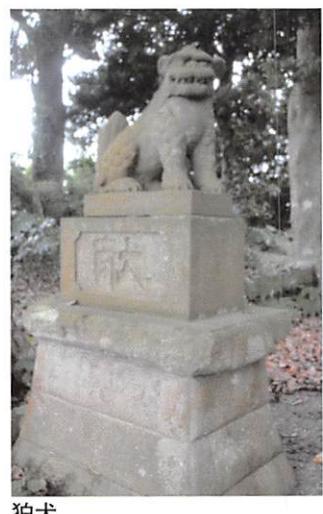
米本、長沢で、今もこの地

にその子孫達が暮らしてい

る。

戸の森と呼ばれている。

（宮司 菊池恵）



祭 神

稻荷神社

十一月一日 湯立神樂  
くにじこなづかこと  
あまたてらすおおかみ  
宇迦之魂命（相殿）

（相殿）

境 内 社

稻荷神社

家内安全・五穀豊穣

御 神 德

（相殿）

記 事

（相殿）

例 祭

（相殿）

連絡先

日枝神社宮司宅

TEL〇四六一八八八一〇七五八

三浦海岸駅から横須賀市民病院行き、又は衣笠十字路行き  
バスに乗り、仲尾で下車。徒歩五分

# 諏訪神社

〒238-0101 三浦市南下浦町上宮田655 鎮座

当社は三浦市最北部に鎮座。一直線に伸びる参道の先には往昔、白砂清祥の美しい海岸が広がっていた。

ば、穏やかな長い海岸線と東京湾口を一望でき、江戸末期、幕府が外国船に備え、近くに海防陣屋を設けたのも、むべなることである。

神社裏手の丘に登れ崇敬も篤く、境内には彦根藩士奉納の石灯籠の一部が残っている。

現在の社殿は江戸時代創建のもので、拝殿及び内陣鞘宮は、鎌倉の宮大工河内長左衛門源長義の作であり、当今誠に得難いものである。

社叢は鬱葱として、境内



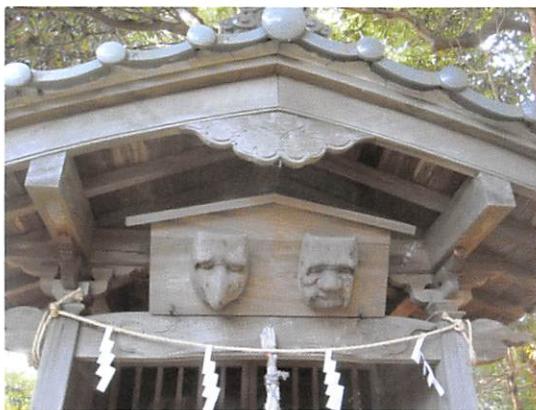
には三浦市指定保護樹第一号の「ホルトの木」通称「なんじやもんじやの木」の神木がある。この大木は、ホルトガルのオリーブの仲間

には、また境内社の琴平社には珍しい鳥天狗の絵馬が奉納されている。

例大祭は、毎年七月二十七日に行われ、氏子区域内をい組・ろ組・組三基の山車（地元では「屋台」と



社殿となんじやもんじやの木



鳥天狗の絵馬



なんじゃもんじゃの木

呼んでいる)が勇壮なるお囃子と共に巡行する。参道にさしかかる頃になると、若者衆は屋台に取り付けられた台車を外してしまい、時には激しく揺すり、時には回転させたりなどしながらこれを担ぎ上げ、昇殿太鼓と共に鳥居前に集結。互いに磨きあげた撥さばきを競い合って披露する。参道と屋台に飾りつけられた提灯の灯りのなかに浮かび上がるそ

犬の足元には、其々に可愛らしい仔居近くの狛犬の姿を見ることができる。

〈宮司 松原正則〉

の様は、誠に活力溢れんばかりであり、地元上宮田の真夏の風物詩といえよう。

なお、鳥



狛犬と石灯籠



三峰社（左）と稻荷社（右）

✿	✿	✿	✿	✿				
交	連	例	境	祭				
通	絡	祭	内	神				
相	御	神	德	神				
殿	神	德	殿	神				
武	運	長	久	・	大	漁	豐	作
運	長	久	・	・	木	花	咲	也
長	久	・	・	・	咲	也	姫	神
久	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・
天	照	皇	大	・	木	花	咲	也
照	皇	大	・	・	木	咲	也	姫
皇	大	・	・	・	木	咲	也	神
・	・	・	・	・	木	咲	也	・
金	平	比	古	・	・	・	・	・
山	社	古	・	・	・	・	・	・
平	・	古	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・
琴	・	・	・	・	・	・	・	・
平	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・
三	・	・	・	・	・	・	・	・
峰	・	・	・	・	・	・	・	・
社	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・
稻	・	・	・	・	・	・	・	・
荷	・	・	・	・	・	・	・	・
社	・	・	・	・	・	・	・	・

毎年七月二十七日  
Tel ○四六一八八八一〇四四四  
京浜急行「津久井浜駅」より  
徒歩十三分、「三浦海岸駅」より  
り徒歩十五分

# いいもりじんじゃ 飯森神社

〒238-0111 三浦市初声町下宮田字飯森282 鎮座

祭神の大己貴命は、正徳元年（一七一二）飯森の住人、高梨角右衛門が勧請したと伝えられ、「子之神社」と称していた。また、菅野姫命は慶長年

間（一五九六～一六一五）に当郷の妙音寺住職・賢栄法印の勧請と伝えられ、「姥神社」と称していたが、明治四十四年子之神社と合祀し、両社を総称して飯森神社と呼ぶようになった。

御神体は『新編相模國風土記稿』の「若宮神社」の項に「子之神社、大黒天石像を置く正徳元年（一七一二）建つ。妙音寺持」と記されているが、現在は木造の大黒天が祀られている。

神社が鎮座する飯森の地は海上のあちらこちらから見えることから、「山あて」といつて航海をする船が、自船の位置を確認したり、漁船が漁場を定めたりするときに目安にしていた森である。



社号標

◆連絡先  
◆交 通  
TEL ○四六一八八八一〇七五八  
三浦海岸駅から三崎方面行き  
バスに乗り、半次で下車。徒步  
五分

◆祭 神  
◆境 内 社  
◆稻 荷 社  
◆大 己 貴 命  
◆家 内 安 全  
◆五 穀 豊 積  
◆十 月 十 四 日  
◆湯 立 神 樂  
◆御 神 德  
◆記 事  
◆例 祭  
◆稲 荷 社  
◆以前は谷合ののどかな田園地  
帶であつたが、近くに三崎口駅  
が開通し現在は住宅街となつ  
ていて。

〈宮司菊池恵〉

# しらひげじんじゃ 白鬚神社

〒238-0225 三浦市三崎町小網代1793鎮座



当社は小網代湾の最も奥まった岸辺の丘に鎮座。緑の森に朱塗りの社殿が映えて美しい。一方、かな灣の彼方に靈峰富士が白く大きく聳え立つ景勝の地にある。

小網代湾は、古くから廻船寄港地、また三崎港からの避難港として全国的に知られており、御祭神である中筒男命は航海安全・大漁満足の神として古くから崇拝されてきた。天文年間、当村漁夫が夜中、網にかかつた東帶姿の御神体を祀ったのが起源と伝えられている。

社殿の前には、打てば金属音のする「カンカン石」別名「鳴石」がある。これは、「きこいかり」という錨のおもりで、昔、摂津の国の中筒男命（七福神の中の長安寿老人とも）船頭が、海上安全を祈願して奉納したものである。

境内には、三浦市指定保護樹の大きな

藤の木があり、毎年、その季節になると見事な花を咲かせる。

（宮司 松原正則）



カンカン石

連絡先	神 祭
交 通	御神徳
長寿	例 祭
TEL〇四六一八八八一〇四四四	（七福神の中の長安寿老人とも）
京浜急行「三崎口」駅よりバス、「シーボニア入口」下車。徒歩七分	航海安全・大漁満足

# かいなんじんじゃ 海南神社

〒238-0243 三浦市三崎4-12-11 鎮座



由緒

御祭神・藤原資盈公は、天児屋根之命の苗裔である。九州太宰少弐広嗣の

五代の孫に当り、五十六代・清和天皇の御宇、皇

謀拳に荷担しなかつた為、讒訴で追討の罪を蒙つて筑紫の配所に航する途中、暴風に遭遇して貞觀六年（八六四）

十一月一日父子三人、郎党五十三人は当地に着岸した。その後、資盈公は土

地の長に推戴され、房総の海

賊を平定し、郷民を教化して

特に漁業の知を開き、文化の基礎を築くなど福祉に努力したので、郷民の尊崇の念も篤く、貞觀八年（八六六）に公が歿すると、その亡骸を海に沈め、祠を花暮海岸に建立

して祀った。後、花暮の祠を

本宮として天元五年（九八二）に現地に社殿を造営し、三浦

一郡の總社となる。その後、

承応二年（一六五三）三月、正一位（吉田家神道の宗源

宣旨（せんじ）に進められ、享保四年（一七一九）三浦半島の総鎮守となる。明治六年（一八七三）郷社に列し、同四〇年神饌幣帛料供進（じんじや）神社に指定された。

平成二十三年本殿、幣殿、拝殿が県の重要文化財に、平成二十一年御神木（おおいかちよう）大公孫樹（だいこうそんじゅ）、（頼朝公手植えと伝えられる樹齢約八百年）が市の天然記念物に指定される。御手洗池に架する神橋（ぎばし）の擬宝珠（ぎぼし）（平成二十一年市指定重要文化財）は、三崎御船奉行・向井左近将監（むかいさこんじょうげん）忠勝が寛永十七年（一六四〇）に奉納したものである。

神事と芸能

一月十五日午前十時・ちゃつきらこ奉納舞（祭神・資盈公の妃の盈渡姫が土地の娘に教えたとの口碑があり、また歌舞島に遊んだ源頼朝公の旅の慰めにと里女の歌に合せて、童女達が即興的に小竹を叩いて踊つたとも伝え

られている、昭和五十一年五月、国の重要無形民俗文化財に指定、平成二十一年ユネスコ無形文化遺産に登録されている。



ちゃつきらこ



お練り獅子

四月下旬・境内社・相州海南高家神社（御祭神・磐鹿六雁命）感謝祭・奉納料理奉告祭・包丁式。  
六月第一土曜八雲祭（お天王様）。  
七月海の日前土日大祭・神輿渡御・お練り獅子（木遣りによる県下最大の

付記 平安時代の頃、三浦為継は社領を寄進し、社頭を改築し後、三

浦家の祈願所とした。

尚、三浦大介義明は氏神である当社参拝の折、「神事狐合」（白と赤の狐が闘い、白狐が勝った）で源平の争覇を占い、神意により伝えられる。相州海南高家神社・祭神磐鹿六

雌雄二頭の行道獅子、市の無形民俗文化財）。

十一月初末の翌申・酉の両日里神楽殿にて演じる、昭和四十六年一月、市社の神楽師会の人達が神代神樂を神楽と称し、その翌、申・酉の両日、当神社の神樂師会の人達が神代神樂を神楽奉納舞（十一月初旬の未の日を出居戸と称し、その翌、申・酉の両日、当神社の神樂師会の人達が神代神樂を神楽と称し、その翌、申・酉の両日、当神社の神樂師会の人達が神代神樂を神楽奉納舞（十一月初旬の未の日を出居戸

雁命は日本書紀（七二〇年）第十二代景行天皇が、悲劇的な最後をとげた日本武尊、東征の跡を偲んで、三浦半島から安房上総に巡行された時、天皇の料理賄方を司つた神。

〈宮司米田光郷〉

### ◆御祭神

藤原資盈公 盈渡姫 地主大神  
相殿に天照大御神 豊受氣売大神  
速須左の男命 善我良みちさねこう  
天之鳥船命 篠龍弁財天を祀

### ◆境内社

御神社・庖瘡神社  
水神・龍神社・福德稻荷神社  
神馬社・金毘羅宮  
海南高家神社・大神宮

### ◆連絡先

三浦市三崎四一一一一  
電話 ○四六一八八一—三〇三八  
f a x ○四六一八八一—三一四  
E-mail kainan.jp@viola.ocn.ne.jp  
URL <http://www6.ocn.ne.jp/~kainan>  
京急三崎口駅より京急バス三崎港行き約二〇分  
三崎港バス停より徒歩約三分

# はらいなりじんじゃ 原稻荷神社

〒238-0223 三浦市原町606-1 鎮座

はらいなりじんじゃ  
原稻荷神社由緒

三浦半島唯一宗教法人  
に認定された原稻荷神社  
は三浦市原区の氏神様と  
して、古より住民の深く  
信仰するところである

が、その創立は江戸時代とも又はそ  
れ以前とも言われているが定かでは  
ない。唯境内に奉納されている眷属  
(お狐様)には元治元年(一八六四年)  
刻み込まれた年号を読み取れること  
ができる。

祭神は「宇迦之御魂大  
神」「須佐之男命」の二柱  
を祀る。

三浦市郷社海南神社との  
所縁は、貞觀六年(八六四年)  
藤原資盈、その妃盈渡姫と家臣が三崎に漂着した  
時、海岸に藻を拾いに来て  
いた原部落の者が藤原資盈  
主従を助けて案内した。と  
云う故事があつたことから

戦前までは、海南神社の祭  
礼には原区の氏子が雨の  
面、風の面をかぶつて神輿  
に運ばれていた。

毎年九月三日が例祭日であるが、  
近年種々の都合により九月第一日曜  
日に当社宮司によつて祭典が執り行  
われ、原区芸能保存会の祭囃子の和  
太鼓や獅子舞が奉納される。

渡御の道案内の先導に立つ「謂れ」  
だと伝えられている。

明治四十二年三月十二日政令によ  
り郷社海南神社に合祀されていた  
が、或る日稻荷大明神が原の古老の  
枕元に立たれ原のお社に帰りたい旨  
のお告げがあつたので、昭和二十七  
年区民の総意によつて、元の境内地  
に再建した。その後、本殿の老朽化  
により平成十四年七月新築した社が  
現在の原稻荷神社である。

毎年九月三日が例祭日であるが、  
近年種々の都合により九月第一日曜  
日に当社宮司によつて祭典が執り行  
われ、原区芸能保存会の祭囃子の和  
太鼓や獅子舞が奉納される。

四年ごとの大祭には神輿、山車が



区内を練り歩き、各所で祝詞を奏上、獅子舞を舞いながら、家内安全、五穀豊穣、商売繁盛を祈る。

原妙義神社由緒

群馬県甘楽郡の妙義神社から御分靈、この地に鎮座したと伝えられる境内のお清水鉢には日露戦争に従軍し無地凱旋した里人が奉納した旨が記され、さらに銀杏の木の大きさか

妙義さま（当地ではこの様に親しくお呼びしている）は開運、商売繁盛、火伏の神、縁結びの神、農耕、学問の神として崇められている。

本社、群馬県妙義神社の御祭神は日本武尊、豊受大神、菅原道真公、

權大納言長親卿創建宣化天皇二年（一四〇〇余年前）。〈宮司 米田光郷〉

ら推察するとかなり以前のことと思われる。

妙義さま（当地ではこの様に親し

御祭神  
「宇迦之御魂大神」  
「須佐之男命」

境内社  
妙義神社  
地主弁財天

山の神  
疱瘡神

例祭  
九月第一土・日曜日 神幸祭  
九月十七日 山の神  
三月十二日 疱瘡神

獅子舞奉納

原稻荷神社・妙義神社

地主弁財天

家内安全・五穀豊穣・商売繁盛

御神徳  
原稻荷神社社務所

連絡先  
所願成就

文通  
原稻荷神社社務所

三浦市原町三番十三号

TEL〇四六一八八二一六五七七

〇四六一八八一一三五〇四

京急三崎口駅より三崎東岡行

きバス  
栄町バス停下車徒歩十分



原地主弁才天



山の神



神幸祭

## あとがき

鎌倉・横須賀・三浦連合支部が結成十年という節目を迎えた。このたび支部の記念事業としてこの「鎌倉・横須賀・三浦・逗子・葉山の神社」を発刊することになりました。

昨年、支部内にて「神社案内冊子委員」が立ち上げられ、若手の神職を中心に約一年かけてこの本の編集に取り組む事になりました。当初、この神社案内冊子をどのように形で作成するか話し合い、パンフレットの様な物、パソコンや携帯端末から閲覧できる物など、様々な意見が出てきました。そんな中、教化の一環として支部内の全一二七社の情報を網羅した一冊の本を作ろうとの意見が出てきて、それでは子や孫の代に迄残る立派な物、手に取り地域の神社に参詣する際の資料となる物をとすることになり、一つのコンセプトが生まれました。

最後に各神社の宮司様に原稿をお願いし、快くご了承を得て、ご寄稿戴きました事、深く感謝しお礼申上げます。編纂の都合上、全体の文章のバランスをとる為、ご寄稿戴いた文章に手を加えさせて戴いた事、ご容赦願いたく存じます。また幾度も原稿の校正を確

た。編集作業のスケジュールを作成し、原稿の依頼、原稿の回収、文章の校成、写真の撮影など、其々の委員が日々の社頭での奉仕の合間に作業を進めました。昨年の春に原稿を依頼しましたが、すぐに夏になり例祭シーズンとなり、秋には七五三、そして年末年始の迎春準備と慌ただしく年間の行事が進む中、編集作業が遅れることは多々ありました。編集作業の苦労もありましたが、委員会で会議をしている横でオムツを付けた子供が参加しているといった和やかな委員会でもあり、一年を通して編集作業を行つたことにより若手の神職同士の結束がより強くなつたように思います。

認し、足繁く各宮司様の処に通つて戴いた各委員にも感謝申し上げるとともに出版にあたり文明堂印刷(株)の会長様をはじめ担当の矢部さんスタッフ皆さんには、親切なご助言、お世話を戴きました事、ここに記

して心からの感謝の意を表したいと思います。

この「鎌倉・横須賀・三浦・逗子・葉山の神社」を手に取り、其々の地域の氏神様にお参りし、地域の歴史・文化に興味をしめして戴けたら幸いです。

平成二十六年六月四日

神奈川県神社庁鎌倉横須賀三浦連合支部

神社案内冊子委員会

委員長	大井 靖法
副委員長	早川 誉幸
谷口 征司	菊池 真
田中八千穂	山口 真弓
早川 道子	
大井 芳恵	

# 鎌倉・横須賀・三浦・逗子・葉山の神社

—三浦半島127社案内—

平成二十六年七月

第一版発行

【非売品】

編著者 神奈川県神社庁鎌倉横須賀三浦連合支部神社案内冊子委員会

監修者 神社案内冊子委員会 委員長（八幡神社宮司）大井 靖法  
副委員長（天神社禰宜）早川 誉  
委員（白山神社権禰宜）菊池 真  
（鶴岡八幡宮権禰宜）谷口 征司  
（諏訪神社禰宜）田中八千穂  
（春日神社権禰宜）山口 真弓  
（天神社権禰宜）早川 道子  
（八幡神社権禰宜）大井 芳恵

総括責任者 鎌倉横須賀三浦連合支部長（鶴岡八幡宮禰宜）國生 護衛

発行者 文明堂印刷株式会社 代表取締役 渡辺 隆路

発行所 文明堂印刷株式会社 〒二三九一〇八二一 神奈川県横須賀市東浦賀一一三一一二  
TEL ○四六一八四一一〇〇七四(代)  
FAX ○四六一八四一一〇〇七一  
URL <http://www.bunmeidou.co.jp>  
E-mail:bp@bunmeidou.co.jp